

門川町地域公共交通網形成計画

平成 27 年 5 月

宮崎県門川町

目次

第1章 門川町地域公共交通網形成計画の概要	1
1 計画策定の背景・目的	
2 計画の構成	
3 計画の位置付け	
4 対象範囲と計画期間	
第2章 門川町の地域概況と公共交通の現状	4
1 地勢	
2 人口	
3 通勤通学・買い物の移動状況	
4 主要施設の分布	
5 観光動向	
6 公共交通等の運行状況	
(1) 鉄道	
(2) 路線バス	
(3) タクシー	
(4) 一般貸切旅客運送事業者	
(5) その他の移動サービス	
(6) 門川町の公共交通関連の支出状況	
7 門川町内の交通空白地域	
第3章 住民の生活実態及びニーズの把握	17
1 平成25年度アンケート調査結果の分析	
2 門川町内における交通弱者の把握調査	
(1) 区長へのグループインタビュー調査	
(2) 個別訪問による聞き取り調査	
3 交通事業者および主要施設のニーズ把握	
4 既存路線バスの利用実態調査	

第4章 門川町における公共交通の現状と課題	53
1 新たな需要の創出に向けた利用促進および意識喚起の必要性	
2 町民の外出実態・ニーズを踏まえた公共交通網の構築	
3 交通弱者の日常生活をサポートするための移動支援	
4 広域移動を支える鉄道・既存路線バスのサービスの維持・向上	
5 利用しやすい待合環境・運行しやすい走行環境の改善	
第5章 門川町の地域公共交通網の形成に向けた方針	55
1 門川町が目指すまちづくりの方針	
2 将来に向けた地域公共交通の課題と対応策の方向性	
第6章 地域公共交通網の形成に向けた具体的方策	59
1 基本方針	
2 門川町地域公共交通網形成計画の役割	
3 本計画の区域	
4 計画の目標および評価指標	
5 目標を達成するために行う事業および実施主体	
6 計画期間	
7 達成状況の評価と見直しの体制	
8 「公共交通を守り育てていく」町民意識の醸成	
9 将来像を実現するための段階的な計画の推進	

第1章 門川町地域公共交通網形成計画の概要

1 計画策定の背景・目的

(1) 計画策定の背景

門川町には、鉄道は JR 日豊本線、路線バスは宮崎交通および宮交タクシー、その他民間タクシーが公共交通として運行している。バス路線は、日向市～延岡市間、日向市～門川町～美郷町北郷区間を往復する 2 路線があるが、バスの利用者数は年々減少を続けており、国や県、門川町を含む関係市町村の財政支援で支えられている。バスの主な利用は、高齢者の通院や買い物など、生活に欠かすことのできないものとなっており、高齢社会の進展により、今後更に公共交通の重要性が高まっていくと考えられる。

また、町内には交通空白地域（バス停及びバス停車場所から半径 1 km 以上離れている地域）があり、高齢のため自動車が運転できない等、移動手段が限られる交通弱者が存在する。平成 25 年度に門川町地域公共交通対策協議会（現在、門川町地域公共交通会議）が行ったアンケート調査の結果では、自家用車の保有率が約 8 割を占める一方で、将来運転できなくなることへの不安を抱える町民や、バス停まで移動できない住民が公共交通を利用したくても利用できない状況等が課題として把握された。

しかしながら、これらの課題を受け、「コミュニティバス等地域公共交通を導入すべき」と判断し運行を開始しても、利用率の向上が期待できないバスの運行となることが考えられる。県内では、コミュニティバス等を運行している自治体で黒字の団体は 1 団体もない状況もあり、運行を行う場合においても、健全な運営が図られる必要がある。

本計画においても、公共交通の健全な運営により、持続的な公共交通体系を構築するため、公共交通を必要とする交通弱者をより詳細に把握し、本町の実情にあった公共交通体系の検討が必要である。また、“利用される公共交通”へ見直すことで、将来にわたって公共交通を維持していくために、行政や交通事業者だけでなく、地域住民や町内の事業者などの多様な主体の関与が不可欠といえる。長期総合計画等、“本町が目指すまちづくりの将来像”の実現に向けた公共交通のあり方を示し、地域が進むべき取組みの方向性を示す必要がある。

(2) 計画の目的

本計画では、公共交通を必要とする交通弱者等の外出実態やニーズを適切に把握したうえで、地域が目指す将来像の実現を支える公共交通のあり方を検討するとともに、町民が利用しやすい公共交通サービスの確保・維持に向けた取組みを示すことを目的とする。

2 計画の構成

本計画の構成は、以下に示す。

門川町の地域概況と公共交通の現状

門川町の地勢や人口動向、施設の立地状況、公共交通の運行状況などを客観的なデータから整理し、公共交通を取り巻く現状を把握する。



住民の生活実態及びニーズの把握

各種調査を通じて、町民の外出実態やニーズ、交通弱者の状況、事業者からみた公共交通への意向、路線バスの利用状況等を整理する。



門川町における公共交通の現状と課題

基礎的なデータや各種調査結果から得た内容を踏まえ、門川町全体の公共交通の現状と課題を整理する。



門川町の地域公共交通網の形成に向けた方針

長期総合計画や都市計画マスタープランなど、門川町が目指すまちづくりの将来像を踏まえ、公共交通の課題に対する対応策を示す。



門川町地域公共交通網の形成に向けた具体的方策

門川町が目指す将来像の実現を支える公共交通のあり方・基本方針を示すとともに、目標および評価指標、目標を達成するために行う事業・実施主体、計画期間を示す。また、評価・見直しを行う体制を整理し、住民の意識醸成を含む計画の推進方法について示す。

3 計画の位置付け

本計画は、門川町が目指す将来像の実現を支える公共交通のあり方を示すものであり、上位計画の長期総合計画に基づき、各種関連計画に示される方針と整合を図りながら策定するものである。



4 対象範囲と計画期間

(1) 対象範囲

本計画は、門川町全域を対象とする。



(2) 計画期間

本計画の計画期間は、事業の見直し期間、門川町を取り巻く社会情勢の変化等を考慮し、平成27年度～平成31年度の5箇年とする。

第2章 門川町の地域概況と公共交通の現状

1 地勢

門川町は宮崎県北部に位置し、面積は 120.51 km²となっている。町内には、海浜地域、平野部に商業地域や工業地域、山間部には総面積の約 84%を占める森林地域など、多様な地域構成がみられる。

広域的な位置関係では、北側に延岡市、南側には日向市、西側には美郷町が立地している。主な交通基盤として、平野部には JR 日豊本線、国道 10 号が南北を縦断しており、東西には国道 388 号が美郷町へ通じている。また、高速ネットワークとして東九州自動車道「門川 IC」が北側に立地し、平成 28 年度には「門川南スマート IC」の完成が予定されている。



門川町の位置

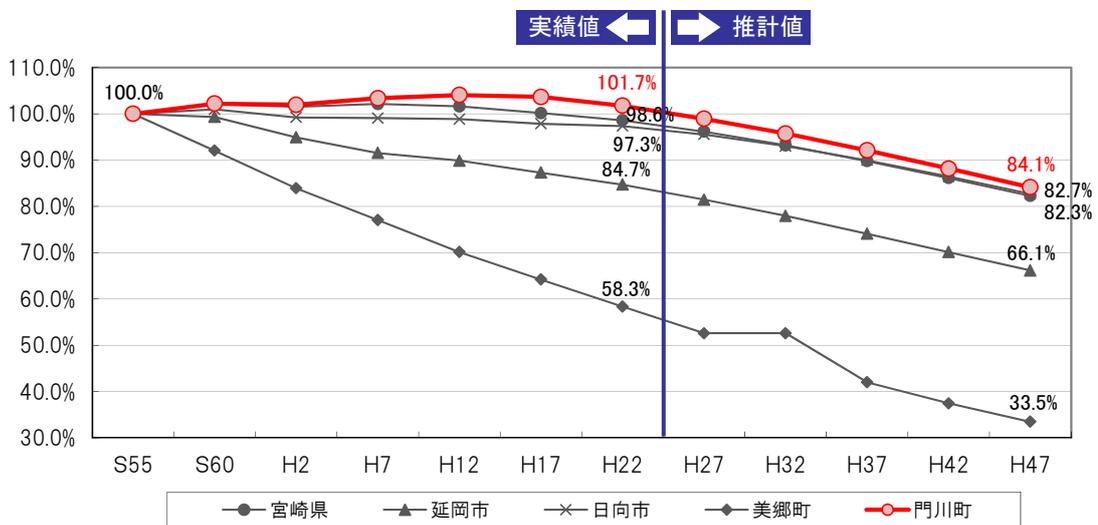


門川町周辺の地形図

2 人口

(1) 居住人口の推移

- ・ 門川町の居住人口は 18,854 人(平成 22 年)で、平成 12 年から人口が徐々に減少している傾向がみられる。
- ・ 近隣他市町の人口推移と比較すると、門川町の人口減少割合は少なく、人口数を維持している (S55 時点の人口に対して H22 人口は 101.7%)。
- ・ 将来推計においては、平成 27 年以降の人口減少が進行し、10 年後(平成 37 年)には約 10%の人口減少が予測されている。



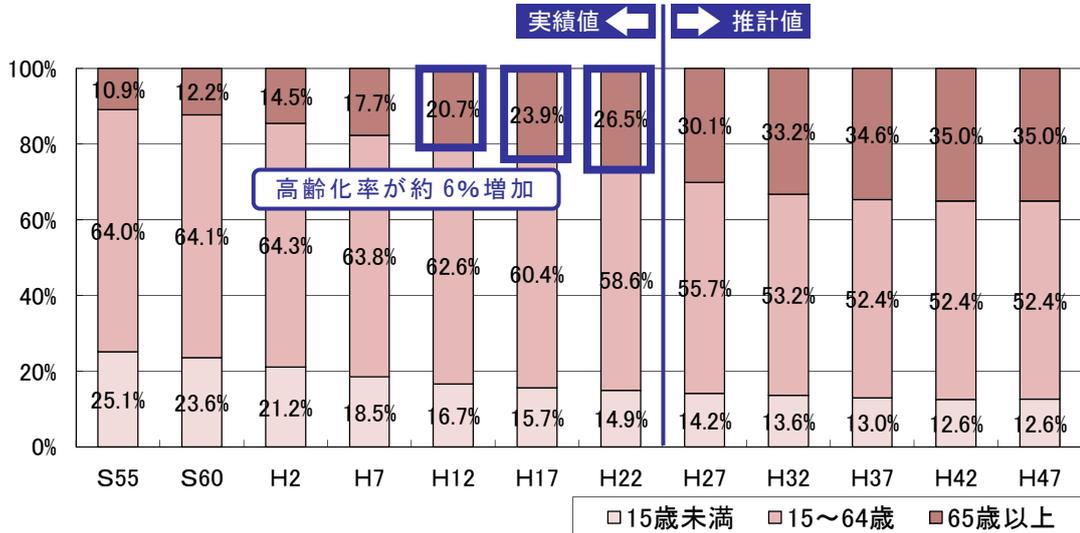
項目名	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	H32	H37	H42	H47
門川町	18,533	18,941	18,894	19,155	19,287	19,207	18,854	18,330	17,740	17,068	16,339	15,590
伸び率(S55=1)	100.0%	102.2%	101.9%	103.4%	104.1%	103.6%	101.7%	98.9%	95.7%	92.1%	88.2%	84.1%
延岡市	154,881	153,835	146,989	141,751	139,176	135,182	131,182	126,155	120,731	114,738	108,588	102,425
伸び率(S55=1)	100.0%	99.3%	94.9%	91.5%	89.9%	87.3%	84.7%	81.5%	78.0%	74.1%	70.1%	66.1%
日向市	64,948	65,547	64,431	64,341	64,186	63,555	63,223	62,047	60,409	58,406	56,143	53,713
伸び率(S55=1)	100.0%	100.9%	99.2%	99.1%	98.8%	97.9%	97.3%	95.5%	93.0%	89.9%	86.4%	82.7%
美郷町	10,709	9,855	8,984	8,251	7,509	6,874	6,248	5,630	5,630	4,497	4,011	3,583
伸び率(S55=1)	100.0%	92.0%	83.9%	77.0%	70.1%	64.2%	58.3%	52.6%	52.6%	42.0%	37.5%	33.5%
宮崎県	1,151,587	1,175,543	1,168,907	1,175,819	1,170,007	1,153,042	1,135,233	1,107,322	1,073,112	1,033,671	991,365	947,279
伸び率(S55=1)	100.0%	102.1%	101.5%	102.1%	101.6%	100.1%	98.6%	96.2%	93.2%	89.8%	86.1%	82.3%

出典：各年国勢調査 (S55～H22)、国立社会保障・人口問題研究所による市区町村別将来推計 (H22 国勢調査に基づく)

人口の推移

(2) 年齢別人口および行政区別人口

- ・年齢別人口では、平成12年から平成22年の10年間で高齢化率が約6%増加しており、将来推計においても、徐々に少子高齢化が進行していくことが予測されている。
- ・平成26年度の行政区別人口では、門川町全体の高齢化率は27.8%、高齢化率50%以上の地区が1地区存在している。



出典：各年国勢調査（S55～H22）、国立社会保障・人口問題研究所による市区町村別将来推計（H22国勢調査に基づく）
門川町における年齢別人口の推移

門川町の行政区別人口

地区名	人口	世帯数		高齢化率	
		65歳以上	65歳以上		
西門川	松瀬	37	24	8	56.8%
	三ヶ瀬	247	114	20	42.9%
	上井野	246	110	23	41.1%
	大内原	87	46	19	47.1%
	小計	617	294	70	43.6%
門川小学校区	南町1区	532	231	40	33.8%
	南町2区	217	91	20	31.3%
	南ヶ丘	643	290	47	35.1%
	上ノ町	674	276	55	23.4%
	本町	531	216	43	27.7%
	東栄町	1053	461	78	29.1%
	西栄町	1261	536	90	24.7%
	宮ヶ原	1329	550	61	22.0%
	竹名	112	49	7	32.1%
	旭町	200	89	21	35.0%
	尾末東	118	63	13	35.6%
	後向	147	63	15	40.8%
	中尾	311	137	32	36.3%
	下納屋	473	222	47	33.8%
	上納屋1区	188	91	21	37.8%
	上納屋2区	161	79	24	39.8%
	上納屋3区	171	78	18	36.8%
小計	8121	3522	632	29.1%	

地区名	人口	世帯数		高齢化率		
		65歳以上	65歳以上			
五十鈴小学校区	小松	116	49	11	34.5%	
	大丸	136	54	6	35.3%	
	小園	262	121	28	38.9%	
	城屋敷	287	117	21	36.2%	
	中山	188	85	21	39.4%	
	五十鈴	393	148	23	29.0%	
	平城東	840	373	78	30.6%	
	城ヶ丘	602	225	20	20.4%	
	平城西	943	402	66	20.4%	
	梅ノ木	386	146	19	22.8%	
栄ヶ丘	544	215	31	16.0%		
小計	4697	1935	324	26.2%		
草川小学校区	中村	339	146	16	33.0%	
	加草1区	582	235	26	18.7%	
	加草2区	697	280	40	25.8%	
	加草3区	353	161	29	33.4%	
	加草4区	603	248	46	26.9%	
	加草5区	168	72	15	32.7%	
	庵川西	1813	333	702	78	18.4%
	須賀崎					
	庵川東	492	205	37	37.4%	
	牧山	124	56	14	36.3%	
谷ノ山	24	9	2	37.5%		
小計	5195	2114	303	25.2%		
合計	18,630	7,865	1,329	27.8%		

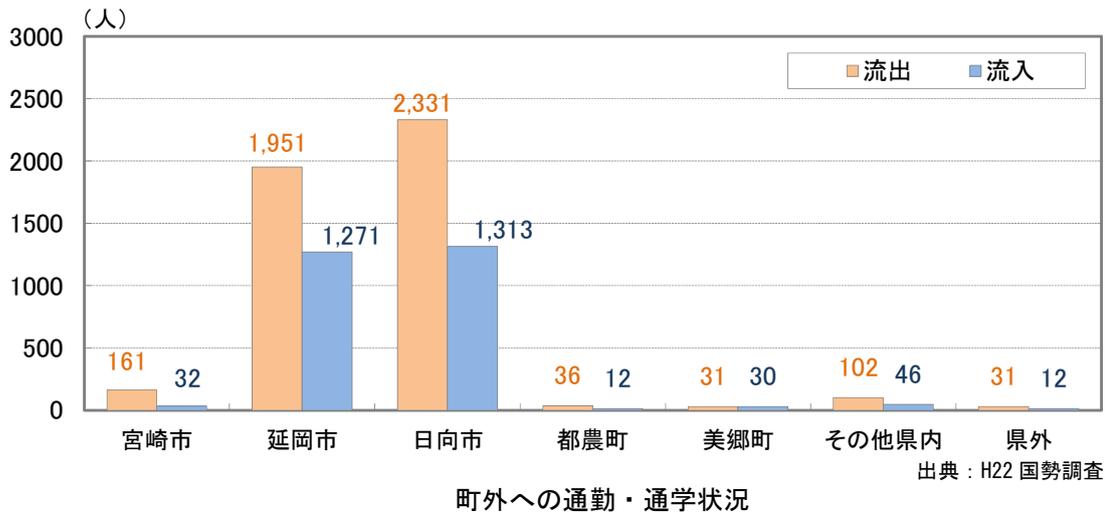
出典：門川町行政区別年齢別総計票（H26. 8. 31 時点）

3 通勤通学・買い物の移動状況

(1) 通勤通学者の流動

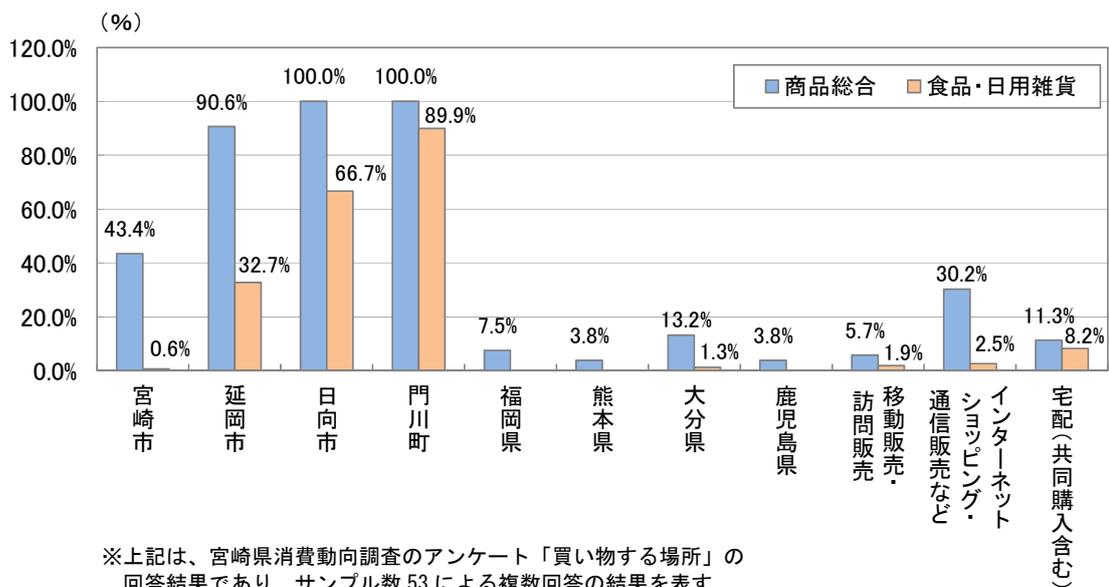
門川町民の通勤・通学者数は 9,087 人であり、そのうち町内へ通勤・通学する者が約半数（4,365 人）となっている。

門川町在住の通勤・通学者	9,087人	門川町への通勤・通学者	2,795人
(うち、町内で通勤・通学する者)	4,365人		



(2) 買物流動

買い物先については、「商品総合」では門川町と日向市の割合が高く、延岡市、宮崎市が続く。一方で、「食品・日用雑貨」は門川町や日向市、延岡市に買い物の圏域が絞られる。



※上記は、宮崎県消費動向調査のアンケート「買い物する場所」の回答結果であり、サンプル数 53 による複数回答の結果を表す

出典：H21 宮崎県消費動向調査 (H22. 3)

門川町民の消費動向

4 主要施設の分布

門川町周辺において主要施設は、以下の図のように立地しており、門川町民の外出先として延岡市や日向市の施設も含まれている。以下の図は、平成 25 年度アンケート調査で外出先として挙げられた内容をもとに、施設を整理している。



施設分布図（広域）



施設分布図（市街地部）

5 観光動向

門川町の観光入込客は 445,160 人(平成 24 年)であり、県内客が約 90%を占めている。町内の主要施設では「かどかわ温泉 心の杜」に年間 222,128 人(平成 25 年)が訪れ、1 日平均約 640 人(推定)が利用している。

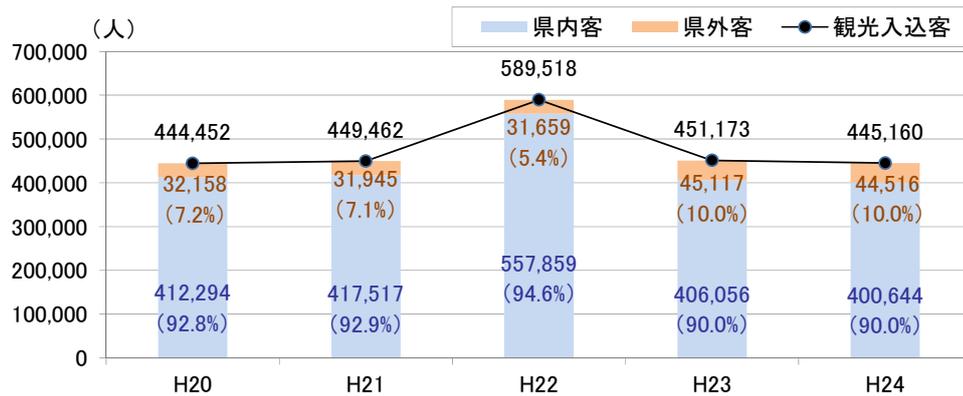
そのほか、レジャー目的となる「門川海浜総合公園」や「乙島」、海産物の販売や飲食物の提供をおこなう「海遊物産館 うみすずめ」などの利用者も多い。



かどかわ温泉 心の杜



海遊物産館 うみすずめ



出典：H20～H24 宮崎県観光入込客統計調査結果

門川町の観光入込客数

町内の主要施設の利用者数 (H25)

施設名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年合計 (人)
かどかわ温泉 心の杜	23,125	19,354	20,576	17,643	17,068	17,601	15,593	18,578	17,404	16,558	17,211	21,417	222,128
門川海浜総合公園	10,000	7,200	8,900	10,000	10,500	7,300	24,000	15,000	8,600	12,300	12,350	8,300	134,450
海遊物産館 うみすずめ	2,463	2,641	3,416	3,221	3,989	3,124	3,521	3,945	3,188	2,650	2,415	1,434	36,007
ジェイズカントリークラブ日向コース	2,670	2,559	2,102	1,960	2,332	2,016	1,932	1,471	1,772	2,049	2,266	2,258	25,387
門川神社	14,000	700	600	800	600	400	700	600	700	700	900	1,200	21,900
遠見山森林公園	3,000	800	3,000	3,000	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	18,800
中山神社	15,000	200	50	100	50	50	50	50	50	50	50	50	15,750
サバイバルアイランド 乙島	100	70	200	250	250	250	650	650	250	250	250	250	3,420
合計	70,358	33,524	38,844	36,974	36,789	31,741	47,446	41,294	32,964	35,557	36,442	35,909	477,842

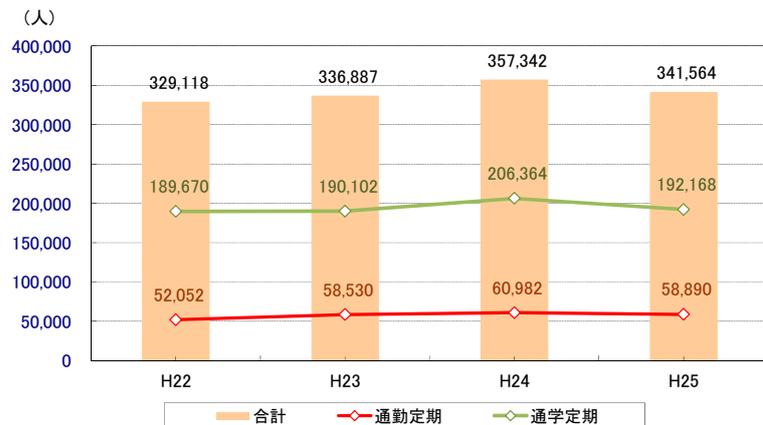
出典：H25 門川町観光地入込客数調査 (門川町 独自調査)

6 公共交通等の運行状況

(1) 鉄道

本町の平野部には、JR 日豊本線が南北を縦断するように運行しており、町内には門川駅が立地している。門川駅は、1 日平均 935 人（平成 25 年）の乗降客が利用しており、平成 22 年～25 年において、年間 33 万人～36 万人を推移している。全体の 50%以上を通学定期の利用者が占めており、通勤定期の利用者は約 17%である。

また、門川駅に常駐する切符販売員は 2 名雇用されており、門川町から観光協会へ常駐費用の補助を行っている。



種別	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	乗降客数(人)	割合(%)	乗降客数(人)	割合(%)	乗降客数(人)	割合(%)	乗降客数(人)	割合(%)
普通	87,396	26.6%	88,255	26.2%	89,996	25.2%	90,506	26.5%
通勤定期	52,052	15.8%	58,530	17.4%	60,982	17.1%	58,890	17.2%
通学定期	189,670	57.6%	190,102	56.4%	206,364	57.7%	192,168	56.3%
合計	329,118	100%	336,887	100%	357,342	100%	341,564	100%

出典：九州旅客鉄道(株)提供資料

門川駅の乗降客数



JR 日豊本線の運行路線図

(2)路線バス

門川町に運行する路線バスは、宮崎交通(株)および宮交タクシー(株)が運行しており、日向市～延岡市間を北上・南下する路線、日向市から本町を經由し美郷町北郷区間を往復する路線の2路線となっている。

日向市～延岡市路線は、地域間幹線系統として国・県の協調補助により維持が図られ、一部日向病院乗り入れ分について、門川町および日向市が財政支援を行っている。また、イオンタウン日向～小原線は、廃止路線代替バスとして維持されており、運行欠損額を日向市、門川町、美郷町の1市2町で負担している。

路線バスの系統別運行状況 (H24.10～H25.9)

運行系統				運行エリア			年間実績
分類	路線名	キロ程 (km)	運行回数 (回)	起点	主な経由地	終点	輸送人員 (人)
延岡 ↕ 日向	延岡～原町～東細島～宮ノ上	28.4	4.5	延岡	原町・東細島	宮ノ上	33,017
	延岡～日向病院～東細島～宮ノ上	29	0.5	延岡	日向病院・東細島	宮ノ上	3,308
	イオンタウン日向～一ヶ岡～レーヨン	27	4.0	イオンタウン日向	一ヶ岡	レーヨン	21,836
	イオンタウン日向～延岡～レーヨン	25.5	7.0	イオンタウン日向	延岡	レーヨン	56,525
日向 ↕ 小原	イオンタウン日向～字納間～小原	49.9	4.0	イオンタウン日向	字納間	小原	15,891
合計		175	22				134,947

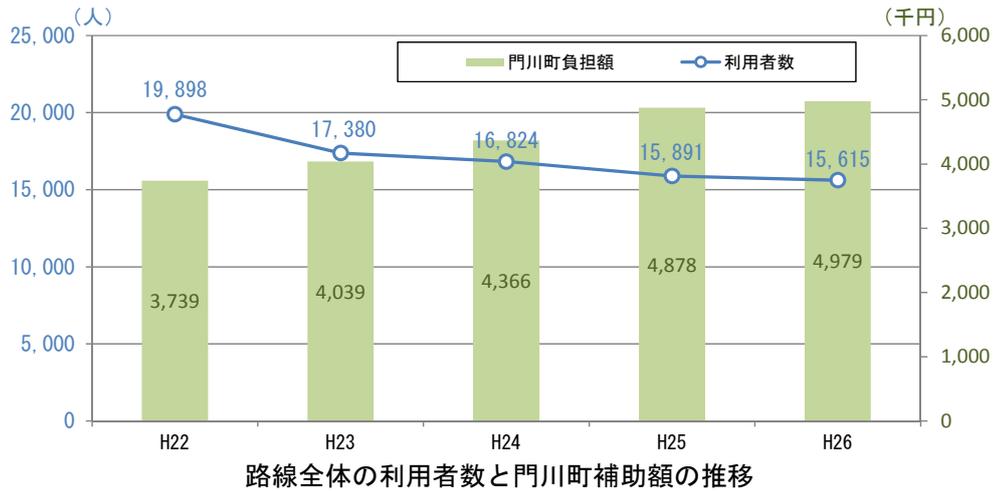
出典：宮崎交通(株) 提供資料



路線バスの運行路線図

【廃止路線代替バス（イオンタウン日向～小原）への財政支援状況】

- ・廃止路線代替バス（イオンタウン日向～小原）に対して、門川町は約 500 万円の財政支援を行っている。日向市、門川町、美郷町の 1 市 2 町で財政支援を行っているものの、利用者数は年々減少しており、門川町の補助額が増加している。



廃止路線代替バスの運行状況の推移

年度	キロ程 (km)	運行回数 (回)	実績走行キロ (km)	乗車人員 (人)	運賃収入 (千円)	運行費用 (千円)	補助額 (千円)		利用者1人あたり補助額 (円)
							門川町補助		
平成22年度	49.9	4.0	145,708	19,898	11,297	21,799	10,502	3,739	528円
平成23年度	49.9	4.0	146,307	17,380	10,453	21,799	11,346	4,039	653円
平成24年度	49.9	4.0	146,706	16,824	9,535	21,797	12,263	4,366	729円
平成25年度	49.9	4.0	145,908	15,891	8,097	21,800	13,703	4,878	862円
平成26年度	49.9	4.0	145,808	15,615	7,814	21,800	13,986	4,979	896円

出典：宮崎交通(株)・宮交タクシー(株) 提供資料

(3) タクシー

門川町に営業所を運営するタクシー会社は、上日向タクシー(株)および宮児タクシー(株)の2社となっている。

門川営業所の運行状況

会社名	車両数	利用者数	時間帯
上日向タクシー(株) 門川営業所	小型 7 台		昼:病院、買い物 夜:飲食店(日向)
宮児タクシー(株) 門川営業所	小型 6 台	平均 10~15 人/日台 (多い時 30 人弱/日台)	昼:病院、買い物 夜:飲食店(日向)

(4) 一般貸切旅客運送事業者

貸切事業の運行事業者として、(有)門川交通観光が営業を行っている。平成 25 年度からは門川町のスクールバス事業の委託を受け、その他冠婚葬祭等のバス運行を行っている。

(有)門川交通観光の運行状況

会社名	車両数	運行内容
(有)門川交通観光	中型 3 台 小型 7 台	・視察研修 ・冠婚葬祭の送迎 ・観光ツアー(JA 延岡) ・スクールバスなど

(5) その他の移動関連サービス

① スクールバス

門川町の小中学校のうち、西門川小学校・中学校は特認校として指定を受けており、校区外から通学する生徒のために送迎バスを運行している。

運行概要

導入年度	平成 21 年度
利用者数	平成 25 年度 計 42 人 (小学生 28 人 中学生 14 人)
運行路線	①上町~庵川西~須賀崎~西栄町~西門川 ②上町~南町~東栄町~平城~丸口~西門川
運行時間	登校時 7:08 発~7:45 着 下校時 ①16:00 発~各降地 ②18:00 発~各降地

②かどかわ温泉心の杜 無料送迎バス

かどかわ温泉心の杜では、施設利用者の無料送迎を行っており、年間 9,243 人（H24）が利用している。無料送迎バスは、延岡市や日向市東郷町へも運行しており、門川町内での利用者数は年間 3,092 人、1 日平均 15.3 人が利用している。

運行概要

導入年度	平成 22 年度
利用者数	平成 24 年度 計 9,243 人（1 日あたり平均利用者 33.6 人）
運行路線	火曜日①松瀬～上井野～小松～田中病院 ②中村～平城～門川駅 ③牧山地区（2 往復）※8 人乗りワゴン車
	水曜日④南町～南ヶ丘～役場～尾末東～後向～下納屋～上納屋 ⑤尾末～下納屋
	木曜日⑥竹名～宮ヶ原～城屋敷～五十鈴～平城～門川駅～加草
	金曜日⑦三ヶ瀬～上井野～城屋敷～五十鈴～尾末東～納屋～加草 ⑧南町～南ヶ丘～役場～中須～尾末東～納屋～加草
運行車両	2 台（28 人乗りバス、8 人乗りワゴン車）

③悠々バス購入助成補助事業

高齢者の交通の利便性を向上し、もって高齢者福祉の増進を図ることを目的として、宮崎交通㈱が発行する高齢者定期券（以下、悠々バス）を購入する高齢者に対し、購入費の補助を行っている。本事業は平成 24 年 6 月から開始され、門川町在住 70 歳以上の方を対象とし、悠々バス購入費の 1/2 の額に対して補助を行うものである。

④人工血液透析患者通院補助事業

じん臓機能の障がいを持ち、人工腎臓による血液透析療法を受けている者に対し、通院に要する交通費の一部を助成する事業を行っている。門川町在住の透析患者を対象とし、延岡市までのバス料金の 1/2 に相当する額を限度として助成を行っている（月額助成額は別表による）。

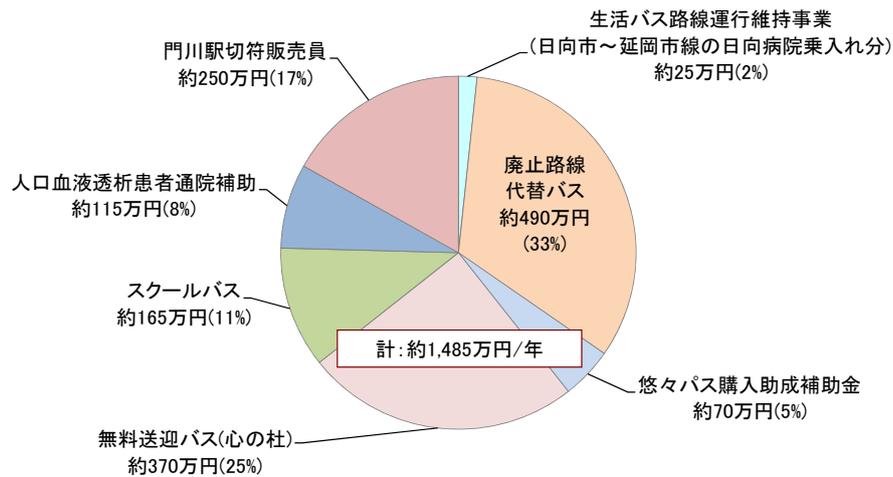
月額助成額

自宅から病院までの片道距離	月額助成額
0km～10km 未満	2,000 円
10km～20km 未満	4,000 円
20km 以上	6,000 円

出典：門川町人工血液透析患者の通院交通費の助成に関する要綱

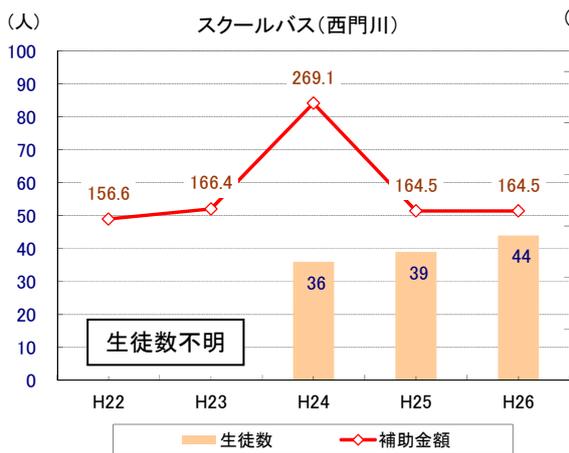
(6)門川町の公共交通関連の支出状況

平成 25 年度における門川町の公共交通関連補助額をみると、路線バス関連の補助は、日向市～延岡市線（日向乗入れ）への補助が約 25 万円（2%）、廃止路線代替バスへの補助が約 490 万円（33%）、悠々バス購入費の補助が約 70 万円（5%）となっている。そのほか、心の杜無料送迎バスが約 370 万円（25%）、スクールバスが約 165 万円（11%）、人工血液透析患者の通院補助が約 115 万円（8%）、門川駅切符販売員の委託費が約 250 万円（17%）であり、年間計 1,485 万円の支出を行っている。

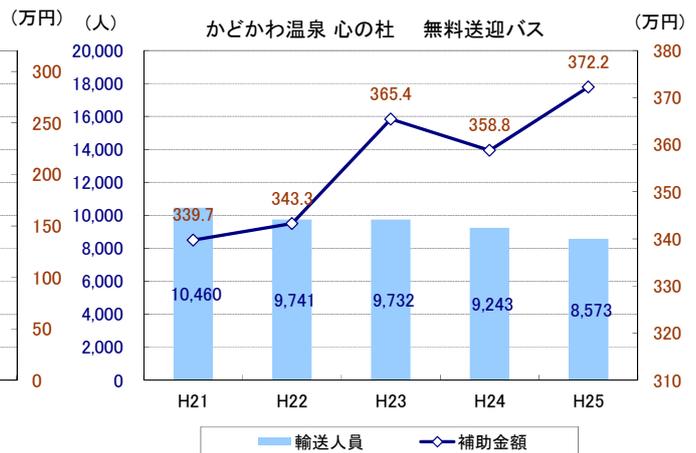


公共交通関連の支出状況 (H25)

【参考：スクールバスおよび心の杜無料送迎バスの利用・収支状況】



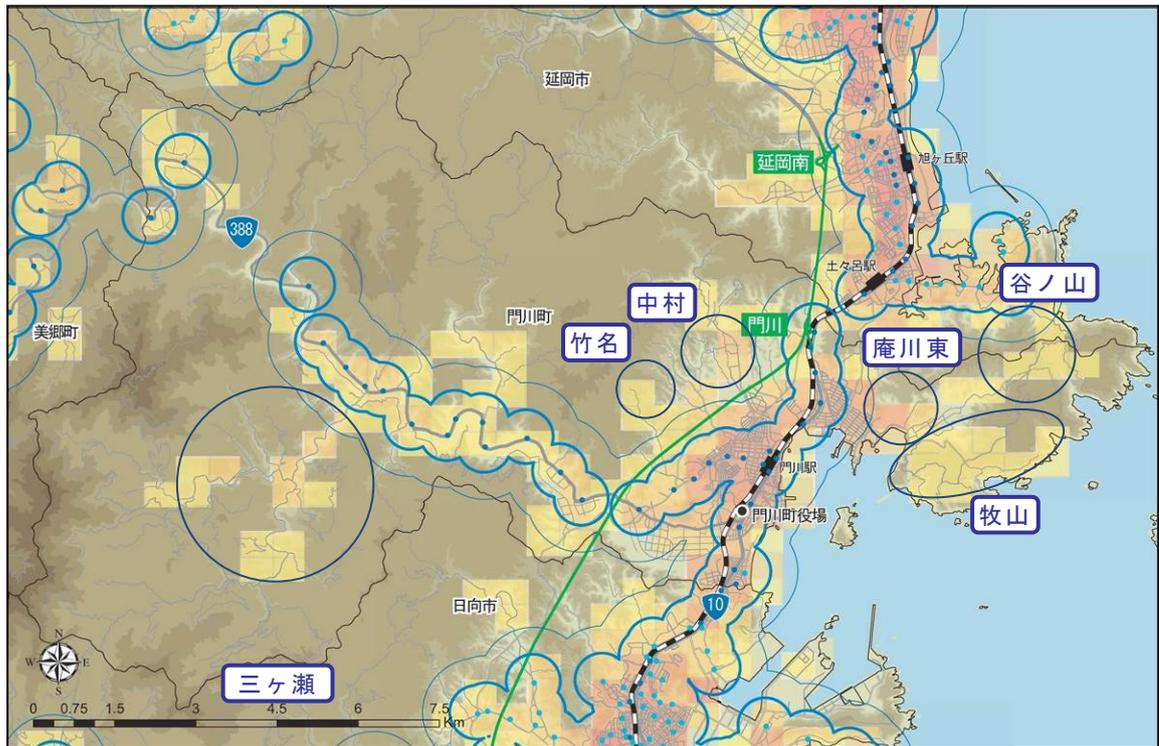
スクールバスの利用・収支状況



心の杜無料送迎バスの利用・収支状況

7 門川町内の交通空白地域

平成 25 年度には、門川町地域公共交通対策協議会において、バス停から 1km 以上の圏域を交通空白地域と設定している。門川町内のバス停から 1km 以上の圏域を抽出すると、三ヶ瀬地区、竹名地区、中村地区、庵川東地区、牧山地区、谷ノ山地区の計 6 地区が該当し、バスを利用したくても利用できないエリアにあると推察される。



門川町の交通空白地域

第3章 住民の生活実態及びニーズの把握

1 平成 25 年度アンケート調査結果の分析

平成 25 年度に実施した公共交通に関するアンケート調査の結果を用いて、門川町民の移動実態や現状の公共交通へのニーズ、今後公共交通を利用する見込みがある潜在的な需要の検証を行った。

調査期間：平成 25 年 10 月 15 日（火）～平成 25 年 10 月 31 日（木）

調査対象：門川町内の行政区別に無作為抽出した 1,500 票

（交通空白地域 500 票 / 交通空白地域以外 1,000 票）

回収状況：全 720 票 回収率 48%

（交通空白地域 207 票 41.4% 交通空白地域以外 513 票 51.3%）

■アンケート調査項目

【交通空白地域・交通空白地域以外 共通】

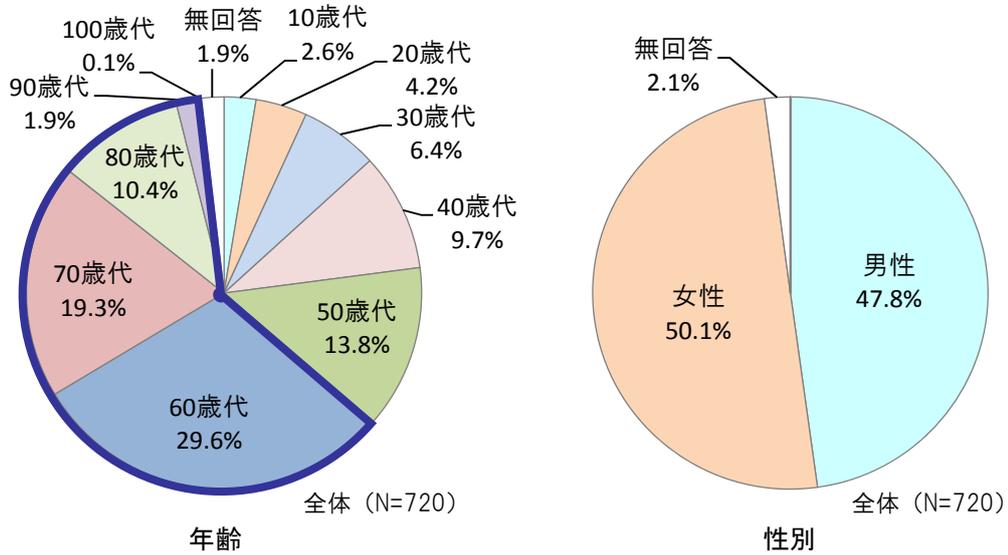
- 1 回答者属性（年齢、性別）
- 2 家族構成
- 3 運転免許の有無
- 4 自動車の利用
- 5 外出頻度
- 6 外出する機会が多い曜日
- 7 普段外出する際の時間帯
- 8 普段の外出目的
- 9 普段の外出先（市町村別）
- 10 普段の外出先（具体的な施設）
- 11 地区間流動イメージ
- 12 普段外出する際の移動手段
- 13 自宅から最寄りの公共交通乗り場までの所要時間

【交通空白地域以外の回答者のみ】

- 14 日常生活における路線バスの利用頻度
- 15 バスの運行ダイヤ・ルート及びバス乗り場についての不満点
- 16 バスを利用しない理由

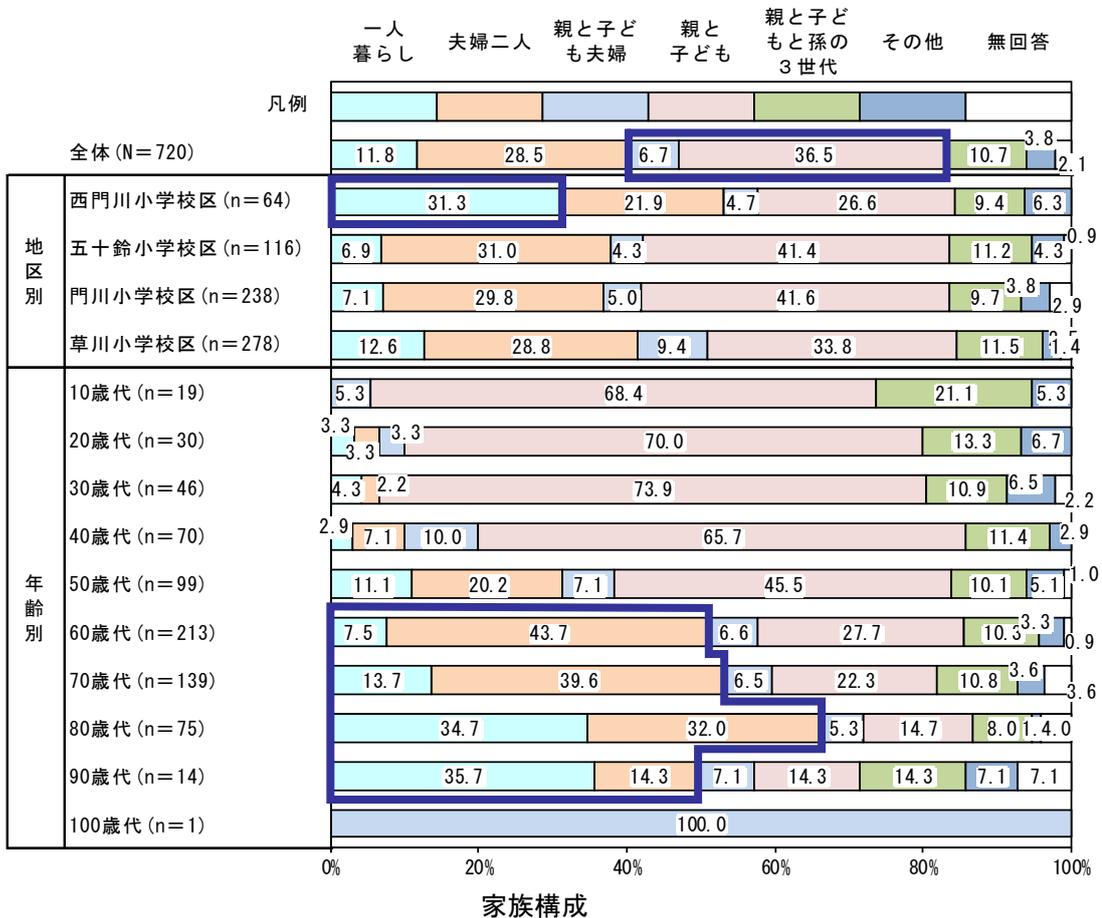
(1)回答者属性（年齢、性別）

- ・回答者は各年代ともに回答を得ており、60歳以上の回答者が61.3%である。
- ・また、性別についても男女ともに半数ずつの回答を得ている。



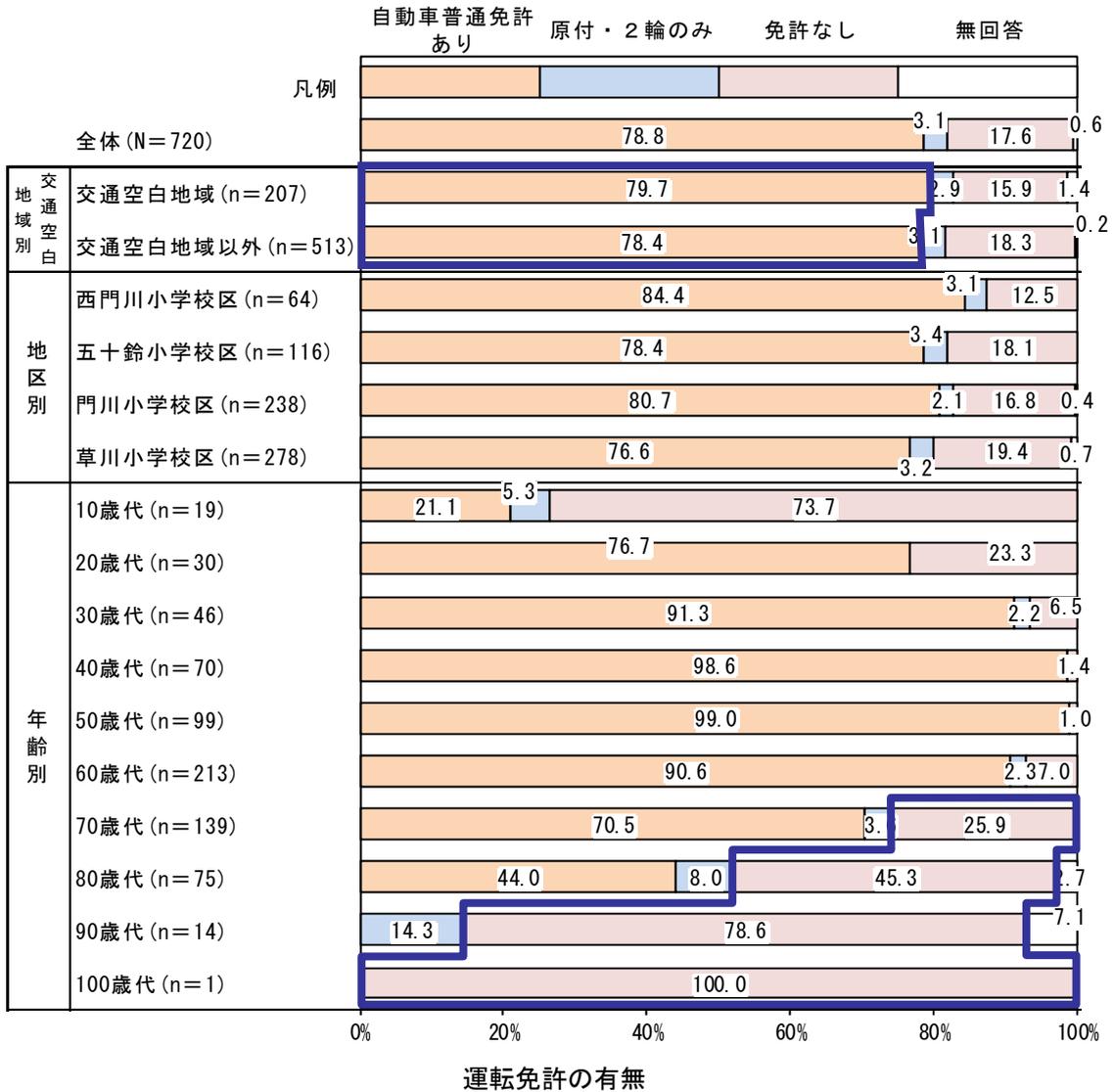
(2)家族構成

- ・全体では、親と子どもが同居する家族構成が最も多いが、西門川小学校区は「一人暮らし」の割合が31.3%と比較的高くなっている。
- ・年齢別では、60～90歳代の半数以上が「一人暮らし」または「夫婦二人」である。



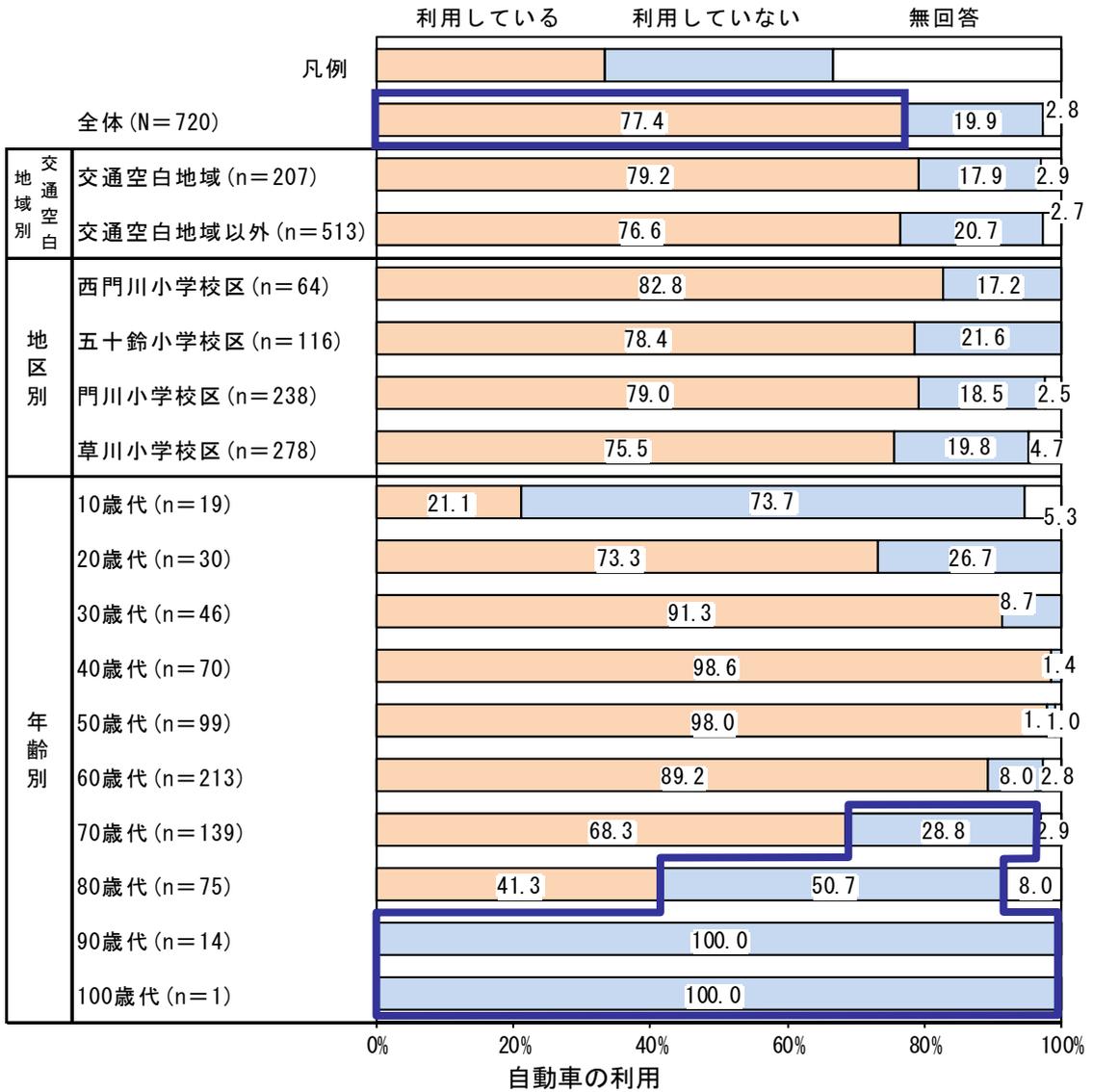
(3) 運転免許の有無

- ・交通空白地域、交通空白地域以外ともに、約80%が免許を保有している。
- ・年齢別では、高齢になるにつれて「免許なし」の回答割合が高くなり、70歳代以上から「免許なし」の割合が比較的高くなっている。



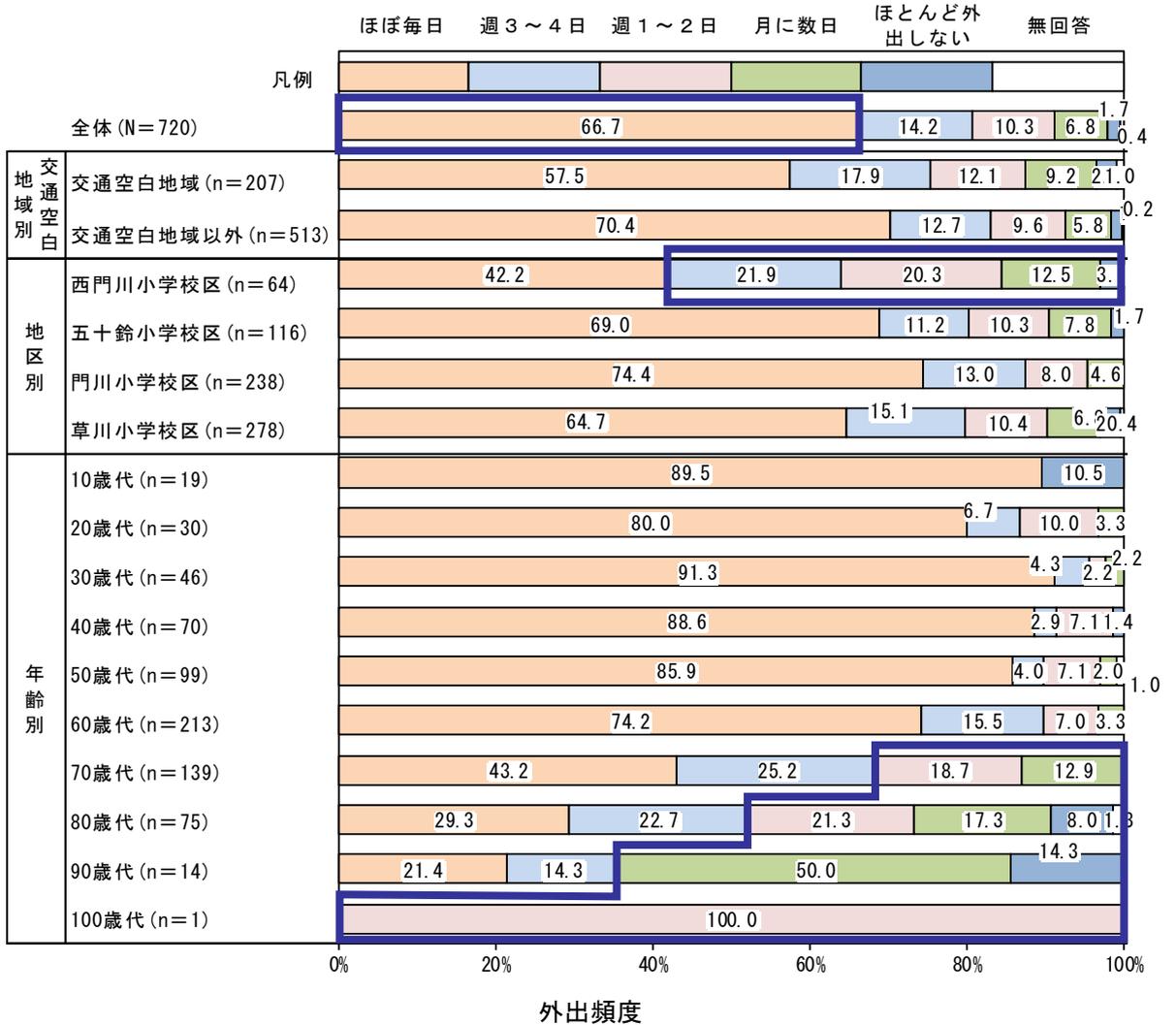
(4) 自動車の利用

- ・ 自動車の利用については、全体の77.4%が「利用している」と回答している。
- ・ 年齢別では、運転免許の有無と同様、70歳代以上から「利用していない」の回答割合が高くなっている。



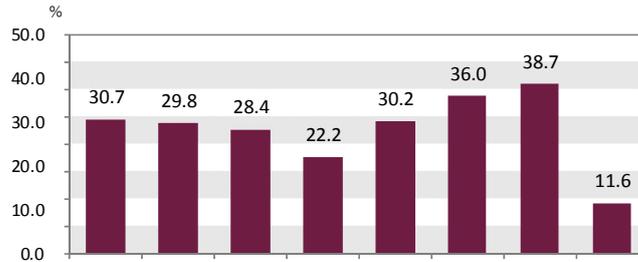
(5)外出頻度

- ・外出頻度では、「ほぼ毎日」が全体の 66.7%と最も多くなっているが、山間部に位置する西門川小学校区は外出頻度が比較的低い傾向がみられる。
- ・年齢別では、70歳以上から「週1~2日」「月に数回」以下の割合が増加していく。



(6)外出する機会が多い曜日

- ・外出する機会が多い曜日については、全体の回答割合にほとんど差はみられない。
- ・一方で、交通空白地域以外では「土曜日」「日曜日」が40%以上と、他の曜日に比べ高い割合を示している。これは60歳代以下の回答によるものであり、自家用車等で移動する方のニーズが表れている。
(⇒(4)において、20歳代～60歳代の自家用車利用が7割以上を示す結果あり)

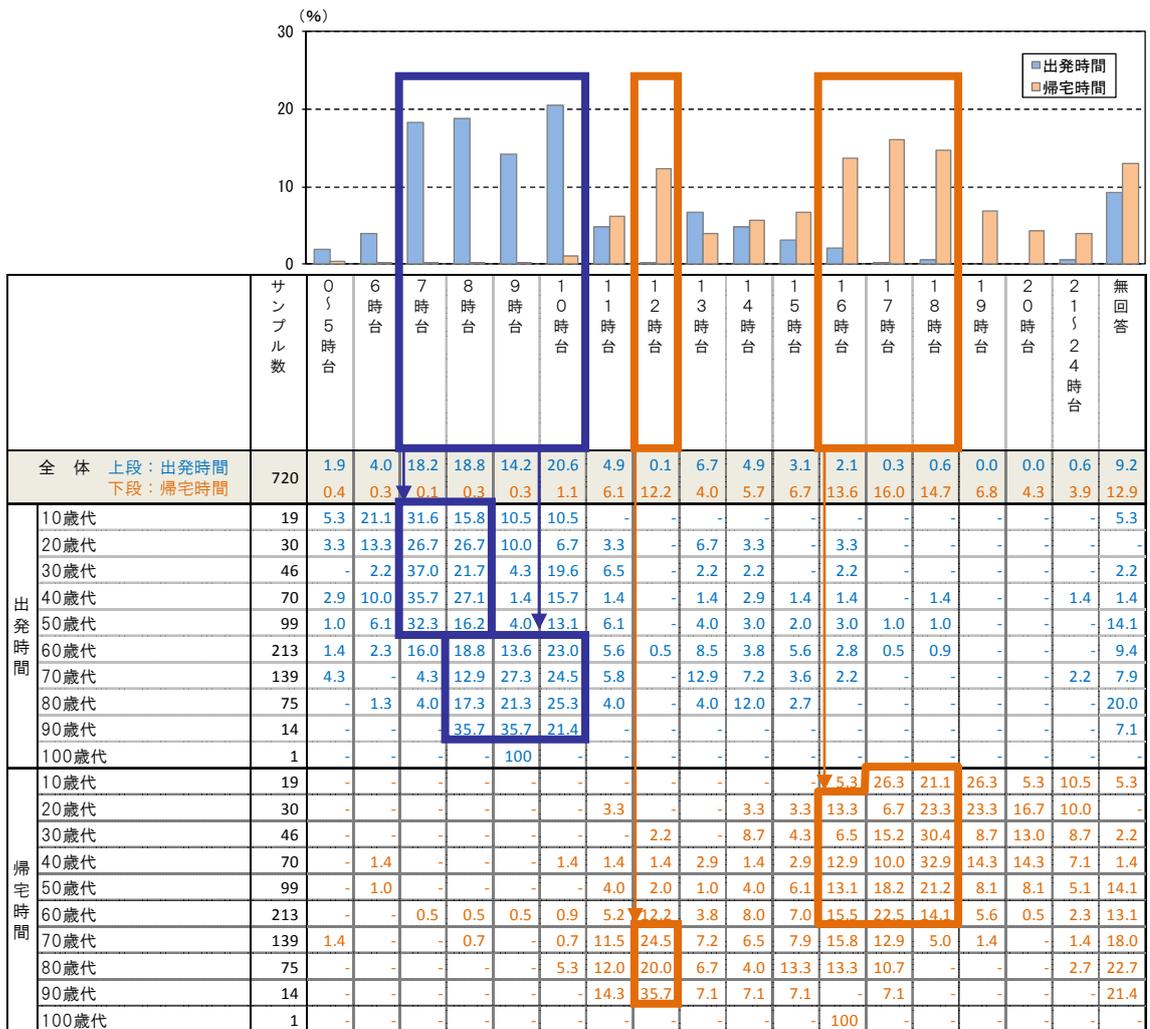


		サンプル数	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	無回答
全 体		225	30.7	29.8	28.4	22.2	30.2	36.0	38.7	11.6
交通空白	交通空白地域	81	29.6	32.1	32.1	18.5	37.0	22.2	33.3	12.3
	交通空白地域以外	144	31.3	28.5	26.4	24.3	26.4	43.8	41.7	11.1
年齢別	10歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	6	33.3	16.7	50.0	33.3	50.0	66.7	50.0	-
	30歳代	4	-	25.0	25.0	-	25.0	50.0	100.0	-
	40歳代	7	28.6	-	28.6	14.3	14.3	57.1	57.1	-
	50歳代	13	23.1	30.8	38.5	15.4	23.1	84.6	76.9	-
	60歳代	55	40.0	36.4	25.5	25.5	36.4	41.8	58.2	10.9
	70歳代	79	24.1	32.9	27.8	26.6	27.8	30.4	29.1	12.7
	80歳代	46	34.8	26.1	28.3	19.6	23.9	21.7	15.2	19.6
	90歳代	9	44.4	33.3	11.1	11.1	55.6	-	11.1	11.1
	100歳代	1	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-

外出する機会が多い曜日

(7) 普段外出する際の時間帯

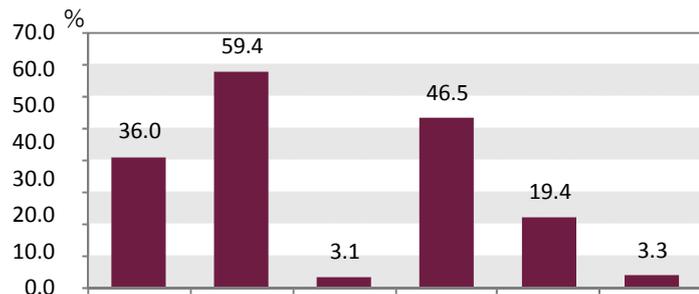
- ・ 普段外出する際の出発時間は、「7 時台～10 時台」に集中しており、「7 時台～8 時台」は 10 歳代～50 歳代、「9 時台～10 時台」は 60 歳代以上が多くなっている。
- ・ 帰宅時間については「16 時台～18 時台」、「12 時台」が比較的多く、「16 時台～18 時台」は 10 歳代～60 歳代、「12 時台」は 70 歳代が多い傾向がみられる。



外出する際の時間帯

(8) 普段の外出目的

- ・ 普段の外出目的は「買い物」が 59.4%で最も多く、「仕事」「病院」が続く。
- ・ 60～70 歳代の外出目的は「病院」「買い物」に集中するが、90 歳代以上では「買い物」の回答割合が減少し、「病院」を主な外出目的としている。
- ・ 外出頻度で最も多かった「毎日」の回答者については、「仕事 (64.0%)」「買い物 (55.4%)」を主な外出目的としている。

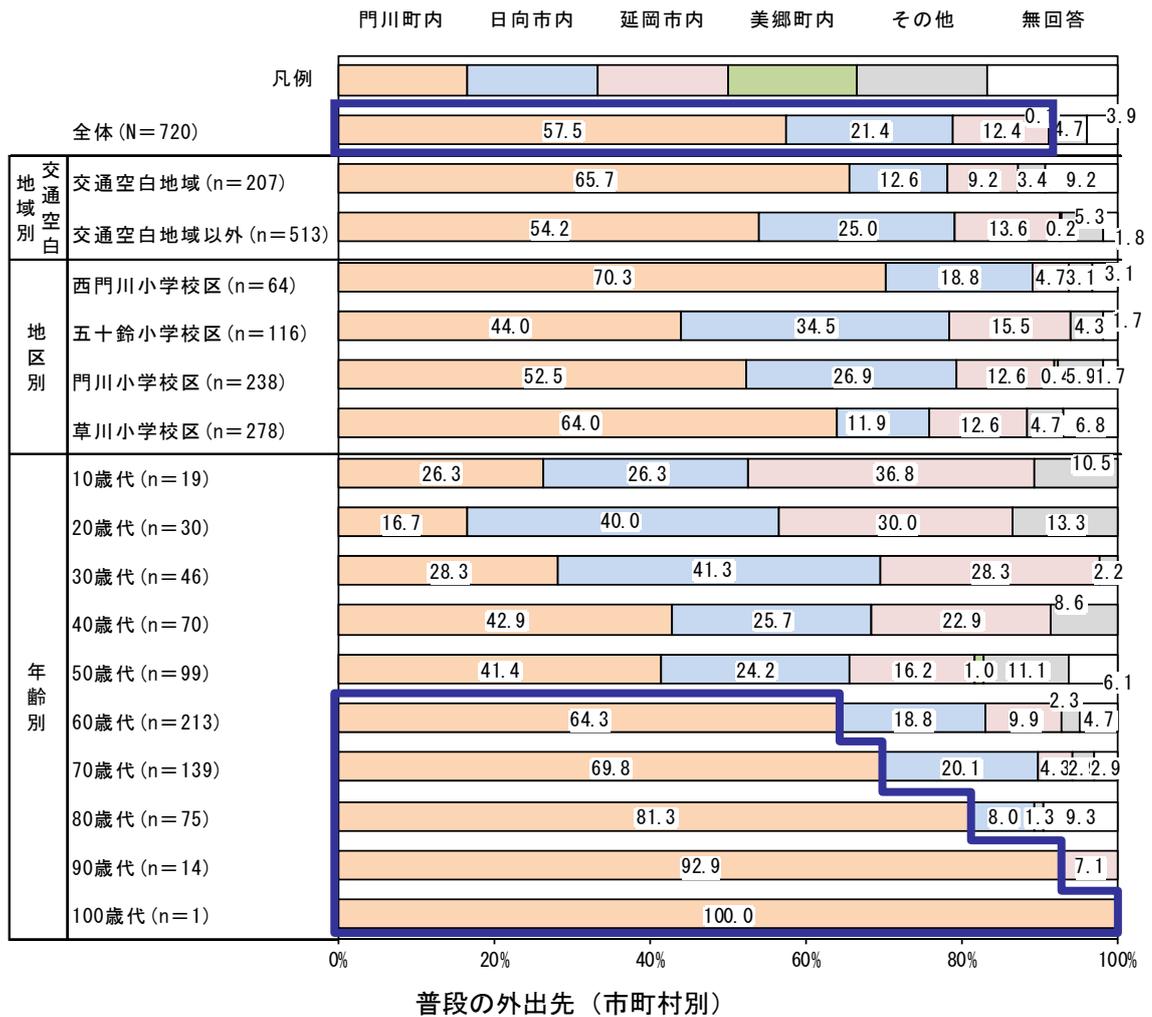


		サンプル数	病院	買い物	学校	仕事	その他	無回答
全 体		720	36.0	59.4	3.1	46.5	19.4	3.3
交通空白	交通空白地域	207	49.8	53.1	2.4	41.5	14.5	8.7
	交通空白地域以外	513	30.4	62.0	3.3	48.5	21.4	1.2
年齢別	10歳代	19	-	36.8	68.4	15.8	10.5	-
	20歳代	30	10.0	46.7	10.0	73.3	3.3	-
	30歳代	46	8.7	56.5	2.2	71.7	17.4	-
	40歳代	70	7.1	52.9	2.9	82.9	8.6	-
	50歳代	99	17.2	46.5	-	71.7	13.1	6.1
	60歳代	213	30.5	64.8	0.5	48.8	27.7	3.8
	70歳代	139	66.9	74.1	1.4	21.6	23.7	1.4
	80歳代	75	68.0	60.0	-	10.7	20.0	8.0
	90歳代	14	78.6	28.6	-	7.1	14.3	-
	100歳代	1	100.0	-	-	-	100.0	-
外出頻度別	ほぼ毎日	480	24.0	55.4	4.2	64.0	19.0	2.7
	週3～4日	102	59.8	82.4	1.0	16.7	27.5	2.9
	週1～2日	74	54.1	70.3	1.4	4.1	18.9	2.7
	月に数日	49	71.4	40.8	-	14.3	12.2	2.0
	ほとんど外出しない	12	58.3	41.7	-	8.3	8.3	25.0

普段の外出目的

(9) 普段の外出先（市町村別）

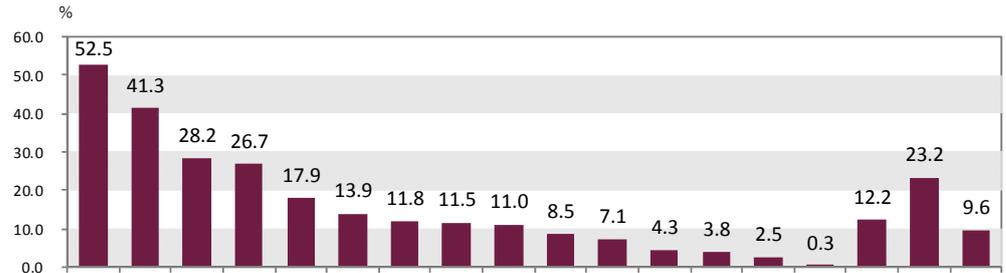
- 普段の外出先は、「門川町内」が57.5%と最も多く、「日向市内（21.4%）」、「延岡市内（12.4%）」が続く。
- 年齢別では、高齢になるにつれて「門川町内」の割合が高くなっており、60歳代以上は「門川町内」の回答割合が60%以上となっている。



普段の外出先（市町村別）

(10) 普段の外出先（具体的な施設）

- ・ 具体的な施設に関しては、「サンシールさの」が52.5%で最も多く、次いで「A コープ」が41.3%、「銀行」が28.2%、「郵便局」が26.7%となっている。また、健康施設として「かどかわ温泉心の杜」の割合が11.8%と高くなっている。
- ・ 山間部に位置する西門川小学校区では、「サンシールさの」より「A コープ」の割合が高くなっている。

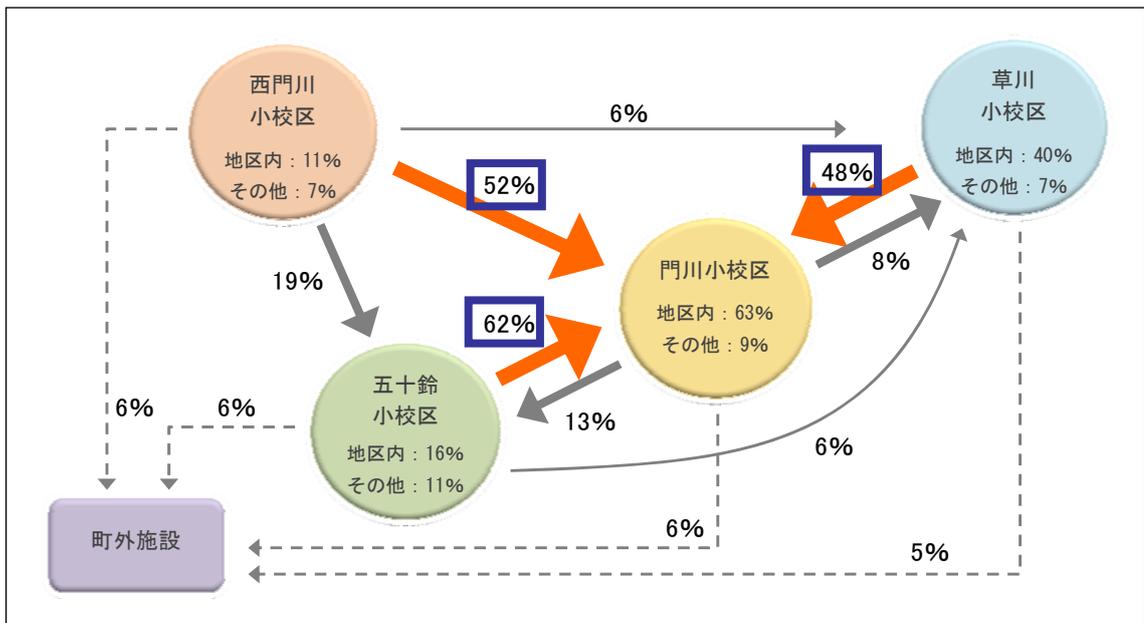


	サンプル数	サンシールさの	A コープ	銀行	郵便局	役場	日向病院	かどかわ温泉心の杜	森迫胃腸科内科	柴尾医院	図書館	田中病院	総合福祉センター	南町総合文化会館	白石病院	門川高校	町外施設	その他	無回答	
全 体	720	52.5	41.3	28.2	26.7	17.9	13.9	11.8	11.5	11.0	8.5	7.1	4.3	3.8	2.5	0.3	12.2	23.2	9.6	
空 交 白 通	交通空白地域	207	48.3	48.3	23.7	25.6	21.7	20.3	14.0	22.2	10.1	6.3	6.8	4.3	1.4	3.4	-	11.6	16.9	13.0
	交通空白地域以外	513	54.2	38.4	30.0	27.1	16.4	11.3	10.9	7.2	11.3	9.4	7.2	4.3	4.7	2.1	0.4	12.5	25.7	8.2
地 区 別	西門川小学校区	64	45.3	53.1	20.3	25.0	31.3	25.0	4.7	6.3	18.8	1.6	7.8	7.8	3.1	1.6	-	12.5	17.2	10.9
	五十鈴小学校区	116	51.7	45.7	33.6	25.9	20.7	9.5	7.8	4.3	12.1	12.1	6.0	4.3	2.6	0.9	-	12.9	31.0	6.9
	門川小学校区	238	50.8	35.3	31.5	25.2	16.0	11.8	12.2	4.2	10.5	8.0	7.6	4.2	3.8	2.9	0.4	11.8	26.1	9.7
	草川小学校区	278	57.2	42.8	25.5	28.8	16.2	14.7	15.5	22.7	8.3	8.6	6.8	4.0	3.6	3.2	0.4	12.6	19.1	10.4

普段の外出先（具体的な施設）

(11) 地区間流動イメージ

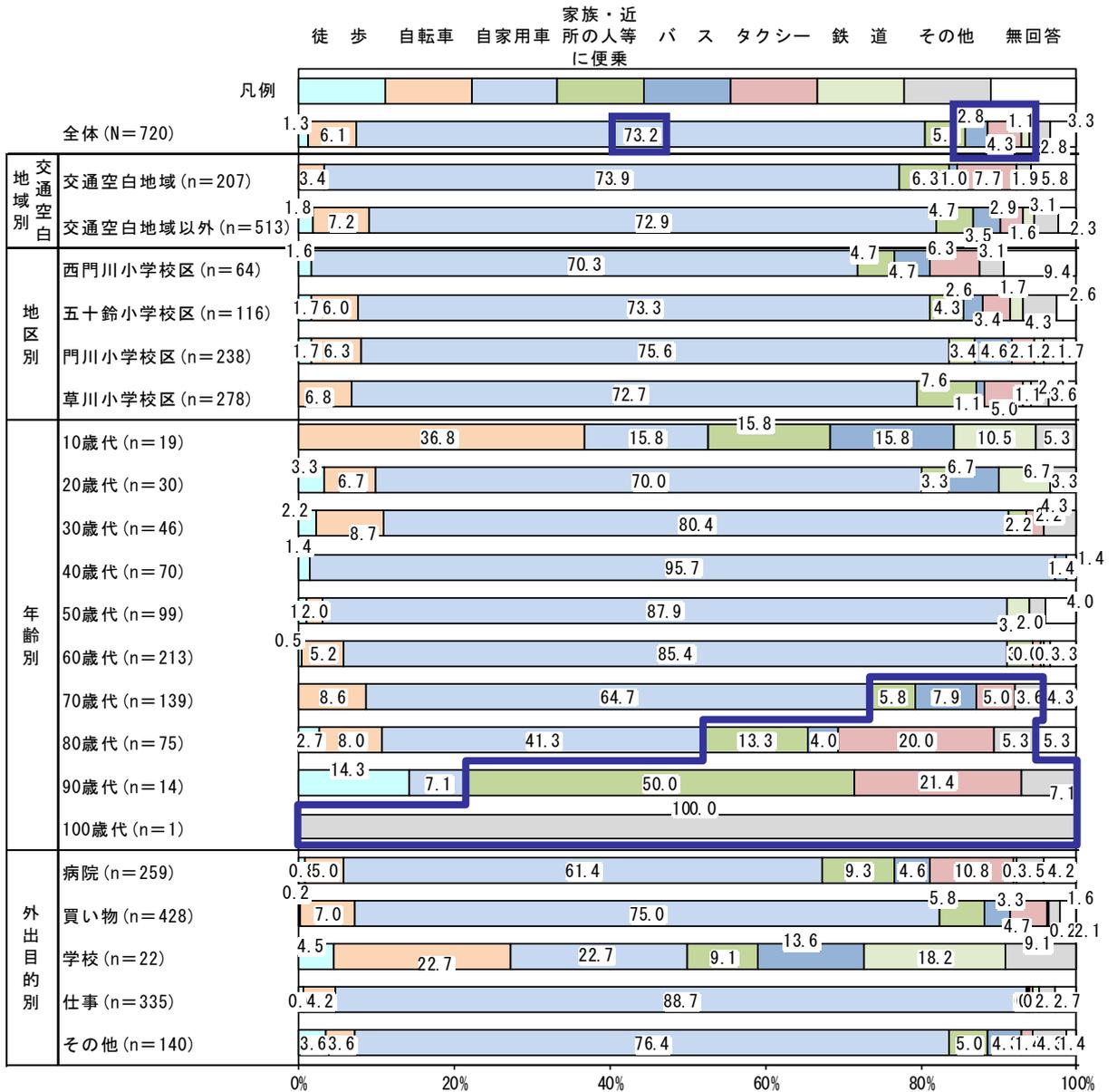
- ・ 門川町内における4つの地域間の流動をみると、各地区から「門川小校区」に外出する方の割合が高い結果となっている。
- ・ 「門川小校区」では、地区内での外出割合が63%を占め、「草川小校区」についても地区内での外出が40%と、比較的高い割合を示している。



門川町各地区の移動状況

(12) 普段外出する際の移動手段

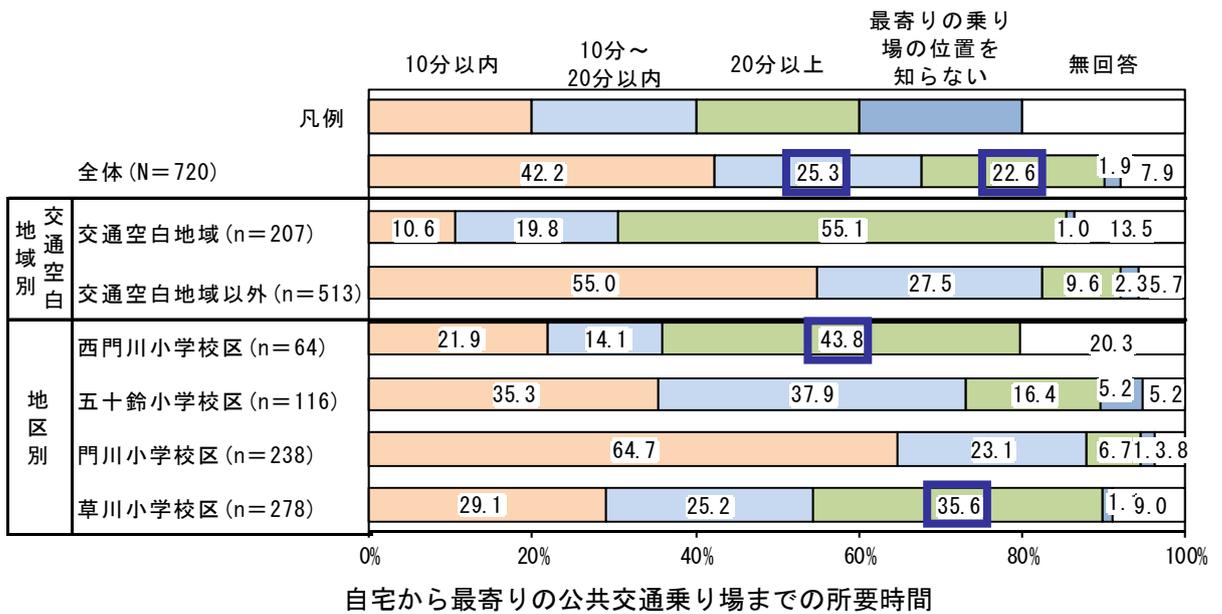
- ・ 普段の移動手段については、「自家用車」の利用が 73.2%を占めている。
- ・ 「バス」「タクシー」「鉄道」は合わせて 8.2%に留まっているが、70歳代以上から徐々に自動車利用が減り、「家族・近所の人等に便乗」「タクシー」の割合が高くなる。



普段外出する際の移動手段

(13) 自宅から最寄りの公共交通乗り場までの所要時間

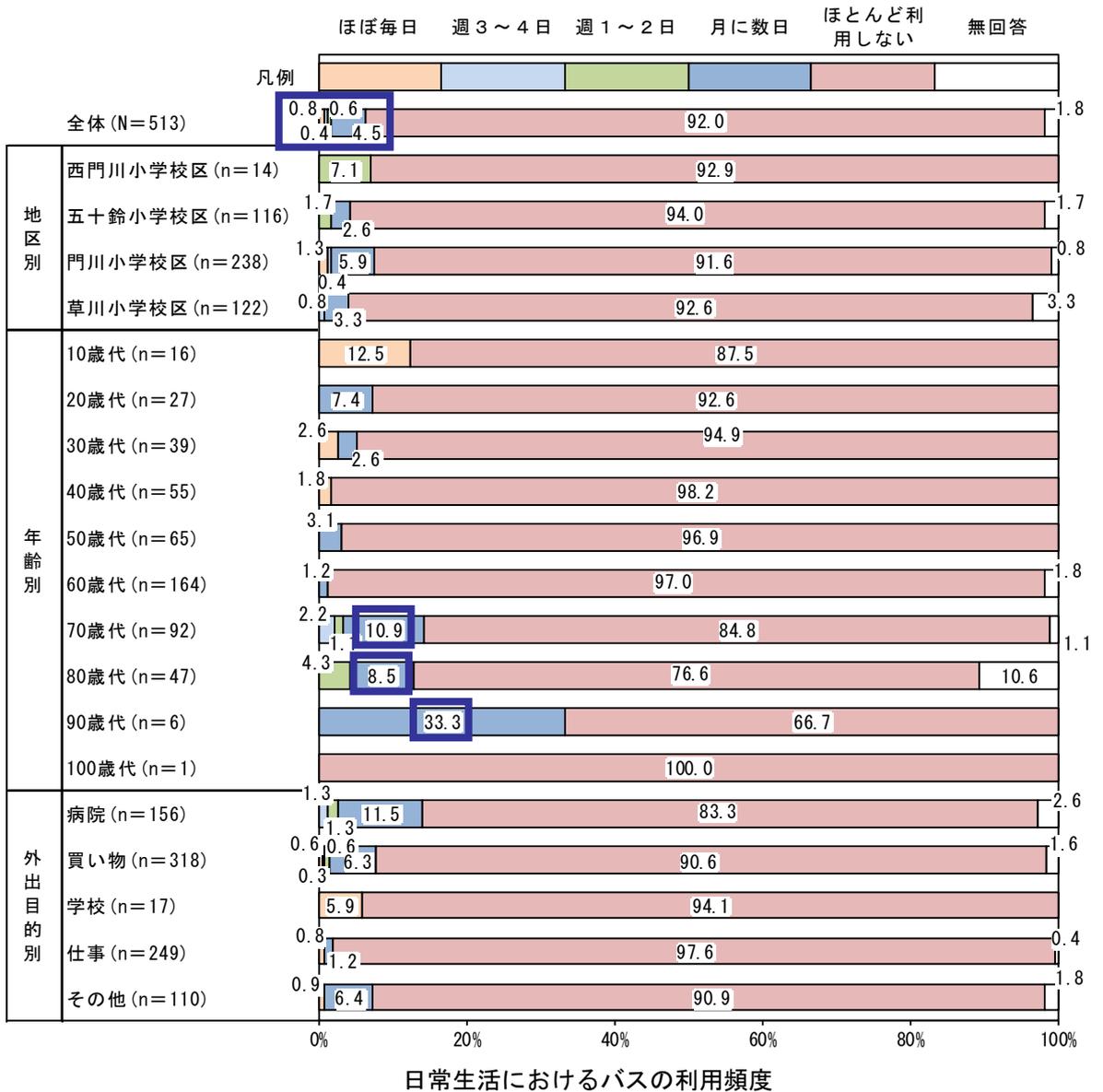
- ・自宅から最寄りの乗り場までの所要時間は、「10分～20分以内」が25.3%、「20分以上」が22.6%と、最寄りの乗り場まで離れている回答が比較的多い。
- ・特に、「西門川小学校区」には三ヶ瀬地区、「草川小学校区」には庵川東地区、牧山地区、谷の山地区が含まれるため、「20分以上」の回答割合が高くなっており、「西門川小学校区」は43.8%、「草川小学校区」は35.6%となっている。



(14) 日常生活におけるバスの利用頻度

【交通空白地域以外の回答者のみ】

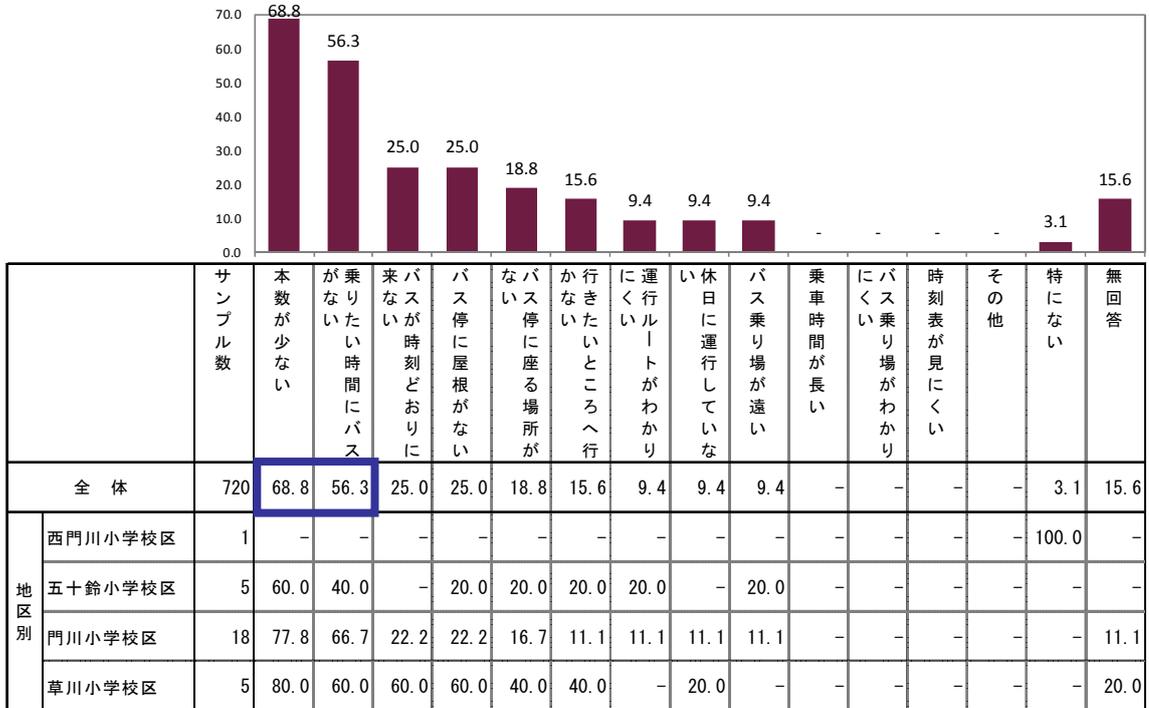
- ・バスの利用状況については、「ほぼ毎日」「週に1~2日程度」「週に3~4日程度」「月に数日」の合算で6.3%に留まっている。
- ・年齢別にみると、70歳代以上から利用割合が増えるが、利用頻度は「月に数日」が最も多くなっている。



(15) バスの運行ダイヤ・ルート及びバス乗り場についての不満点

【交通空白地域以外の回答者のみ】

・バスに関する不満点としては、「本数が少ない」が 68.8%、「乗りたい時間帯にバスがない」が 56.3%と、比較的高い割合を示している。

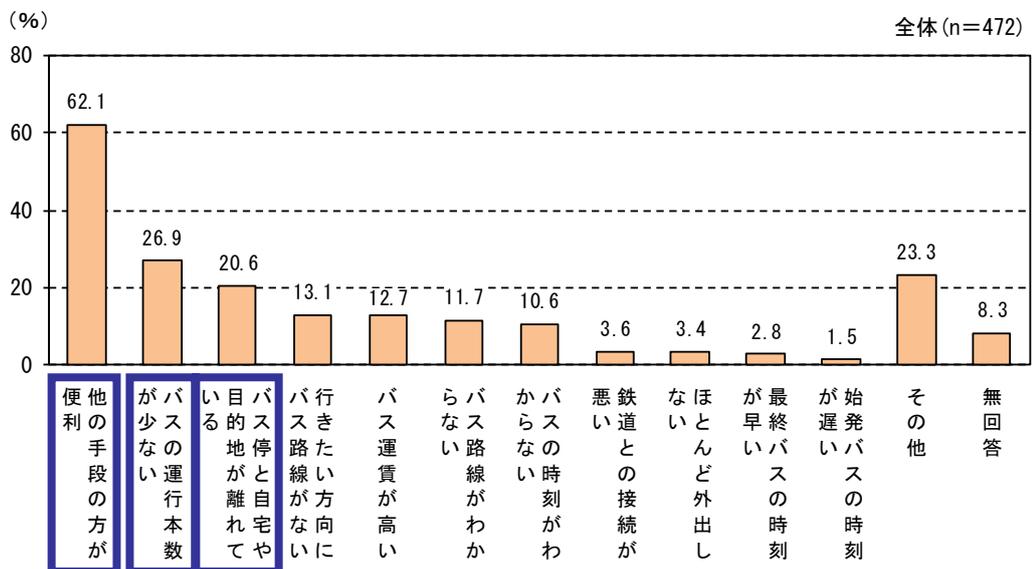


バスの運行ダイヤ・ルート及びバス乗り場についての不満点

(16) バスを利用しない理由

【交通空白地域以外の回答者のみ】

・バスを利用しない理由としては、「他の手段の方が便利」がほとんどであり、「バスの運行本数が少ない」「バス停と自宅や目的地が離れている」等の意見もある。



バスを利用しない理由

2 門川町内における交通弱者の把握調査

(1) 区長へのグループインタビュー調査

門川町内において、公共交通がないと困る町民を把握し、公共交通利用の可能性について検証することを目的として、各行政区の区長を通じた交通弱者の把握調査を実施した。

本調査における“交通弱者”の考え方は以下のように設定し、行政区ごとに交通弱者の居住地の把握を行った。



グループインタビューの実施状況

調査期間：平成 26 年 10 月 31 日（金）

調査方法：会議の場を活用したグループインタビュー方式での聞き取り調査

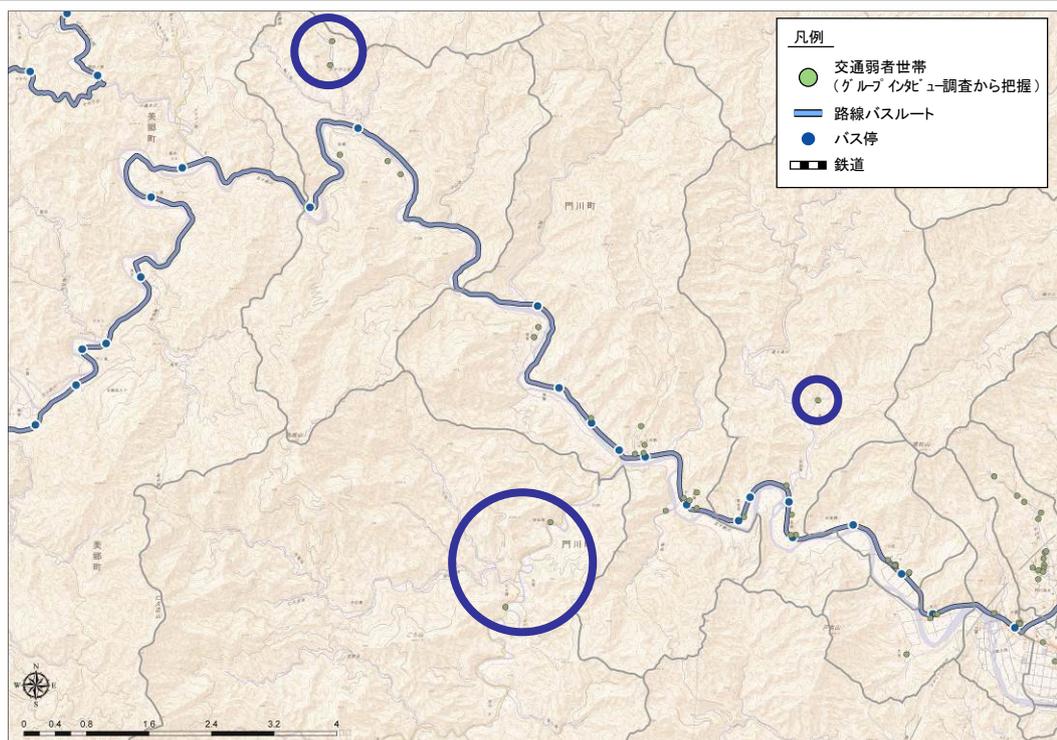
調査内容：各地区の交通弱者と思われる町民の居住地を地図上へ記入

■本調査における“交通弱者”の考え方

- ①同居人を含め、世帯に自家用車等を運転できる者がいない高齢世帯
- ②自ら移動できる手段がなく、タクシーやバスをよく利用する方
- ③送迎を頼める親族等が身近におらず、区長・民生委員(隣人含む)に送迎を頼む方

①西門川小学校区

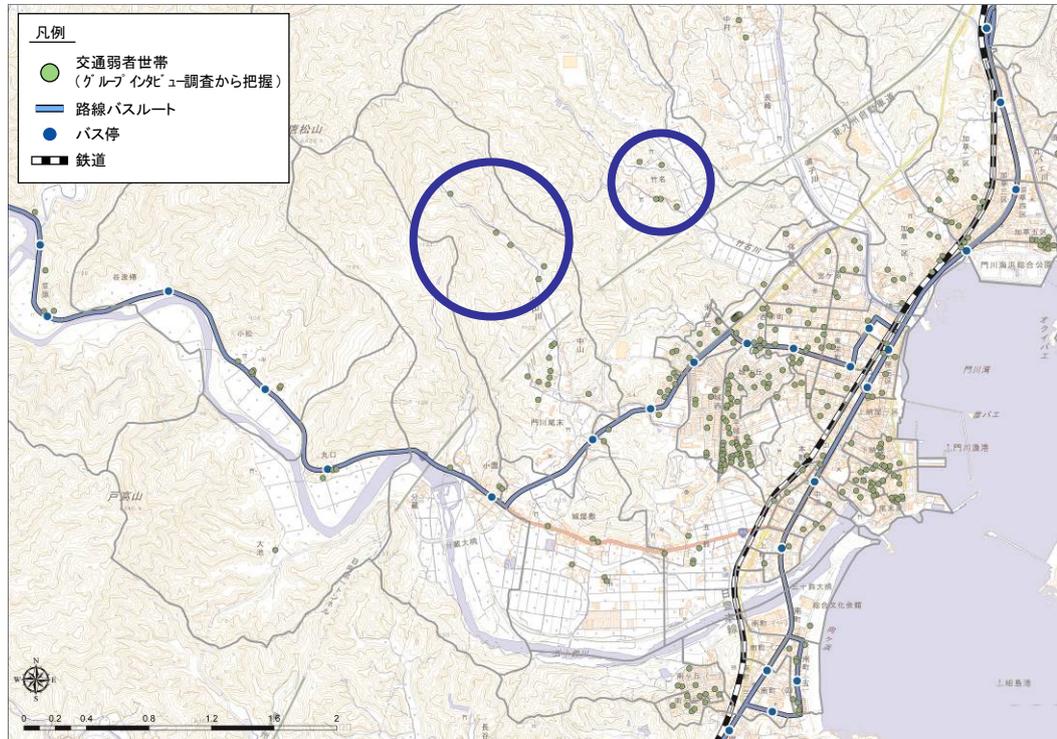
西門川地区では、計 25 人の交通弱者が把握された。全 25 人中 20 人は路線バス沿線に居住しているものの、残り 5 世帯はバス停から離れ居住している。



交通弱者の分布（西門川小学校区）

②門川小学校区・五十鈴小学校区

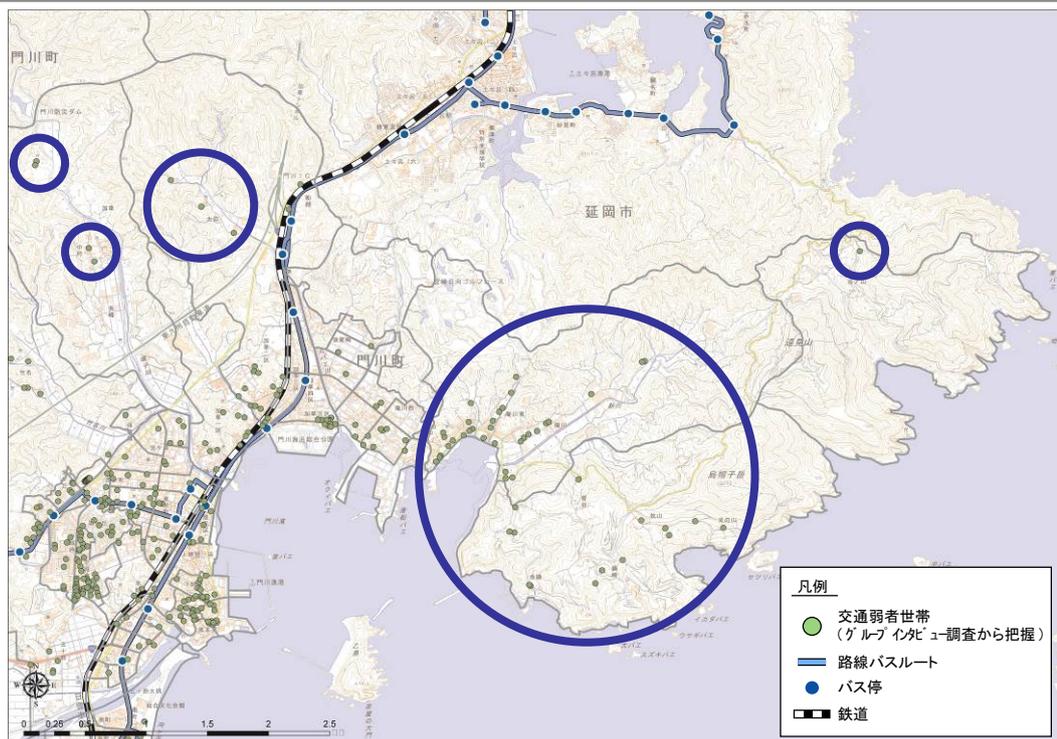
門川小学校区・五十鈴小学校区では、計 263 人の交通弱者が把握された。市街地部エリアであるが、中山・竹名地区の交通弱者はバス停から離れ居住している。



交通弱者の分布（門川小学校区・五十鈴小学校区）

③草川小学校区

草川小学校区では、計 103 人の交通弱者が把握された。遠見半島には大きな交通空白地域が広がる他、中村地区や加草 2 区はバス停から離れ居住している。



交通弱者の分布（草川小学校区）

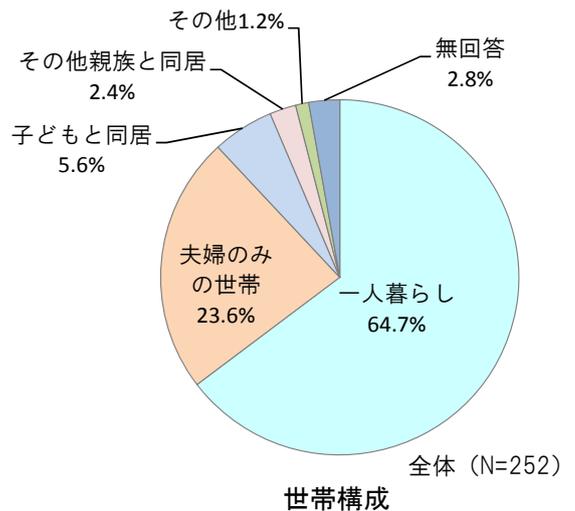
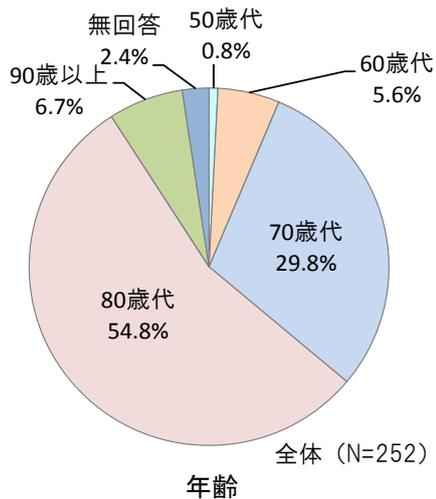
(2)個別訪問による聞き取り調査

公共交通がないと困る交通弱者の公共交通に対する具体的なニーズを把握するため、個別訪問による聞き取り調査を実施した。

調査期間：平成 26 年 10 月 31 日（金）～平成 26 年 11 月 25 日（火）
 調査対象：グループインタビュー調査から把握した交通弱者
 調査方法：直接面談方式による聞き取り調査

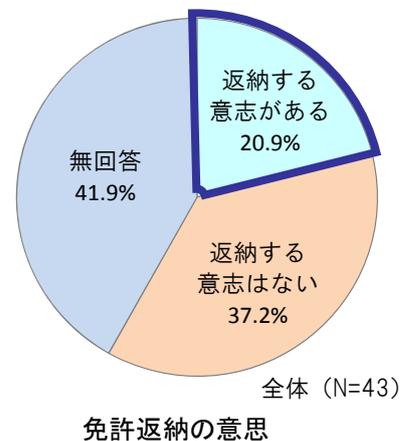
①交通弱者の特性（年齢、世帯構成、運転免許・自動車の保有）

- ・グループインタビュー調査から把握された交通弱者は、主に 70 歳代以上（91.3%）であり、半数以上は一人暮らし世帯となっている。
- ・運転免許・自動車を保有していない方がほとんどであり、免許を持っている 43 人中 9 人に、免許返納の意思がある。



運転免許の保有状況

	サンプル数	を免許保有・自家用車を保有しているが、自家用車はない	自家用車はないが、自家用車はない	免許保有も自家用車もない	無回答
全体	252	11.1	6.0	79.4	3.6
年齢別	50歳代	2	-	50.0	-
	60歳代	14	21.4	7.1	71.4
	70歳代	75	12.0	5.3	78.7
	80歳代	138	8.7	6.5	81.9
	90歳以上	17	23.5	-	70.6
	無回答	6	-	-	83.3
行政区別	門川	76	3.9	7.9	86.8
	五十鈴	73	9.6	8.2	75.3
	草川	80	12.5	3.8	81.3
	西門川	23	34.8	-	60.9



② 普段の外出目的

・ 外出先は「病院・デイケア」が 81.3%と最も多く、次いで「店舗へ買い物 (76.2%)」となっている。

普段の外出目的

		サンプル数	役場	関 郵 便 局 ・ 金 融 機	病 院 ・ デ イ ケ ア	店 舗 へ 買 い 物	そ の 他	無 回 答
全 体		252	7.9	24.6	81.3	76.2	14.3	2.4
年 齢 別	50歳代	2	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0	-
	60歳代	14	7.1	21.4	78.6	71.4	28.6	7.1
	70歳代	75	9.3	30.7	78.7	81.3	12.0	1.3
	80歳代	138	5.8	20.3	81.2	73.9	13.8	2.9
	90歳以上	17	5.9	23.5	88.2	76.5	17.6	-
	無回答	6	16.7	33.3	100.0	66.7	-	-
行 政 区 別	門川	76	7.9	22.4	73.7	81.6	14.5	1.3
	五十鈴	73	12.3	35.6	75.3	69.9	17.8	6.8
	草川	80	6.3	20.0	90.0	76.3	15.0	-
	西門川	23	-	13.0	95.7	78.3	-	-

③ 普段の外出頻度

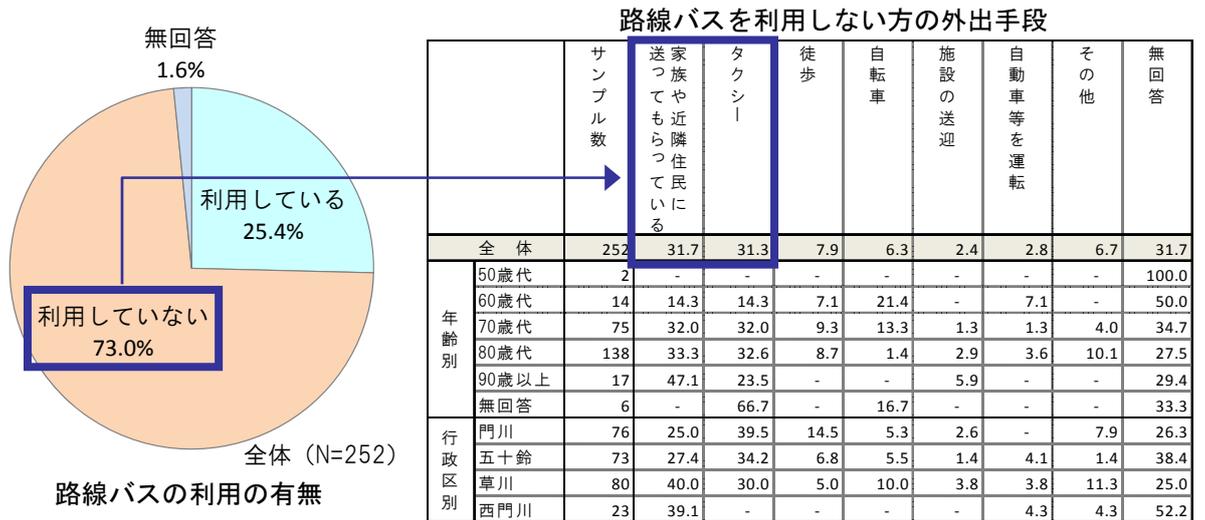
・ 普段の外出頻度については、「1週間に2~3日」が 24.6%で最も多い。

普段の外出頻度

		サンプル数	毎 日	日 1 週 間 に 3 〜 4	日 1 週 間 に 2 〜 3	1 週 間 に 1 日	2 週 間 に 1 日	1 ヶ 月 に 1 日	そ の 他	無 回 答
全 体		252	15.9	19.8	24.6	20.6	7.1	7.5	0.4	4.0
年 齢 別	50歳代	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	60歳代	14	42.9	14.3	21.4	14.3	-	-	-	7.1
	70歳代	75	18.7	24.0	22.7	24.0	2.7	4.0	-	4.0
	80歳代	138	10.9	18.1	26.8	20.3	10.1	9.4	0.7	3.6
	90歳以上	17	17.6	23.5	17.6	11.8	11.8	11.8	-	5.9
	無回答	6	-	16.7	33.3	33.3	-	16.7	-	-
行 政 区 別	門川	76	25.0	19.7	26.3	18.4	3.9	2.6	-	3.9
	五十鈴	73	16.4	20.5	26.0	16.4	5.5	6.8	1.4	6.8
	草川	80	11.3	25.0	23.8	17.5	8.8	12.5	-	1.3
	西門川	23	-	-	17.4	52.2	17.4	8.7	-	4.3

④路線バスの利用の有無

- ・路線バス利用の有無については、「利用していない」が73.0%を占めている。
- ・路線バスを利用しない方の外出手段は、家族や近隣住民による送迎、タクシーを利用することで、日常生活での移動を行っている。



⑤公共交通に対する要望・意見

- ・公共交通への要望・意見では、「料金を安くしてほしい・割引制度を導入してほしい」「バスを待っている間休める待合施設がほしい（ベンチや雨よけ等）」「バス停から離れているので、新たにルートを設定してほしい」等の回答割合が高い。

	サンプル数	増便してほしい	料金割引制度を導入してほしい	新設、停車場所の移動	バス停から離れたところを走る	外部委託の廃止	善し悪し	鉄道との乗り継ぎを改善	（ベンチや雨よけ等）	バスを待つ間に休める施設	特に要望なし	その他	無回答
全体	252	20.6	35.3	25.8	13.5	4.0	30.2	19.0	6.7	17.9			
年齢別	50歳代	2	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-			
	60歳代	14	21.4	42.9	7.1	7.1	7.1	50.0	14.3	7.1	7.1		
	70歳代	75	21.3	40.0	24.0	14.7	4.0	33.3	18.7	8.0	20.0		
	80歳代	138	19.6	34.1	28.3	15.2	3.6	27.5	19.6	6.5	13.8		
	90歳以上	17	17.6	23.5	23.5	-	-	29.4	23.5	-	41.2		
	無回答	6	33.3	16.7	50.0	16.7	16.7	16.7	-	16.7	50.0		
行政区別	門川	76	15.8	38.2	25.0	2.6	2.6	23.7	26.3	5.3	10.5		
	五十鈴	73	21.9	31.5	23.3	19.2	9.6	32.9	15.1	2.7	23.3		
	草川	80	26.3	32.5	26.3	22.5	1.3	37.5	20.0	8.8	16.3		
	西門川	23	13.0	47.8	34.8	-	-	17.4	4.3	17.4	30.4		

⑥自由回答

自由回答	地区名	年齢
《公共交通の運行を求める意見》16件		
1～2週に1回バスがあれば使いたい。子供たちも家庭を持ち忙しいので頼むのも申し訳ない。	牧山	80歳代
息子夫婦に送迎を頼むが、病気がちである。バスがあれば利用したい。孫と妹宅が加草にあるのでそこまで外出する。	牧山	80歳代
牧山なので交通手段なし。新たにルートを新設してほしい。いつも妹に頼むのは申し訳ない。息子も休みが少なく買い物に行きたくても行けない。歩いて行ける距離でもないのでもうにもならない。	牧山	80歳代
牧山なので交通手段なし。新たにルートを新設してほしい。月に何回か運行すれば利用したいが、家までの道が険しい。	牧山	80歳代
娘が元気になったので助かっている。公共バスが実現できるとこの上幸いです。	竹名	90歳以上
大変ありがたい事です。ぜひ実現してもらいたい。	竹名	90歳以上
子、孫の都合の良い時ばかりではなく、思った時にバスが利用できるとう有難い。	竹名	80歳代
週1回、外出できる公共交通があれば利用する(誰かに頼まないといけないので)。	谷ノ山	80歳代
(病院行先毎の)乗り合いタクシーがほしい。身障者タクシーがあればよい。路線バスは、延岡～日向行、午後の部が特に少ない。	加草3区	70歳代
中山から病院までタクシー代が高い為、歩くようにしているが、年の為疲れて仕方なくタクシーに乗ります。日向市のように福祉バスを運行してほしい。近くに店がないため買い物にも不便です。バスも通りません。	中山	80歳代
地区に乗り入るバスが欲しい。	中山	80歳代
今は利用してしていませんが周りの高齢者を見ていると、私も車利用はもうすぐできなくなると思うので、路線バスがあったらいいと思います。	中山	70歳代
タクシー代が勿体ないのであまり買わないようにしている。心の柱にバス停があれば良い。	庵川東	80歳代
小型のバスでよいので早く廻るようにしてほしい。早く導入してほしい。	加草5区	80歳代
コミュニティバスを早く導入してほしい。	加草5区	80歳代
日向市のように格安(100円)になるのか。いつ頃出来るのか。	加草5区	80歳代
《既存の路線バスについて》14件		
バスが通るだけで助かります。これ以上、便が減らないようにお願いします。	小松	80歳代
バスに乗った時に途中で手を挙げるとバスが止まるので助かります。	小松	70歳代
バスが定刻に来ないので困る。巡回バスがほしい。	加草3区	60歳代
バスが定刻に来ないことが多く、乗れるか不安。病院に行く時は乗合タクシーがほしい。	加草3区	70歳代
バスが定刻に来ない(延岡→日向)。	加草3区	70歳代
以前のようにバスは旧道も走ってほしい。	上町	80歳代
バス停が近くなれば良い。自分の足で買い物にもゆっくり行かれています。押し車でみな運動がてらといって自分で行かれています。(区長代筆)	西栄町	80歳代
乗車下車がある程度自由になるようにしてほしい。費用がかさみ、数百万円を使用し負債を作ることも確実。住みよい安全な街づくりに努力する以外他の方法もある。	後向	80歳代
日向方面に行くバスが欲しい。自転車で15分かけてバス停へ行き、路線バスに乗っている。買い物は友達にも乗せてもらっている。	三ヶ瀬	70歳代
停留所が遠い。	上井野	80歳代
バス停が近くまで来てほしい。現在は、娘に買ってきてもらっている。	上井野	80歳代
病院+スーパーの時は婦りの便を運くし、スーパーのみの時は婦りの便を早くしてほしい。バスの便は良いが、日向病院からタクシーでスーパーに行くとお金がかかる。	大内原	80歳代
ガソリンスタンドからAコープの方を回ってきてほしい。コスモスの前に高速バス。	大内原	80歳代
バスの空席が目立つ。	大内原	70歳代
《タクシーについて》3件		
タクシーの補助があったらいい。	上納屋3区	70歳代
タクシー代往復2,000円程かかり、高い。	庵川東	80歳代
タクシーでは片道650円ほどかかる。	竹名	70歳代
《身障者等への補助について》3件		
障害者なのでタクシーも安くしてほしい。	上納屋3区	80歳代
障がい者(車いす使用)が乗れるバスにしてほしい。図書館や役場などに外出できると助かる。	宮ヶ原	80歳代
身体上、一人では外出するのが難しい。区長さんへ送迎をお願いするのも迷惑がかかるから遠慮する。介護保険があれば、タクシーで買い物も病院も自分で行ける。	庵川東	90歳以上
《その他》4件		
自家用車はあるが体力の衰えがある。	牧山	80歳代
現在は自転車を利用している。	牧山	60歳代
お嫁さんがいるので車で迎えをお願いしている。週に一回ずつ来る移動販売(魚屋、八百屋)も利用している。(日向～小松の辺りまで)	三ヶ瀬	70歳代
週2回ほど移動販売が来るので利用している。	上井野	80歳代

3 交通事業者および主要施設のニーズ把握

施設や事業者等からみた公共交通の課題や事業の実現性、本事業への意見等を把握するため、町内の主要施設や交通事業者への事業者ヒアリング調査を実施した。

調査期間：平成 26 年 10 月 28 日（火）～平成 26 年 11 月 25 日（火）
 調査対象：門川町の公共交通に係る 14 事業者
 調査方法：直接面談方式による聞き取り調査

ヒアリング対象機関および調査内容

分類	区分	対象機関	調査のポイント
交通事業者	鉄道	九州旅客鉄道(株)	・ 門川駅の利用者実績（年次別） ・ 通勤通学等の定期発行数 ・ バス路線との接続に関する意見要望など
	路線バス	○宮崎交通(株)	・ 運行実績に関する資料 ・ 保有車両数の状況（バス、ワゴン車、小型車） ・ 運転手の人数、配車について ・ 利用者の特徴、要望の声 ・ 公共交通の運行上の課題点等 ・ 公共交通再編への意向、今後の事業計画など
		○宮交タクシー(株)	
	タクシー事業者	○宮児タクシー(株)	
○上日向タクシー(株)			
貸切業者	○(有)門川交通観光		
福祉関係	病院・福祉施設	○田中病院	・ 送迎サービスの実施有無 ・ (実施している場合) 運行状況・経費について ・ (実施していない場合) 利用者の通院手段
		○日向病院	
商工関係	買い物支援	○門川町商工会	・ 商業施設の所在（一覧表） ・ 買い物支援事業などの実施状況、経費
	商業施設	○サンシールさの	・ 施設の利用状況 （利用者数、滞在時間、ピーク時間帯など） ・ 公共交通への要望内容 ・ 今後の協力体制について（乗入れ等の協力）
		○ショッピングセンターまるさ	
		○A コープ草川店	
	○A コープ門川店		
主要施設	物産拠点	○海遊物産館うみすずめ	・ 施設の利用状況、運営（経費）について ・ 遊覧船の運航状況、利用者数、経費

(1) 鉄道事業者

①九州旅客鉄道(株)

利用者の特性について
<ul style="list-style-type: none">・ 1日あたりの乗車客は、平均480人程度となっている（H24）。・ 通勤者の利用もあるが、高校生の通学利用が多い。
利用目的・主要目的地について
<ul style="list-style-type: none">・ 通学利用が利用者の半数以上を占めており、平成25年度では門川駅で約680枚の通学定期を発券した。（1ヵ月・3ヵ月・6ヵ月の定期券枚数を合算）
利用者からのニーズについて
<ul style="list-style-type: none">・ 駅を利用する際の段差をなくしてほしいとの要望は挙がっている。

※電話対応および資料提供による情報

(2) 路線バス事業者

①宮崎交通(株) [運行：日向市～延岡市線]

日向市～延岡市線の利用者特性について
<ul style="list-style-type: none">・ 朝、夕方は旭化成従業員の通勤利用、昼間は高齢者の女性が通院・買い物で利用する。・ 延岡市、門川町は悠々パスの購入費補助を行っているため、悠々パスの利用も多く、その他、バスカも全利用者の6割以上の利用がある。
日向市～延岡市線の運行状況について
<ul style="list-style-type: none">・ 計15台の車両で運行しており、ほとんどは日向営業所の車両を利用している。・ 現在の運行ダイヤのなかには、対面点呼の時間と合わせた時刻設定もあり、利用者にとってより使いやすいダイヤへの工夫を検討している。
利用者からの要望について
<ul style="list-style-type: none">・ 利用者から運行ダイヤの遅れについて要望が挙がっていたが、バス停間距離の時間を見直すダイヤ変更を行ったため、最近は要望の声は挙がっていない。
利用促進のために行っていること
<ul style="list-style-type: none">・ 毎年10～11月に、延岡市の小学校7校～8校を対象にお勉強バスを行っている。・ （クラスの集合写真を印刷したオリジナルの記念バスカも配布） 延岡市では、運行ルートと時刻表を記載したチラシを毎年全戸配布している。
公共交通の再編に関する意向
<ul style="list-style-type: none">・ 高速スマートICの整備が完了した際は、運行ルートに検討の余地はあると思う。・ 日向市～延岡市線について、門川町の住宅地を経由する等の話はあったが、時刻設定の問題や経営上の判断から実現していない。

②宮交タクシー(株) [運行委託：廃止路線代替バス（イオンタウン日向～小原）]

イオンタウン日向～小原線の利用者特性について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者はほとんどが高齢者で、固定客の利用が多い。 ・ 利用目的は病院への移動であり、日向市内では仕事で利用する方が毎日利用する。
イオンタウン日向～小原線の運行状況について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 以前までは、1日の運行回数の半数ずつを宮崎交通(株)と共同運行を行っていたが、平成25年10月からはすべて宮交タクシー(株)にて運行を行っている。 ・ 運転手は4名配置しており、1日2名で運行している。
利用者からの要望について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に要望に関する意見は挙がっていない。
運行上の課題点について
<ul style="list-style-type: none"> ・ サンシールさの前面の通りは、道路幅が狭く、民家から木の枝が出ており、運行しづらい箇所である。 ・ 国道388号の町境周辺も狭小区間で離合が難しい。
公共交通の再編および利用促進について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 宮崎交通グループとバスの展示会イベントなどを行っている。 ・ 串間市では、コミュニティバスの運行を指定管理者業務として請け負っており、当初の提案のなかで行事に合わせた臨時運行も提案を行い、祭り等で運行している。また、実現はしていないが、商店街の割引チケットの企画なども行っている。

(3)タクシー事業者

①宮児タクシー(株)

門川営業所について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 門川営業所には、小型タクシー6台が常駐している。
利用状況について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日1台あたり平均10～15人の利用があり、多い日は30人弱/日台、少ない日で7～8人/台の利用状況である。 ・ 門川町でタクシー利用がある地区は、平城・尾末・西栄町・庵川・旭町・本町・加草・南町・中村などである。 ・ 利用目的は通院・買い物であり、利用1回あたりの平均金額は500～580円である。 ・ サンシールさの、日向病院、田中病院、長田整形外科などへの利用が多い。
運行上の課題点について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 門川町には、（宮崎交通(株)の路線バス以外に）バスやタクシーが走っていないので、観光客の移動手段がない。日向市では周遊時間ごとのコースを用意し、日向市が補助を行っている。
公共交通の再編および利用促進について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政が公共交通サービスを行う場合、タクシーとの競合があがるが、日向市はタクシー協会での持ち回りで運行する方法をとっている。

②上日向タクシー(株)

門川営業所について
<ul style="list-style-type: none">・ 門川営業所には、小型タクシー7台が常駐している。
利用状況について
<ul style="list-style-type: none">・ 利用者は高齢者が多く、目的は通院で利用する。長田整形外科、日向病院、柴尾医院などで、固定客の利用が多い。・ 門川町でタクシー利用がある地区は、南町・本町・城屋敷・東栄町・平城などである。・ 利用1回あたりの平均金額は500～600円であり、門川から日向市の病院へ利用する方が時々いる。
運行上の課題点について
<ul style="list-style-type: none">・ 介護タクシーのようなサービスが必要になってきている。利用者が高齢のため、荷の積み下ろしや買い物への同行、荷の受渡しなどもサービスで行っている。
公共交通の再編について
<ul style="list-style-type: none">・ 時間帯、コース、利用の多い曜日などのニーズに合った運行計画が必要である。・ 日向市のプラットバスは病院バスとして利用が多いが、日向病院を経由する話が一時挙がったが、実現していない。・ 山間部へ1日1往復でも行政からの支援がある方がよい。

(4)一般貸切旅客運送事業者(貸切バス)

①(有)門川交通観光

保有車両について
<ul style="list-style-type: none">・ マイクロバス2台、中型車3台、10人乗り車両2台、小型車4台を所有している。
運行状況について
<ul style="list-style-type: none">・ 団体の視察研修、土日の結婚式等の送迎、JA延岡との観光業務、スクールバスなどの業務を行っている。
スクールバスの運行について
<ul style="list-style-type: none">・ 現在利用する生徒数は40人前後であり、バスは1日2名で運行している。・ 業務は運行の委託のみであり、3年契約を交わしている。・ 行事や視察など、臨時便を運行する際は業務委託料とは別で支払いを行う形態である。
公共交通の再編および利用促進について
<ul style="list-style-type: none">・ 日常の買い物、通院に合わせるには、最低午前2回、午後2回は必要だと思う。・ (今後の公共交通を考える上では)山間部などの外出時に不自由する地区からの意見を抽出してもらいたい。・ かどがわ納涼花火大会の実行委員をしているが、西門川地区からの花火大会を見たいとの意見に応え、開催時の送迎バスを3年前から運行している。

(5)病院・デイケア施設

①医療法人浩洋会 田中病院

病院で実施している「送迎」の状況について
<ul style="list-style-type: none">・ 実施している送迎はデイサービス利用者を対象としたものであり、介護保険事業として行っている。外来患者に対する送迎は実施していない。・ 送迎は病院スタッフが2人1組で付き添い、自宅まで送迎を行う（車両数6～7台）。
病院の利用状況について
<ul style="list-style-type: none">・ 外来患者、デイサービス利用者ともに、町内全域から利用がある。・ 頻度は2週に1回、あるいは4週に1回であり、薬がきれる周期で利用される。
来院者の移動手段について
<ul style="list-style-type: none">・ ほとんどは自動車を利用し、その他、家族の送迎やタクシーで移動している。・ 受付でタクシー呼びたいと電話代金を支払う方もおり、タクシー会社のフリーダイヤルを常備するようにしている。
公共交通の再編および利用促進について
<ul style="list-style-type: none">・ 外出手段がなく、病院に来れないといった方もいるので、充実させてほしい。バス事業者の経営的な判断もあると思うが、病院駐車場内にバス停を置く等もできると思う。・ サンシールさの前のバス停から少し距離があり、道路も横断するため苦勞している。地域と病院の連絡体制をつくれれば、スタッフが利用者を迎えに行く等もできる。

②宮崎県済生会 日向病院

病院で実施している「送迎」について
<ul style="list-style-type: none">・ 外来者等に対する送迎は行っていない。
病院の利用状況について
<ul style="list-style-type: none">・ 門川町と日向市からの来院者で全体の9割以上の利用者を占めている。・ 頻度は月1回の周期で来院される方が多い。
来院者の移動手段について
<ul style="list-style-type: none">・ 自動車利用が最も多く、次いでタクシー、バスの順に多いと思う。・ 日向市～延岡市線が病院を経由する回数を増やしてもらい利便性があがった。バス停も駐車場まで引き込み、待合所・屋根を設置している。
公共交通の再編および利用促進について
<ul style="list-style-type: none">・ 利用者を獲得するためには、運行本数を倍にする等、抜本的な改革も必要だと思う。・ 山間部は既存路線バスを利用しづらいため、オンデマンド方式でバス停までのフィーダー系統を運行する形が良いと思う。・ 利用が低迷する昼間の利用を増やすため、時間別運賃を設定する等も考えられる。・ 予算も限られるため、既存のバスを活かす形で新しい交通の検討が必要である。

(6) 商工関連施設

① 門川町商工会

現在の取組み状況について
<ul style="list-style-type: none">・ 通常の商工会業務として、会員管理、技術指導、金融などを行っている。・ 以前、買い物弱者への支援（配達方式）を行うことを検討したが、参加店舗がなく、実現はしなかった。自身で外出し、商品を自ら選びたいというニーズもあると思う。
商工会で行う行事・イベントについて
<ul style="list-style-type: none">・ 会員向けの潮干狩り、年に1回の物産展、花火大会などがある。・ 全国商工会が行う全国展開支援事業を活用し、水産加工品を活用した新商品開発に取り組んでいる（H26検討中）。
商工会からみた公共交通の課題・意見について
<ul style="list-style-type: none">・ 商工会としては、外出手段がないことで買い物できない方への支援は必要だと思う。・ 門川町の商店も少なくなっており、町民の外出を支援することで、買い物客が増え、地元商店が潤うといった好循環が必要だと思う。・ 現状の商店は、仕入れなどで苦しい経営状況に耐えている店舗もある。

② サンシールさの

現在の営業状況について
<ul style="list-style-type: none">・ 店舗での取扱いは、生鮮食品をはじめ家庭雑貨・衣料品なども扱っている。
店舗の利用者の特性について
<ul style="list-style-type: none">・ 東栄町からの来客が多く、西門川から来る人もいる。・ 1日あたりの利用者数は約3000人であり、特に盆、正月（8、12月）の利用者が多い。・ ピーク時間帯は11：00～12：00頃、16：00～18：00で、滞在は15分～20分程度である。・ 午前中は高齢者（主に60歳代、70歳代）が多く、夕方は30歳代、40歳代が多くなる。・ 高齢者は、主に電動車いす・自転車・車で来店し、路線バスの利用者は少ない。
施設からみた公共交通の課題・意見について
<ul style="list-style-type: none">・ 最寄のバス停から店舗入口までの距離が、高齢者にとって大変な苦労がある。・ 現在のバスを小型化し、店舗入口まで乗入れる等を行っても良いのではないか。
利用促進・経営改善のために行っていること
<ul style="list-style-type: none">・ 生鮮食品の販売イベントを定期的（主に水曜日と土曜日）に実施し、広告も行う。・ 高齢の利用者が荷物を持ち運びやすいよう、弁当を小分けにする等の工夫を行う。

③ ショッピングセンターまるさ

現在の営業状況について
<ul style="list-style-type: none">・ 店舗での取扱いは、主に漁港から仕入れる生鮮食品に力を入れて営業している。
店舗の利用者の特性について
<ul style="list-style-type: none">・ 主に庵川、加草周辺からの来客が多いが、土々呂（延岡）、日向方面からも来客がある。・ 1日あたりの利用者数は約200人弱であり、主に高齢者（70、80歳代）である。・ ピーク時間帯は12：00頃、17：00～18：00であり、滞在は15～20分程度である。・ 隣接する園田整骨院、または他の病院を利用した後に、買い物に来られる方が多い。
施設からみた公共交通の課題・意見について
<ul style="list-style-type: none">・ 高齢者にとっては、最寄のバス停から距離があるため、バスを利用する方はほとんどいない（代わりに、タクシーを駐車場まで乗り入れて利用する方が多い）。
利用促進・経営改善のために行っていること
<ul style="list-style-type: none">・ 水曜日と日曜日以外は特売（新鮮市⇒月火、ポイント5倍⇒木、週末祭⇒金・土）

④A コープ草川店

現在の営業状況について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 店舗での取扱いは、生鮮食品をはじめ衣料品、日用雑貨なども扱っている。 ・ 近隣の福祉施設「ふれあい地球館」を、月2回（第2、4火曜日 14:30～16:00）訪問し、菓子・果物などを販売している。
店舗の利用者の特性について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 五十鈴、庵川、平城周辺地区からの来客が多く、温泉施設「心の杜」へ行く途中で立ち寄られる方（弁当購入）が多い。また、土々呂（延岡）、日向方面からの来客もある。 ・ 1日あたりの利用者数は約350人であり、主に高齢者（60歳前後）である。 ・ ピークの時間帯は11:00～12:30頃、17:00～18:30で、滞在は30分程度である。
施設からみた公共交通の課題・意見について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅からバス停までが遠いため利用できないという方もいる。（五十鈴在住）
利用促進・経営改善のためにやっていること
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本社企画のイベント（主に生鮮食品）を週1回程度、自店企画のイベントを月2回（朝市）を実施している。

⑤A コープ門川店

現在の営業状況について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 店舗での取扱いは、生鮮食品をはじめ衣料品、酒・たばこ類も扱っている。
店舗の利用者の特性について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 西門川、五十鈴、平城の方面からの利用客が多い（病院等と合わせて利用）。 ・ 1日あたりの利用者数は約1000人であり、主に30～50歳代である。 ・ ピークの時間帯は17:00～18:30で、高齢者は午前中に多い。 ・ タクシー会社の方に、買い物をしてもらっている人もいる。
施設からみた公共交通の課題・意見について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 店舗前の道路幅が広いにも関わらず、バス停が店舗付近にないため不便である。店舗の前にバス停を設置し、入口から近い位置に変更してもらいたい。
利用促進・経営改善のためにやっていること
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本社企画のイベント（主に生鮮食品）を週2回程度、自店企画のイベントを月2回（第1・3土曜日の朝市）を実施している。

(7) 観光拠点施設

①海遊物産館 うみすずめ

現在の運営状況について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 店舗での取扱いは、水揚げのしらす、へべす、金はも等の生鮮食品を扱っている。 ・ 魚が捕れた日は、週1～2回程度、西門川方面に移動販売を行っている。
店舗の利用者の特性について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日あたりの利用者数は、平均130人程度である。都城や川南、日向（富島）からのバス、観光バスの団体などが訪れている。 ・ ピークの時間帯は11:30～12:30頃で、1グループの滞在は40分程度である。
施設からみた公共交通の課題・意見について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 近くにバス停がなく、また、JRからも交通がないため、不便な状況にある。 ・ 高速バスの停留所が近くにない、施設の立地が国道10号から離れている等により、来訪者にとってわかりづらく、誘客がしづらい環境にある。
利用促進・経営改善のためにやっていること
<ul style="list-style-type: none"> ・ 月1回（第4日曜日）、朝の時間帯で「みんなと朝市」を行っている。 ・ 日向駅前で開催されるイベントに参加することがある。 （試食企画：はものゆびき、みりん漬、カレー味のフライ） ・ 来年、高速スマートICが完成すれば、SAにパンフレットを置き誘客したい。

4 既存路線バスの利用実態調査

門川町における幹線路線を担う既存の路線バスについて、利用実態調査を行い、詳細な利用状況の整理を行った。

調査期間：平成 26 年 10 月 31 日（金） 終日

調査対象：2 路線全便（日向市～延岡市区間、日向市～美郷町北郷区間）

調査方法：全便に調査員が乗り込み、乗降客数調査、聞き取り調査を実施

(1) 運行系統に関する調査

乗降調査および聞き取り調査の対象とした運行系統を以下に示す。「日向市～延岡市区間」計 32 便、「日向市～美郷町北郷区間」計 12 便の全便を対象として調査を実施した。

利用実態調査の対象系統

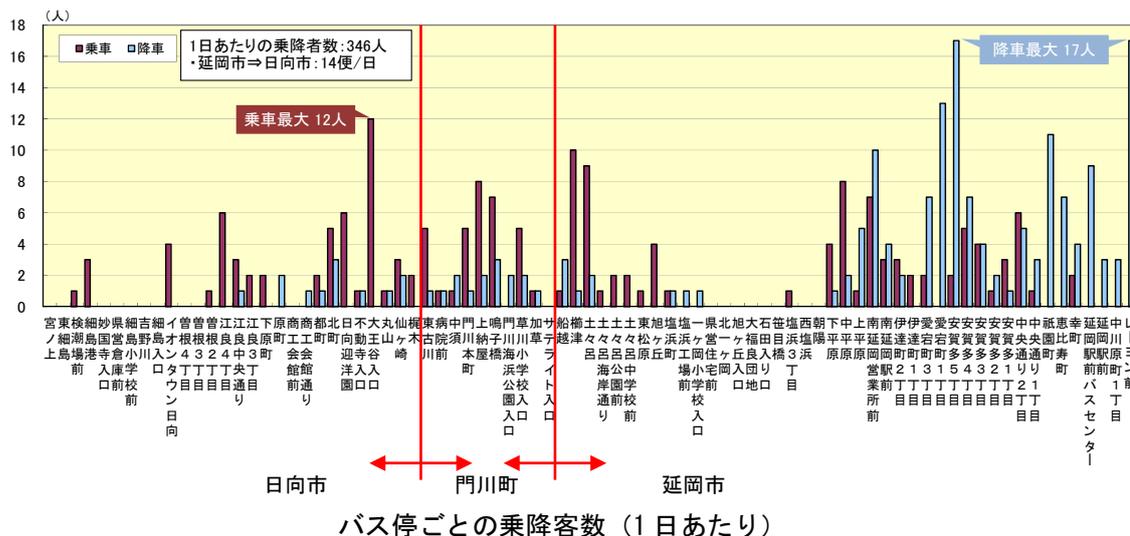
分類	運行系統			運行エリア			運行便		
	路線名	キロ程 (km)	運行便数 (便)	起点	主な経由地	終点	発車時刻	発地	
延岡 ⇄ 日向	延岡～原町～東細島～宮ノ上	28.4	4.0	延岡BC	原町 東細島	宮ノ上	12:29	宮ノ上	
							14:30	延岡BC	
							15:29	宮ノ上	
							16:00	延岡BC	
	延岡～日向病院～東細島～宮ノ上	29	6.0	延岡BC	日向病院 東細島	宮ノ上	7:29	宮ノ上	
							8:29	宮ノ上	
							9:10	延岡BC	
							9:29	宮ノ上	
							12:30	延岡BC	
	イオンタウン日向～一ヶ岡～レーヨン	27	8.0	イオンタウン 日向	一ヶ岡	レーヨン	17:30	延岡BC	
							16:40	イオンタウン日向	
							18:07	レーヨン	
							19:00	イオンタウン日向	
							19:07	レーヨン	
							19:57	レーヨン	
							21:17	レーヨン	
							21:30	イオンタウン日向	
	イオンタウン日向～日向病院～延岡～レーヨン	26.1	7.0	イオンタウン 日向	日向病院 延岡BC	レーヨン	23:52	レーヨン	
							6:20	イオンタウン日向	
							7:37	レーヨン	
10:27							レーヨン		
11:37							レーヨン		
11:40							イオンタウン日向		
13:40							イオンタウン日向		
イオンタウン日向～延岡～レーヨン	25.5	7.0	イオンタウン 日向	延岡BC	レーヨン	14:57	レーヨン		
						6:00	イオンタウン日向		
						6:17	レーヨン		
						10:00	イオンタウン日向		
						10:40	イオンタウン日向		
						13:07	レーヨン		
						14:40	イオンタウン日向		
日向 ⇄ 小原	イオンタウン日向～宇納間～小原	49.9	8.0	イオンタウン 日向	宇納間	小原	16:47	レーヨン	
							6:30	小原	
							7:54	小原	
							10:21	イオンタウン日向	
							12:21	イオンタウン日向	
							12:50	小原	
							14:46	イオンタウン日向	
	(黒木～診療所前～小原)	15.2	4.0	黒木	診療所前	小原	15:00	小原	
							17:21	イオンタウン日向	
							7:20	黒木	
								17:00	小原
								17:30	黒木
								18:00	小原

(2) 日向市～延岡市路線の利用実態

① 日向市～延岡市路線の利用状況

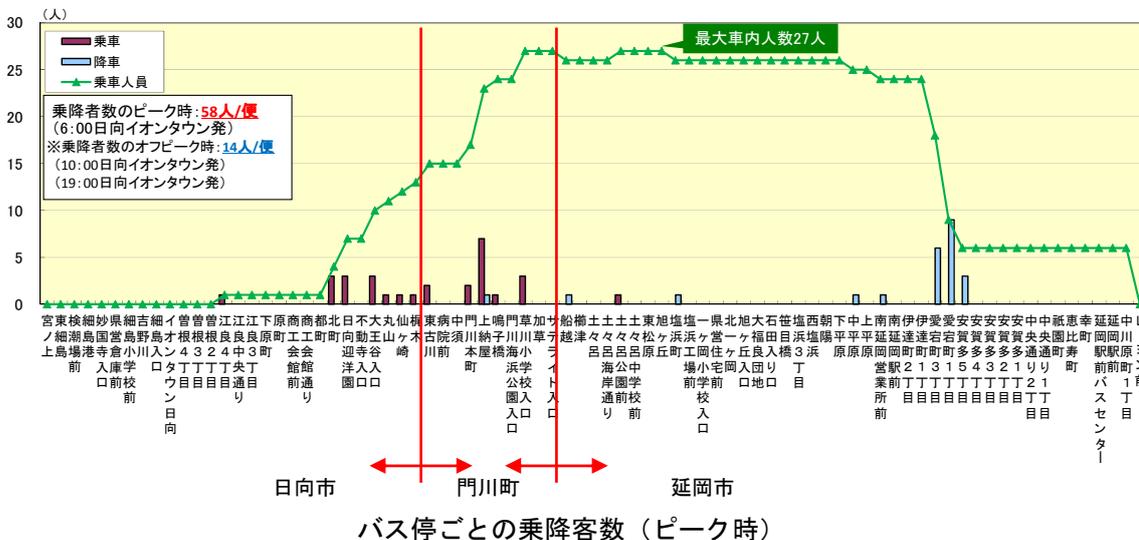
【1日あたり乗降客数：日向市 ⇒ 延岡市方面】

- ・1日の乗降客数は計346人(全14便)であり、1便あたり平均24.7人/便となっている。
- ・バス停別の乗降客数では、延岡市の利用が多く、門川町では上納屋、鳴子橋、東古川、門川本町、草川小学校入口の乗車が比較的多くみられる。



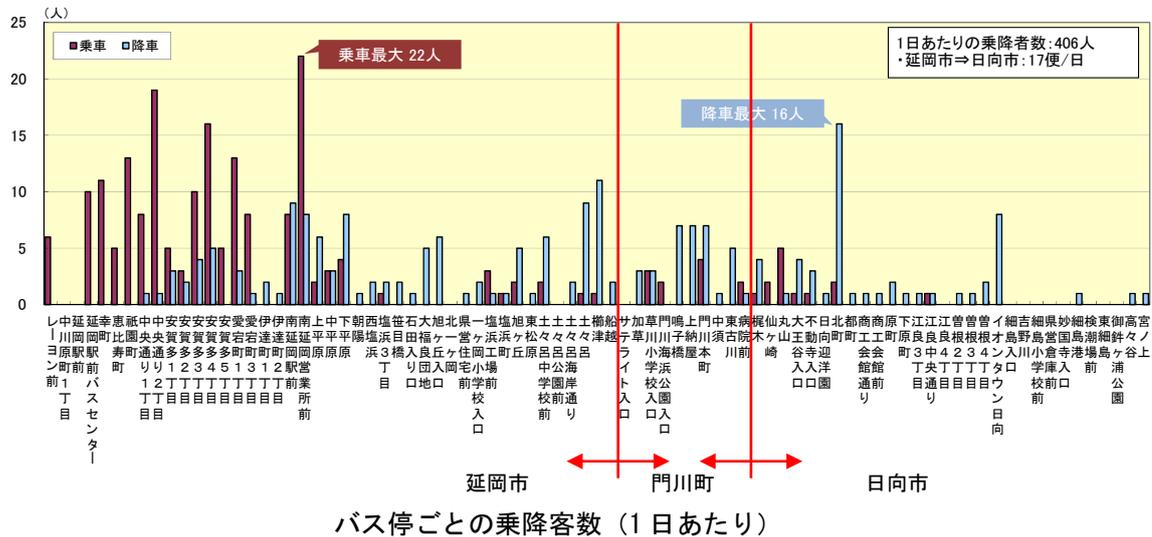
【ピーク時乗降客数：日向市 ⇒ 延岡市方面】

- ・乗降客数のピークは、「6:00日向イオンタウン発」の58人/便である。
- ・利用客は、日向市（北町、迎洋園等）や上納屋からの乗車が多く、ほとんどは延岡市（愛宕町、安賀多、レーヨン）等で降車し、車内の最大人数は27人となっている。
- ・また、利用オフピークは、「10:00イオンタウン発」「19:00イオンタウン発」の14人/便である。



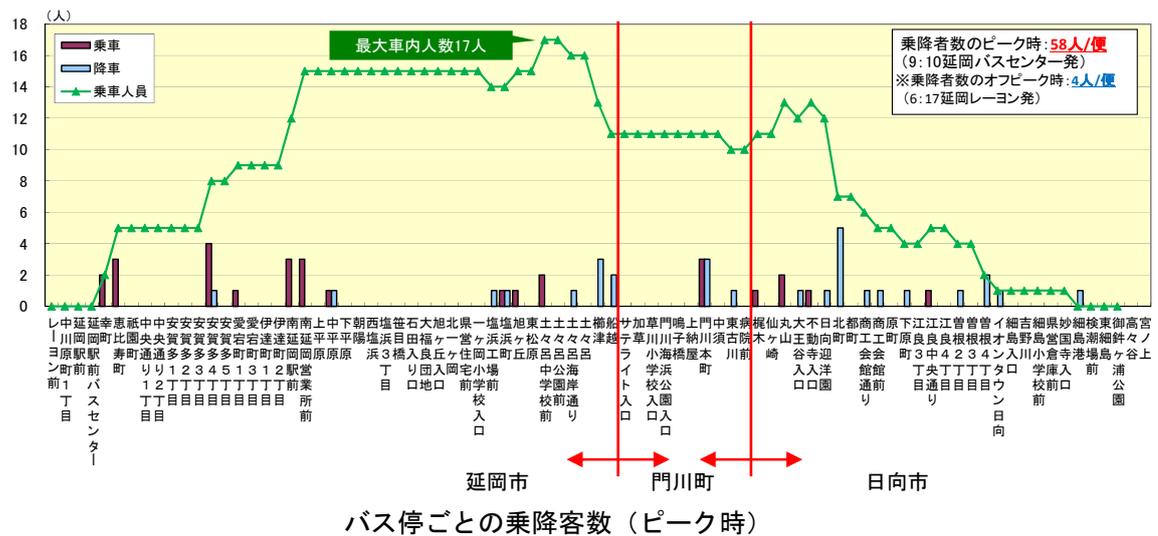
【1日あたり乗降客数：延岡市 ⇒ 日向市方面】

- ・1日の乗降客数は計406人(全17便)であり、1便あたり平均23.9人/便となっている。
- ・バス停別の乗降客数では、延岡市の利用が多く、門川町内では鳴子橋、上納屋、門川本町の降車が比較的多くみられる。



【ピーク時乗降客数：延岡市 ⇒ 日向市方面】

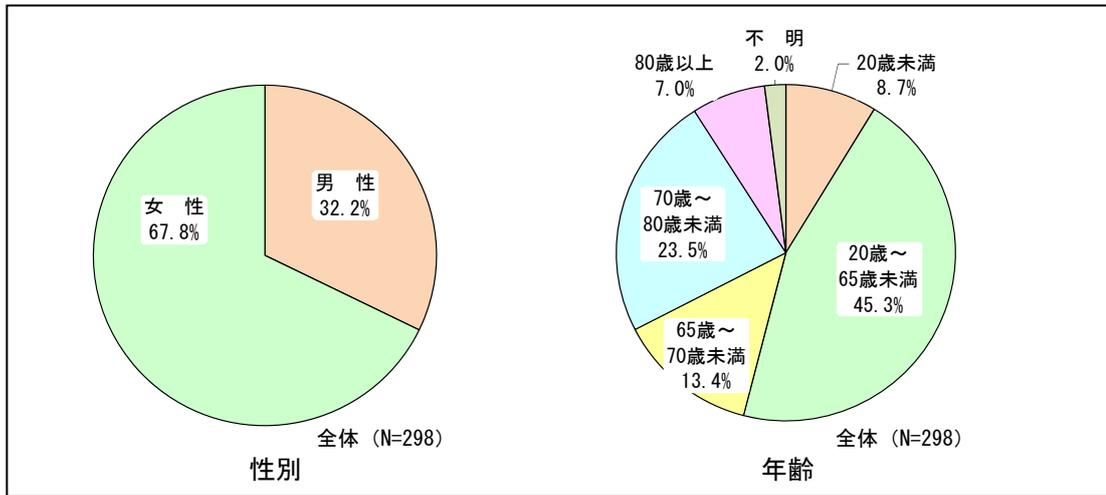
- ・乗降者数のピークは、「9:10延岡バスセンター発」の58人/便である。
- ・利用客は、延岡市（安賀多、恵美須町、南延岡駅等）での乗車が多く、土々呂周辺や日向市（北町、イオンタウン日向周辺）で降車し、車内の最大人数は17人となっている。
- ・また、利用オフピークは、「6:17延岡レーヨン発」の4人/便である。



②日向市～延岡市路線の利用者特性

【性別・年齢層】

- ・女性の利用者が多く、20歳～65歳未満が最も多いが、幅広い年代の利用がある。



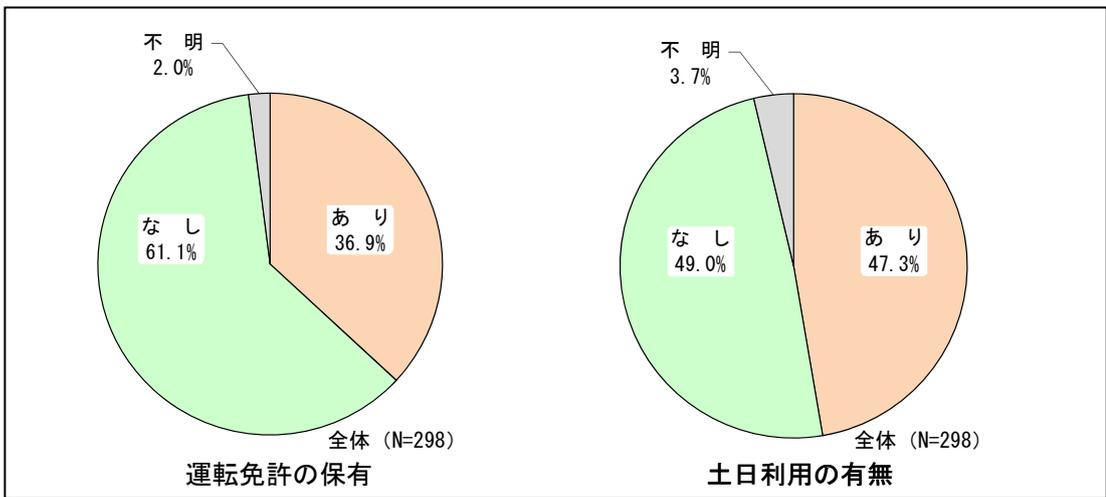
【利用目的】

- ・利用目的は「通勤」が27.5%と最も多く、「20歳～65歳未満」に多い。乗車時間は、朝は6時～7時台、夕方は18時台以降で利用されている。
- ・昼間の時間帯9時台～15時台では、「通院」「買い物」の利用がみられ、「65歳代上」の利用客が多くなっている。

	サンプル数	通学	通勤	通院	買い物	その他	無回答	
全体	298	8.4	27.5	19.8	19.1	13.4	14.4	
年齢別	20歳未満	26	65.4	23.1	3.8	-	-	7.7
	20歳～65歳未満	135	3.7	49.6	9.6	14.1	13.3	11.9
	65歳～70歳未満	40	2.5	15.0	30.0	22.5	22.5	10.0
	70歳～80歳未満	70	-	1.4	35.7	25.7	15.7	25.7
	80歳以上	21	-	4.8	33.3	47.6	4.8	14.3
	無回答	6	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	-
乗車時間別	6時台	35	20.0	71.4	2.9	-	2.9	2.9
	7時台	16	12.5	37.5	25.0	-	6.3	18.8
	8時台	14	-	7.1	21.4	42.9	21.4	7.1
	9時台	34	-	11.8	50.0	8.8	14.7	17.6
	10時台	34	-	5.9	32.4	26.5	2.9	35.3
	11時台	17	-	-	23.5	17.6	5.9	52.9
	12時台	17	-	5.9	41.2	17.6	35.3	5.9
	13時台	19	-	15.8	31.6	26.3	21.1	5.3
	14時台	27	3.7	25.9	-	48.1	14.8	14.8
	15時台	10	-	20.0	-	60.0	10.0	10.0
	16時台	17	11.8	35.3	17.6	11.8	23.5	11.8
	17時台	12	33.3	25.0	8.3	33.3	8.3	-
	18時台	10	20.0	50.0	-	20.0	-	10.0
	19時台	23	30.4	43.5	-	4.3	21.7	-
20時台	-	-	-	-	-	-	-	
21時台	10	-	50.0	10.0	-	30.0	10.0	
22時台	-	-	-	-	-	-	-	
23時台	3	-	66.7	33.3	-	-	-	

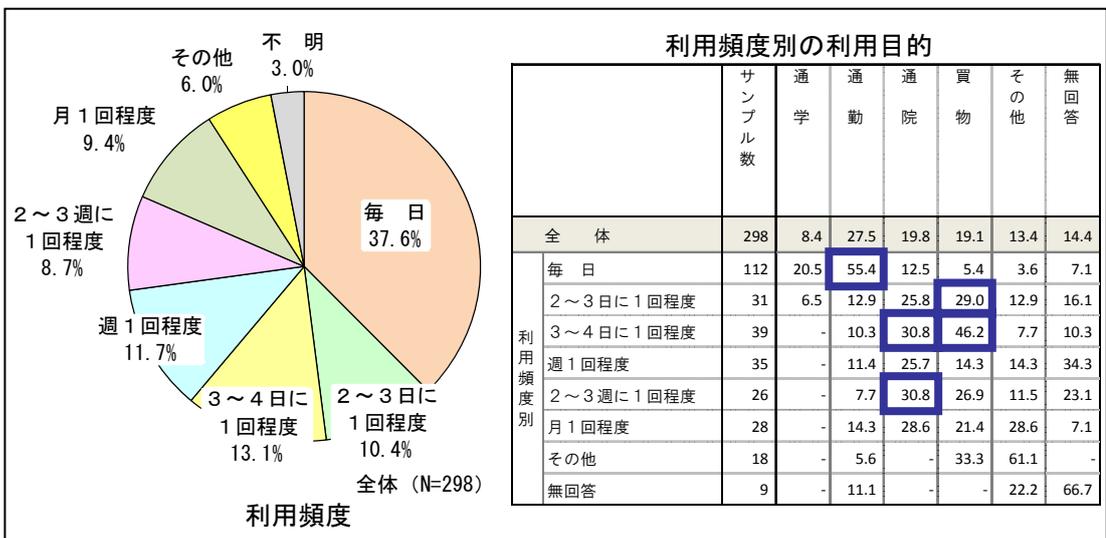
【運転免許・土日利用の有無】

・全体的に運転免許を持っていない利用者の割合が高い。また、土日利用の有無については、あり・なしが半数ずつの回答となっている。



【利用頻度】

・利用頻度は「毎日」の割合が比較的高く、その多くは利用目的を「通勤」としている。「通院」は「3～4日に1回」、「2～3週に1回」が比較的多く、「買い物」は「2～3日に1回」、「3～4日に1回」が多くなっている。

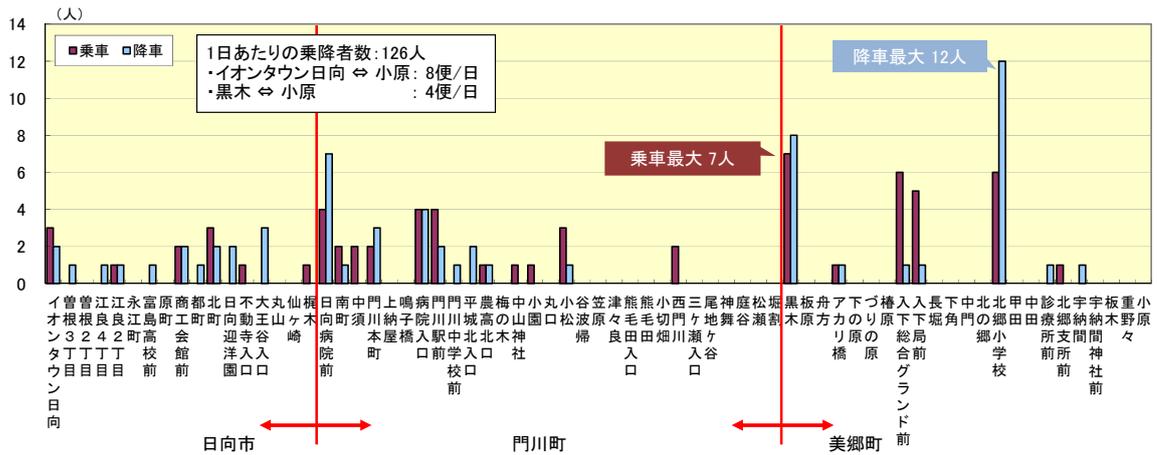


(3) 日向市～美郷町北郷路線の利用実態

① 日向市～美郷町北郷路線の利用状況

【1日あたりの乗降客数：イオンタウン日向 ⇄ 小原】

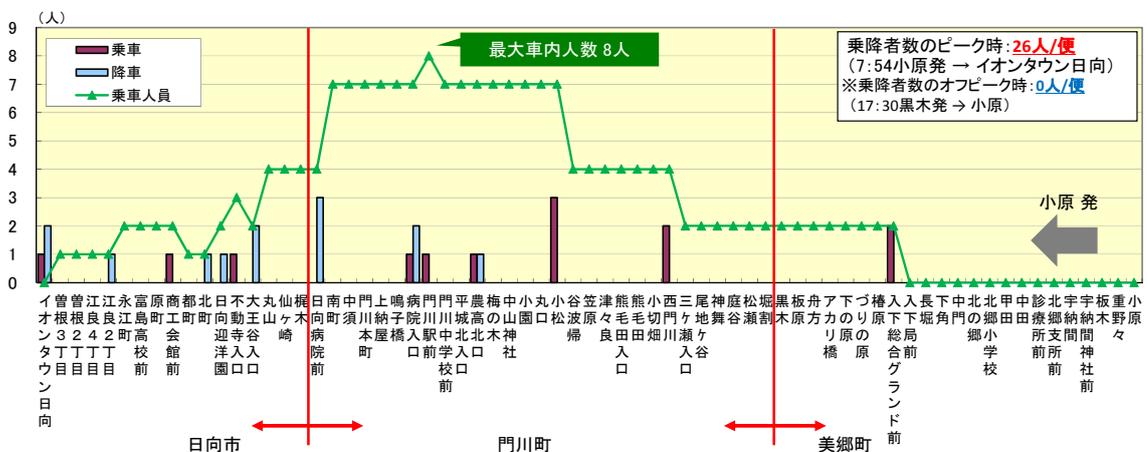
- ・1日の乗降客数は計126人(全12便)であり、1便あたり平均10.5人/便となっている。
- ・バス停別の乗降客数では、美郷町の利用が多く、小学生の通学利用も含まれている。
- ・門川町内では日向病院、病院入口、門川駅前での乗降客がみられ、西門川周辺の利用は少ない状況にある。



バス停ごとの乗降客数（1日あたり）

【ピーク時乗降客数：イオンタウン日向 ⇄ 小原】

- ・乗降者数のピークは、「7:54小原発 → イオンタウン日向」の26人/便である。
- ・利用客は、美郷町や西門川などから、日向病院、大王谷入口、イオンタウン日向等へ利用されており、車内の最大人数は8人となっている。
- ・また、利用オフピークは、「17:30黒木発 → 小原」の0人/便である。

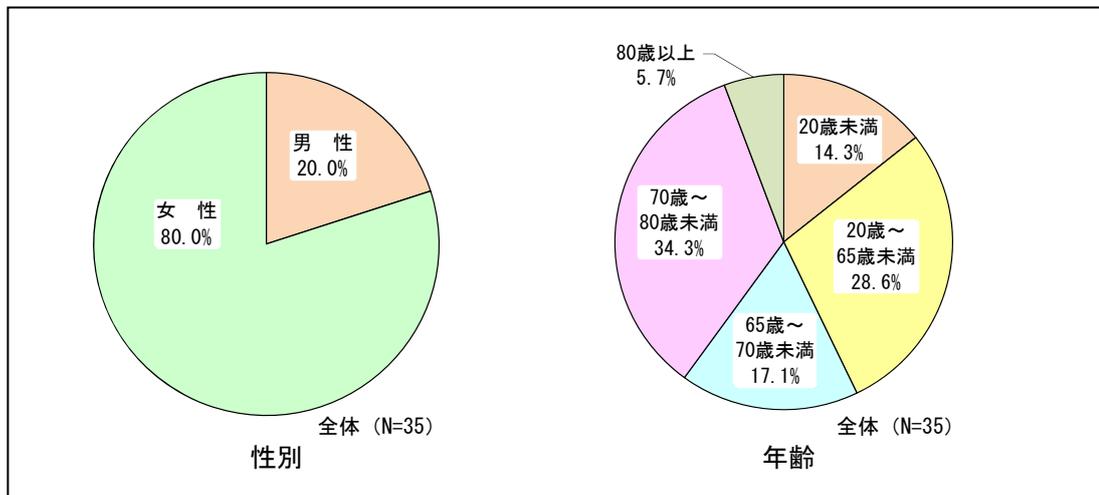


バス停ごとの乗降客数（ピーク時）

②日向市～美郷町北郷路線の利用者特性

【性別・年齢層】

- ・女性利用者が全体の8割を占め、70歳～80歳未満が最も多くなっている。



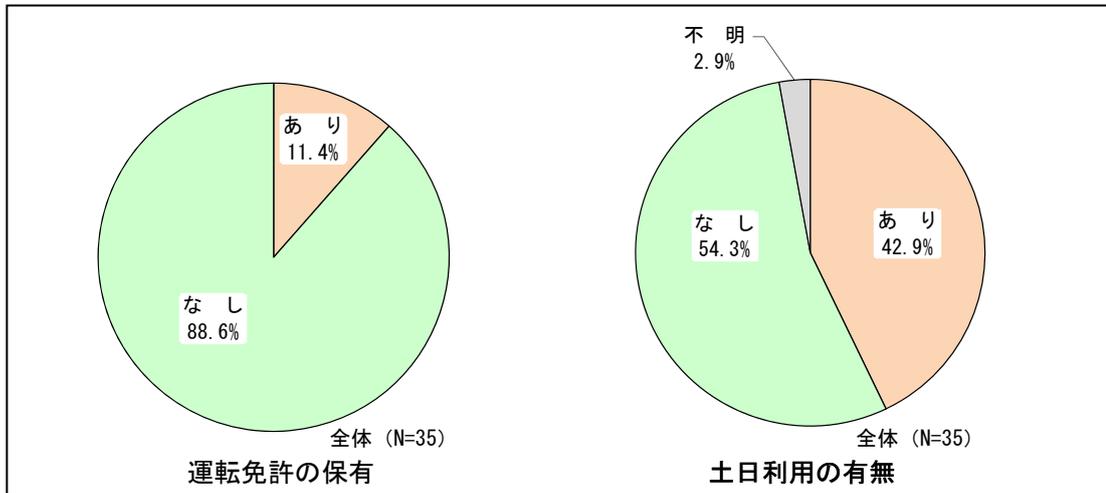
【利用目的】

- ・利用目的は「通院」が45.7%と最も多く、「65歳以上」に多い。乗車時間は、7時、10時台、ならびに12時台、14時台・15時台で利用されている。
- ・朝は一部、「通学・通勤」の利用がみられ、夕方は小学生の通学に利用される。

	サンプル数	通学	通勤	通院	買物	その他	無回答
全体	35	11.4	11.4	45.7	8.6	17.1	8.6
年齢別	20歳未満	5	80.0	-	-	-	20.0
	20歳～65歳未満	10	-	40.0	40.0	10.0	10.0
	65歳～70歳未満	6	-	-	66.7	-	33.3
	70歳～80歳未満	12	-	-	66.7	16.7	16.7
	80歳以上	2	-	-	-	-	100.0
乗車時間別	6時台	6	-	50.0	16.7	-	16.7
	7時台	5	20.0	-	60.0	-	20.0
	8時台	-	-	-	-	-	-
	9時台	-	-	-	-	-	-
	10時台	6	-	16.7	50.0	-	33.3
	11時台	-	-	-	-	-	-
	12時台	7	-	-	57.1	14.3	14.3
	13時台	-	-	-	-	-	-
	14時台	5	-	-	80.0	20.0	-
	15時台	1	-	-	100.0	100.0	-
	16時台	-	-	-	-	-	-
17時台	2	50.0	-	-	-	50.0	
18時台	3	66.7	-	-	-	33.3	

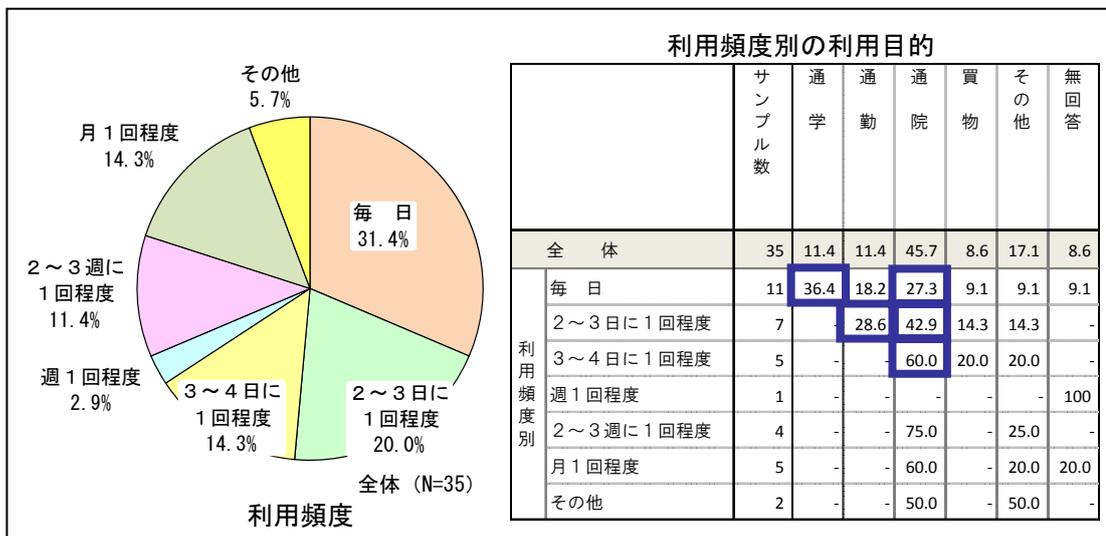
【運転免許・土日利用の有無】

- ・運転免許を持っていない利用者の割合が約 89%と、ほとんどの割合を占めている。また、土日利用については、約 43%の利用者が「利用あり」と回答している。



【利用頻度】

- ・利用頻度は「毎日」の割合が比較的高く、その多くは利用目的を「通学」「通院」としている。「3～4日に1回」、「2～3週に1回」の回答者では、利用目的を「通院」とする方が多く、「2～3週に1回」では「通勤」の利用もみられる。



第4章 門川町における公共交通の現状と課題

1 新たな需要の創出に向けた利用促進および意識喚起の必要性

現在の公共交通は利用率が下がりつつも、国や県、門川町の財政支援によって支えられており、買い物・通院などの従来の移動目的以外にも利用の動機づけを行い、需要を創出するための利用促進が必要である。かどがわ納涼花火大会や福祉ふれあい祭り、地区行事や商業・観光施設でのイベント等に対応した公共交通のあり方を検討し利用促進を図る。

また、公共交通の維持に係る諸問題についても、町民に周知を図り、利用がなければ路線バス等の維持が難しい等の問題意識の啓発に取り組んでいく必要がある。

2 町民の外出実態・ニーズを踏まえた公共交通網の構築

門川町において、日常生活の機能は門川地区に一極集中している状況にあり、各地区の人は通院・買い物のために門川地区まで出向く必要がある（利用ニーズの高い施設が複数立地）。しかし、現在運行する路線バスは国道を通行する単線のみであり、各地区から門川地区への外出ニーズに対応するためには路線の不足がみられ、新たな路線網の構築が必要である。

3 交通弱者の日常生活をサポートするための移動支援

交通空白地域に居住する交通弱者は、外出する際に親族や隣人等に送迎を頼みながら日常生活を送る一方で、送迎を頼むことへの遠慮から、極力外出を控えている実態があり、日常生活で支障なく外出できる環境を整える必要がある。

ただし、各地区の交通弱者の需要は少なく、また、広域に点在しているため、少ない需要にも対応し得る移動手段について検討が必要である。

4 広域移動を支える鉄道・既存路線バスのサービスの維持・向上

門川町民の生活行動は、日向市・延岡市との関連性も大きく、鉄道および既存路線バス等の地域間を縦断する公共交通を継続的に維持していく必要がある。合わせて、運行の遅れに関する改善要望や交通結節機能を高め、利用者の減少に歯止めをかけるための工夫が必要となる（ニーズ調査結果において、日向市方面の路線バス要望あり）。

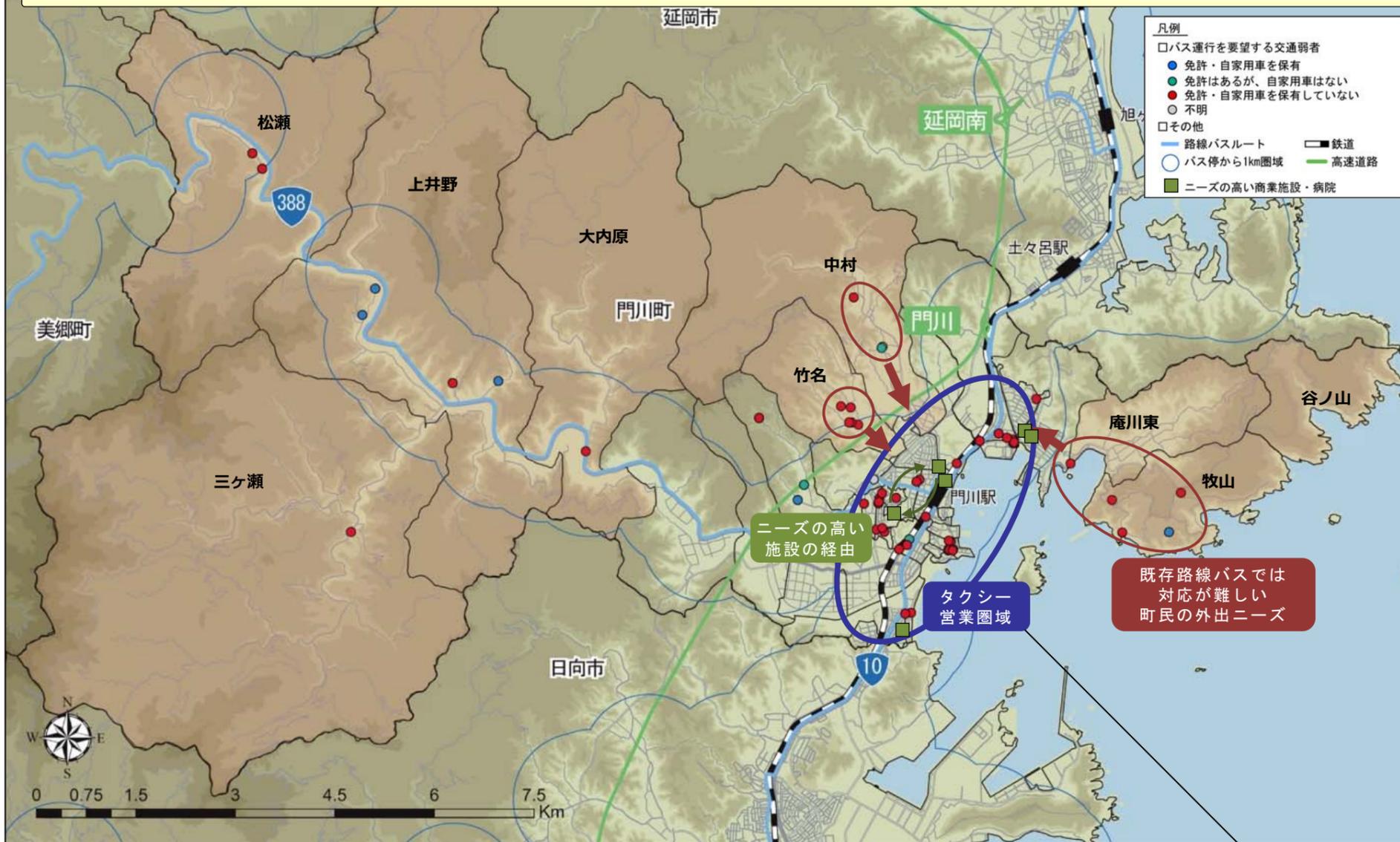
5 利用しやすい待合環境・運行しやすい走行環境の改善

現在の路線バスは、居住地や目的施設からバス停が離れている、バス停で待つ間の休める施設がない等、改善を求めるニーズがある。一方で、商業施設や病院からの協力を示す意見も挙がっており、公共交通の利用しやすさを向上するための環境改善が必要である。

また、門川駅とバス停の離れ、サンシールさの前や国道 388 号等の狭小区間など、路線バスを運行する上での課題箇所もあり、運行しやすさの視点からも改善が必要である。

門川町における交通空白地域の現状と課題

個別訪問調査で「路線バスのバス停から離れているので、新たにルートの新設してほしい」と要望する交通弱者の需要を抽出（免許・自動車の有無別）



竹名地区

- 交通弱者 世帯数 **5世帯**（うちバス運行の要望者 **5世帯**）
- 現在の移動手段：親族による送迎、タクシー
- 公共交通の利用への意見
 - ・バス停が近くにないため、利用できない。
 - ・距離はあるが、サンシールさまで自転車で行く交通弱者の方もいる。
- 外出頻度：不定期（週1回など）

中村地区

- 交通弱者 世帯数：**5世帯**（うちバス運行の要望者 **3世帯**）
- 現在の移動手段：親族による送迎、タクシー、徒歩、自転車
- 公共交通の利用への意見
 - ・路線バスを近くまで通してほしい。
- 外出頻度：不定期（週2、3回）

庵川東地区

- 交通弱者 世帯数：**32世帯**（うちバス運行の要望者 **1世帯**）
- 現在の移動手段：タクシー利用、親族・近隣住民による送迎
- 公共交通の利用への意見
 - ・路線バスは遠く、利用できないためタクシーを利用している。
 - ・A コープ草川店まで歩いていくことがあるが、帰りは荷物があため、タクシーを使う。
- 外出頻度：週1回、2週に1回など

谷ノ山地区

- 交通弱者 世帯数：**1世帯**（うちバス運行の要望者 なし）
- 現在の移動手段：同じ集落の住民による送迎
- 公共交通の利用への意見
 - ・同じ集落の住民が外出にあわせて通院・買い物を行う。
 - ・極力、外出を抑えるようにしている。（送迎を行う者が定期的に用件を確認している）
- 外出頻度：不定期（2週に1回など）

牧山地区

- 交通弱者 世帯数：**13世帯**（うちバス運行の要望者 **5世帯**）
- 現在の移動手段：親族に送迎を頼む
- 公共交通の利用への意見
 - ・子どもの仕事が休みの日まで待ち、送迎を頼む。
 - ・どうしても必要な場合、平日の夕方など、子どもの仕事終わりに病院へ送迎してもらうこともある。
- 外出頻度：週1回程度

タクシー営業圏の実情

既存の交通事業者であるタクシー事業者が営業を行っているエリアであり、競合が懸念される。



一方で、アンケート調査や個別訪問調査からは、タクシーは料金が高いため、利用することや外出を抑えている状況を把握している。

松瀬地区

- 交通弱者 世帯数 **5世帯**（うちバス運行の要望者 **2世帯**）
- 現在の移動手段：路線バス
- 公共交通の利用への意見
 - ・料金を安くしてほしい。時間の見直し。
- 外出頻度：不定期（週1回）

上井野地区

- 交通弱者 世帯数 **11世帯**（うちバス運行の要望者 **4世帯**）
- 現在の移動手段：路線バス、親族による送迎
- 公共交通の利用への意見
 - ・足が悪く歩けない。バス停が遠いため、バス停を近くに置いてほしい。
- 外出頻度：不定期（週1回、2回）

三ヶ瀬地区

- 交通弱者 世帯数 **2世帯**（うちバス運行の要望者 **1世帯**）
- 現在の移動手段：路線バス、親族（町外居住）による送迎
- 公共交通の利用への意見
 - ・バス停まで遠いにも関わらず、路線バスを利用している。
 - ・料金が高いため、タクシーを利用できない。
- 外出頻度：不定期（週1回など）

大内原地区

- 交通弱者 世帯数 **6世帯**（うちバス運行の要望者 **1世帯**）
- 現在の移動手段：路線バス、親族の送迎
- 公共交通の利用への意見
 - ・子どもと同居であっても、昼間は仕事等で頼めない場合がある（路線バスを利用）。
 - ・利用したい施設があってもバス停が近くにないために利用できない方もいる。
- 外出頻度：不定期（週1回、月1回）

第5章 門川町の地域公共交通網の形成に向けた方針

1 門川町が目指すまちづくりの方針

門川町が目指すまちづくりの基本方針や道路・交通体系の整備方針から、将来における地域公共交通のあり方を示すため、上位計画・関連計画が示す方向性を整理する。

(1) 第5次門川町長期総合計画

平成23年4月に第5次門川町長期総合計画（H23～H32）が策定され、「日本一住みよい門川町」を実現するための基本構想として、5つの柱となる政策が立案されている。

第5次門川町長期総合計画（H23.4）

【基本理念】「日本一住みよい門川町」の実現

誰もが住みよい町を目指すために「町民一人ひとりが主役の町づくり」を推進する

I 快適生活のまちづくり

第6節 交通基盤の整備

日常生活や経済活動の基盤である道路については、東九州自動車道の早期完成及び九州横断自動車道延岡線の早期整備や国道・県道の早期改良を働きかけるとともに、町道の改良・補修・整備などを進め、体系的で利便性の高い道路網の整備に努めます。また、道路のバリアフリー化を図るとともに、道路美化など町民と連携した自主的な取り組みを推進します。

鉄道・バスなどの公共交通機関については、**利用者の利便性確保に努めるとともに更なる利用促進に向けた各種事業を展開し、周辺市町村と協力して公共交通の維持に努めます。**

II 産業創造のまちづくり

第4節 商業の振興

県及び商工会と連携し、個性ある店づくりを支援するとともに、本町の立地条件も踏まえ、**コミュニティ機能の充実や集客力のある店舗の確保**など町民にとって魅力ある商店街づくりを進めます。また、本町の特産品販売や情報発信を目的とした施設を整備充実し、他産業も含めた活性化を図ります。

第6節 観光の振興

本町の豊かな自然を生かした観光振興を進めるとともに、観光地としての魅力をさらに高めるための観光地整備を図ります。また、町内他産業とも連携し、新たな土産品開発や観光漁業など地域産業の活用を図ります。さらに、**高速道路整備を視野にいたした周辺市町村との広域観光ルート**の形成、**観光振興の基盤としての交通条件の充実**を図ります。

III 心豊かなまちづくり

IV 福祉・健康のまちづくり（本章1-（3）にて、地域福祉総合計画の内容を詳述）

V 計画推進のための行政の充実

第4節 「町民一人ひとりが主役の町づくり」の推進

地方分権化が進む中で、地域の自主・自立が求められています。**住民に身近な課題については、住民自ら考え、行政との協働と役割分担により、よりよい生活を実現する活動として「町民一人ひとりが主役の町づくり」を推進します。**

(2)門川町都市計画マスタープラン

日向延岡新産業都市計画として策定された都市計画区域マスタープラン（H24.3）、第5次門川町長期総合計画を上位計画としながら、平成26年度に門川町都市計画マスタープランの策定が予定されている。

門川町都市計画マスタープラン（H26年度 策定予定）

【基本理念】『日本一住みよい（門川）』を目指して

～夢と希望に溢れた人と自然にやさしいまちづくり～

将来目標① 町民・行政が協働でつくる安全・安心なまち（門川）

行政によるハード整備によって、安全性を一定レベルまでは高めることができますが、より安全性を高め「住みよいまち」にしていくためには、町民に自身の住むまちをより知ってもらい、災害時に自分の身を守ること（自助）、地域で助け合うこと（共助）、行政等が支援すること（公助）がとても重要です。

このことを念頭に置き、各分野が連携してハード面での安全性を高めるとともに、町民と行政が協働で安全・安心なまちをつくっていくことを目標とします。

将来目標② 広域的な視点に立った産業を創造するまち（門川）

本町の産業（特に工業）は日向市・延岡市との関連が強い状況にあります。この両市との連携による効果が図れる位置であることや、今後全線開通・整備が進む東九州自動車道をはじめとした九州管内の高速自動車道・門川南スマートインターチェンジを踏まえた広域的な視点をもって、産業・雇用を充実させていくことを目標とします。

将来目標③ 子供・孫の世代に夢や希望をつなぐまち（門川）

将来的に増える高齢者の日常生活等を支えるまちづくりを推進する一方で、子育てへの支援を進める等、高齢者や障害者、子育て世代等を含めたすべての町民にやさしいユニバーサルデザインの促進・町民と行政が協働でさまざまな町民を助け合う取り組みの推進を目標とします。

一方、本町の都市・地域としてのあり方については、上記の高齢者にとって「住みやすいまち」や限りある財政等に配慮し、日常生活に必要な機能を拡散させずに効果的に集約・強化するとともに、それら機能と居住地・集落との連携に配慮する『コンパクトなまち（日常生活に必要な機能の集約・強化と居住地との連携）』を目指します。

将来目標④ 門川の豊かな山・川・海を感じるまち

町民から「自然と共生したまちは残ってほしい」という意見が多いように、門川の豊かな自然（山・川・海）は、本町の宝といえます。

この本町の宝を守り、まちづくりや観光に活かしていくために、行政・町民・事業者が協働で、市街地周辺の奥地・里山も含めた、本町の豊かな自然を保全していくことを目指します。

参考 | 都市計画マスタープランで検討されている将来都市構造

- (1)「まちのゾーン」区分：市街地ゾーン、居住・産業ゾーン、自然保護ゾーン
- (2)「まちの軸」区分：広域連携軸（主要幹線道路や軌道など）、環境軸（河川など）
- (3)「まちの拠点」区分：交流拠点、交通拠点、行政拠点、観光拠点、産業拠点

(3)門川町地域福祉総合計画

福祉に関する関連計画として、門川町地域福祉総合計画の策定が平成 26 年度に予定されており、住民による自助、地域による共助の意識を高めるための活動、町や社会福祉協議会による住民生活の支援について、平成 27 年度以降の活動方針が計画されている。

門川町地域福祉総合計画（H26 年度 策定予定）

【基本理念】 やすらぎと生きがいのある福祉のまちづくり

基本目標Ⅰ 支えあう地域づくり

重点施策Ⅰ 福祉教育・生涯学習を進め、支え合う心を育てます。

【社会福祉協議会が行うこと】

- ・福祉ふれあい祭りを開催し、心豊かで潤いのある福祉の町づくりに努めます。
- ・福祉体験事業を実施し、福祉を学ぶ機会を充実させます。

【個人・家庭でできること】

- ・福祉講座・生涯学習講座に積極的に参加しましょう。

重点施策Ⅱ 小地域での住民同士の支え合い活動を進めます。

【町が行うこと】

- ・各地区活動の活性化を促進します。
- ・地域住民の交流の場の確保に努めます。

【社会福祉協議会が行うこと】

- ・いきいきサロン事業の周知・充実を図ります。
- ・各地区民生委員・児童委員、福祉推進委員との連携強化を図ります。

【個人・家庭でできること】

- ・各地区の行事に積極的に参加しましょう。

基本目標Ⅱ 安心・安全な地域づくり

重点施策Ⅱ 地域の見守り体制を強化します。

【地域でできること】

- ・いきいきサロンなど地域の住民が集える機会を増やしましょう。

【個人・家庭でできること】

- ・いきいきサロンなどの集いの場に積極的に参加しましょう。
- ・非常時にのみに他人に頼ってもうまくいきません。
日頃からの関係を大切にして普段から『助けられ上手』になりましょう。

重点施策Ⅳ バリアフリーの推進・地域安全点検に取り組みます。

【町が行うこと】

- ・おもいやり駐車場制度の普及・啓発を推進します。
- ・高齢者等の交通事故を防ぐため、交通安全教室を開催します。

【地域でできること】

- ・高齢者や障がい者が安心して外出できる地域づくりを進めましょう。

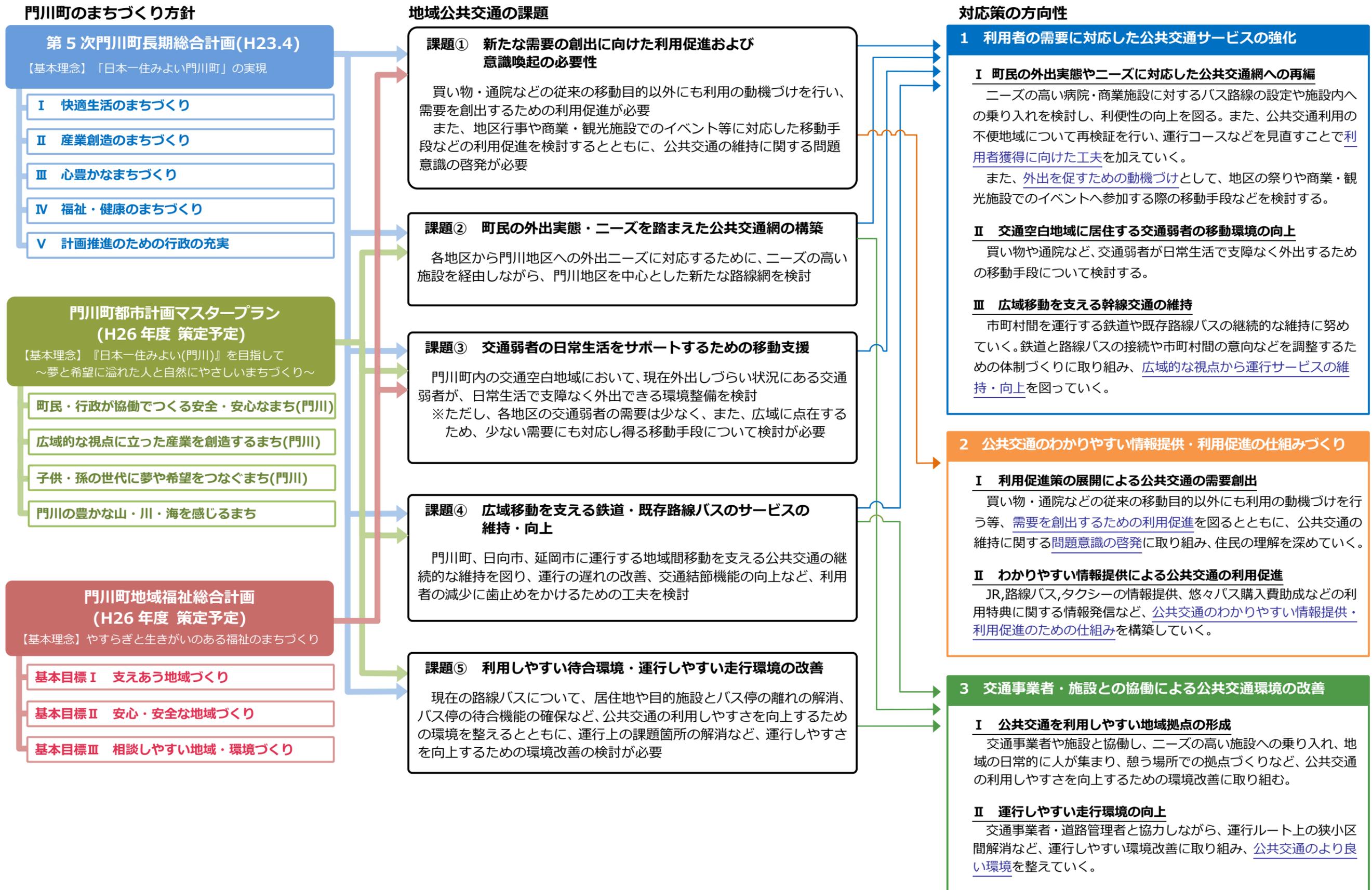
重点施策Ⅴ 社会的孤立者対策を推進します。

【地域でできること】

- ・隣近所で孤立している方がいないか心配り・目配りを実施しましょう。
- ・地区の民生委員・児童委員等と状況の把握に努めましょう。
- ・孤立しがちな方にいきいきサロン等の参加を促しましょう。

基本目標Ⅲ 相談しやすい地域・環境づくり

2 将来に向けた地域公共交通の課題と対応策の方向性



第6章 地域公共交通網の形成に向けた具体的方策

1 基本方針

第5次門川町長期総合計画(H23.4)、門川町都市計画マスタープラン(H26年度 策定予定)、門川町地域福祉総合計画(H26年度 策定予定)などに示される門川町のまちづくり方針を踏まえ、門川町の地域公共交通網の形成に向けた基本方針を以下のように設定する。

【基本理念】

まちの生活に根づいた“使いやすい”公共交通の構築

本町を運行する公共交通のうち、路線バスの利用者は減少傾向にあり、国や県、門川町等の財政支援によって維持されている。

一方で、本町は『日本一住みよいまちづくりの実現』に向けて、環境の保全や生活基盤整備の推進、活力あるまちを目指した産業の振興などを推進している。また、高齢者にとって「住みやすいまち」や本町の限りある財政に配慮し、日常生活に必要な機能を集約・強化した『コンパクトなまち』の形成を目指している。

誰もが住みよいまちの実現を支える公共交通として、本計画が目指す将来像を「まちの生活に根づいた“使いやすい”公共交通の構築」と捉え、門川町で暮らす住民にとって使いやすい公共交通の構築を目指す。

(1) 利用者の需要に対応した公共交通サービスの強化

公共交通の利用意識を促す利用促進に取り組みながら、町民の外出実態やニーズに対応した公共交通サービスへ見直していく。公共交通の必要性について町民の理解を深めることで、公共交通の利用を広げ、日常的に利用しやすい公共交通を町民と共に守り育てていく。

(2) 公共交通のわかりやすい情報提供・利用促進の仕組みづくり

門川町に運行する鉄道、路線バス、タクシーの公共交通に関して、門川町民の視点から利用方法などがわかりやすい情報の提供を行っていく。利用者にとって使いやすい情報環境を整えていくことで、さらなる利用促進を図る。

(3) 交通事業者・施設との協働による公共交通環境の改善

地域住民や施設等との協働により、日常的に人が集まり、賑わう場所での地域拠点の形成を図り、公共交通の利用しやすい拠点を形成するとともに、コミュニティの場としての活用を目指す。

また、地域住民や交通事業者等と協働しながら、運行しやすい環境改善に取り組み、利用者が安全・快適に利用できる公共交通の走行環境を維持していく。

2 門川町地域公共交通網形成計画の役割

(1) コンパクトなまちづくりを支える公共交通網の構築

本町は、日常生活に必要な機能を拡散せずに効果的に集約・強化し、高齢者にとっても住みやすい『コンパクトなまち』の形成を目指している。商業施設や病院、交流施設等と住居がまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通を使ってそれぞれの施設にアクセスできるなど、まちづくりと一体となった公共交通サービスの確保が必要である。

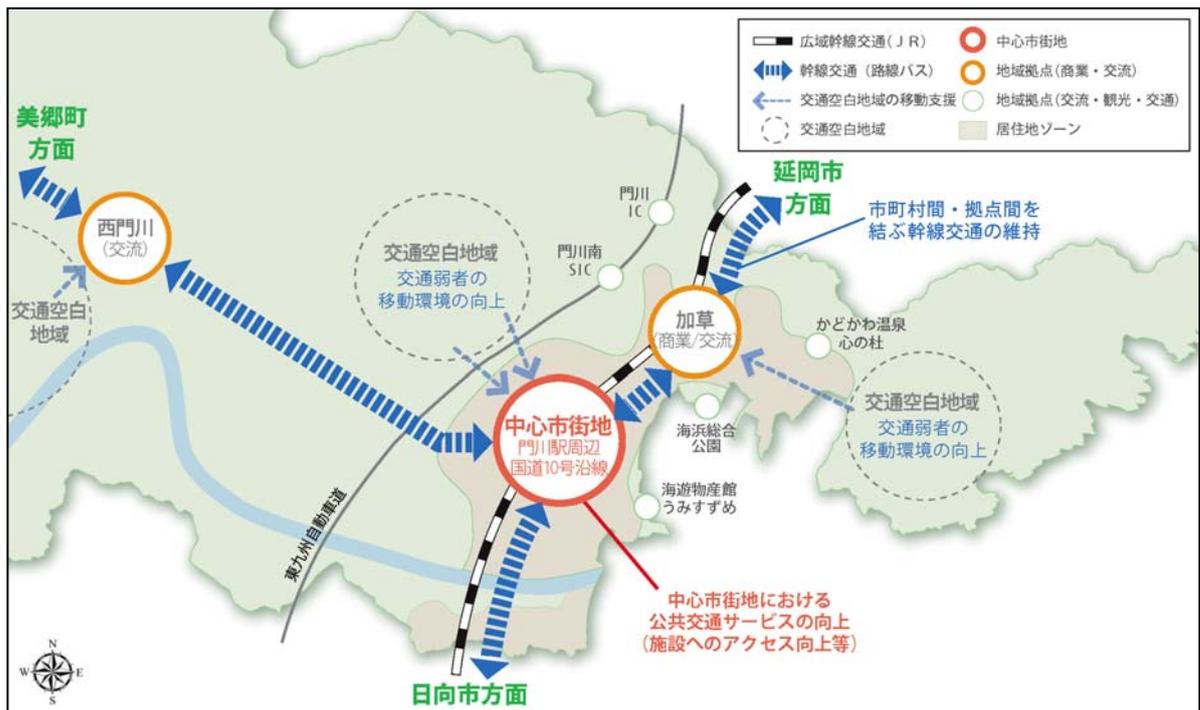
これら上位計画や公共交通の配置状況を踏まえ、公共交通が果たすべき役割を示す。

上位計画における取組方針と公共交通が果たすべき役割

上位計画	公共交通に関する取組み方針（抜粋）
長期総合計画	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道交通については、鉄道利用者の利便性や快適性を高めるため、関係市町村と連携しながら鉄道交通の整備を推進する。 ・バス交通については、幹線道路網の整備を図るとともに、廃止路線における代替バス運行補助やバス利用促進事業など、日向・東臼杵市町村振興協議会等の広域的な枠組みにおいて継続して実施し、路線の確保に努める。 ・交通空白地域における交通手段の確保についても検討する。
都市計画マスタープラン	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の進展・交通弱者の増加によって、今後更に公共交通機関の重要性が高まることを踏まえ、廃止路線における代替バス運行補助やバス利用促進事業など、日向・東臼杵市町村振興協議会などの広域的な枠組みにおいて継続して実施し、路線の確保に努める。 ・交通空白地域における交通手段の確保についても検討を進める。

公共交通が果たすべき役割

- ①市町村間の移動を支える鉄道・路線バスの維持と利用促進
- ②高齢者、交通弱者等の移動を支える公共交通サービスの確保・維持
- ③交通空白地域における移動環境の向上



注）都市計画マスタープランの将来都市構造図を参考に作成

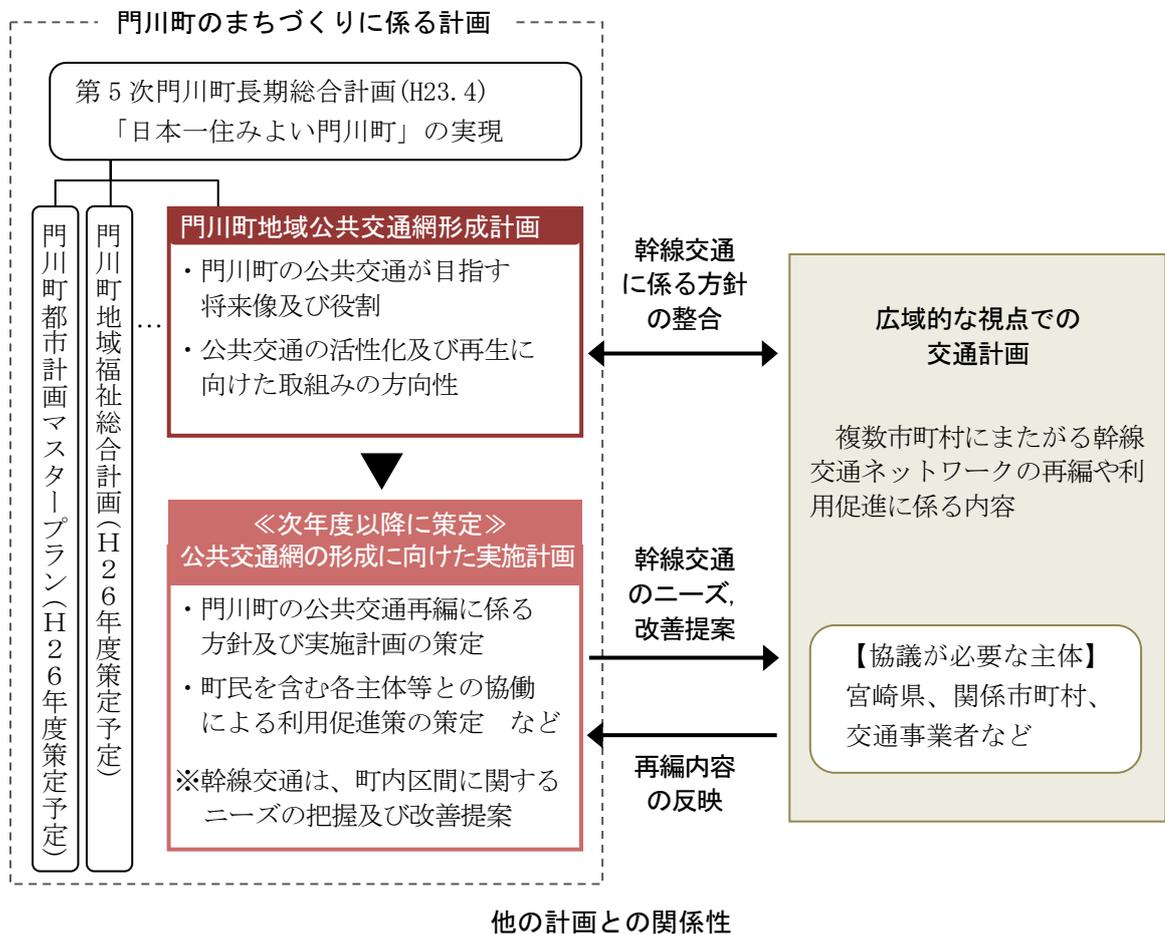
門川町の将来都市構造における公共交通網のあり方

(2) 広域的な視点を踏まえた計画の推進

本計画では、門川町における公共交通の活性化及び再生に向けた取組みの方向性を示す。この方針に基づき、次年度以降、路線やダイヤに関する再編計画、住民等との協働による利用促進策について検討し、公共交通網の形成に向けた実施計画として策定する。

公共交通網の形成に向けた実施計画において、複数市町村をまたがる路線バス等の再編については、隣接する市町村を含む広域的な交通計画と整合を図る必要がある。門川町内のニーズ把握や改善の提案を行いながら、県及び関係市町村、交通事業者と協議を行い、具体的な路線の再編や利用促進を進めていく。

これらを踏まえ、本計画と広域計画との役割分担を下記に定める。



※幹線交通について

本計画の“幹線交通”とは、複数市町村をまたがる鉄道・路線バスを指す。

3 本計画の区域

本計画の区域は、門川町全域とする。また、門川町民の生活行動が日向市・延岡市へ及んでいることを考慮し、複数市町村をまたがる鉄道・既存路線バスも計画対象とする。

ただし、複数市町村をまたがる鉄道・路線バスに係る取組みは、県及び関係市町村、交通事業者等と協議を行って進めるものとする。



本計画の区域

4 計画の目標および評価指標

地域公共交通の活性化・再生に向けた取組みの推進に向けて、各基本方針に基づく計画の目標を下記のように定める。

(1) 「利用者の需要に対応した公共交通サービスの強化」の目標

目標 1 町民の外出実態やニーズに対応した公共交通網への再編

アンケート調査結果や交通弱者への個別訪問調査の結果を踏まえ、町民の外出実態やニーズに合わせた公共交通サービスの見直しを図る。市街地部において、バス停の近くに居住する住民の公共交通の利用率も低い状況にあり、外出したい施設への移動ニーズを再検証し、面的な公共交通ネットワークの再構築を図る。

指標	現況値（平成 22 年度）		平成 31 年度
日常生活における公共交通の満足度	26.7% (長期総合計画)	5%向上 →	32%以上

注) 長期総合計画アンケート調査「日常生活における満足度（公共交通）」において、「満足」「やや満足」の回答割合

目標 2 交通空白地域に居住する交通弱者の移動環境の向上

郊外部の交通空白地域に居住する交通弱者は、親族や隣人等に送迎を頼みながら生活を送る一方で、送迎を頼むことへの遠慮から外出を控えている実態がある。交通弱者が日常生活で利用できる移動手段を検討し、外出行動による健康づくりや知人との交流などの社会参加を促すことを目標とする。

指標	現況値（平成 25 年度）		平成 31 年度
交通空白地域の 該当地区	6 地区	→	0 地区 ※路線バスに限らない

目標 3 広域移動を支える幹線交通の維持

国や県、周辺市町村と協力して、広域移動を支える幹線交通の継続的な運行支援に取り組む。これらの路線バスは、各市町村の生活交通路線として役割を果たしており、運行サービスの見直しによる利用者の減少抑制に取り組み、路線の持続性向上を目指す。

指標	現況値（平成 25 年度）		平成 31 年度
幹線交通を利用する門川町民の割合	2.8%	維持 →	2.8%以上

注) アンケート調査「普段外出する際の移動手段」における「バス」の回答割合

※現況値と目標値の“年度”について

本計画の評価指標は、検証段階で入手可能であることを前提に、取組みの効果を測る指標を設定しており、各指標の現況値および目標値の“年度”は異なる。現況値は指標の数値が測定された年度、目標値は取組みの実施目標となる年度をそれぞれ用いている。

(2)「公共交通のわかりやすい情報提供・利用促進の仕組みづくり」の目標

目標 4 利用促進策の展開による公共交通の需要創出

門川町の約 8 割の住民が日常的に自動車を利用しており、過度に自動車利用へ依存する交通環境の見直しが必要である。公共交通を普段利用しない人に興味・関心を持ってもらうための利用促進を充実しながら、公共交通を利用するキッカケづくりに取り組み、自動車利用へ過度に依存しない町民生活の実現を目指していく。

指標	現況値（平成 25 年度）	3%以上 向上 →	平成 31 年度
日常生活におけるバスの利用頻度	6.3% ※「月数日」以上の割合		10%以上

注) アンケート調査「日常生活におけるバスの利用頻度」における「ほぼ毎日」「週に 1~2 日」「週に 3~4 日」「月に数日」の回答割合

目標 5 わかりやすい情報提供による公共交通の利用促進

門川町を運行する公共交通がより多くの方に利用されるよう、鉄道、路線バス、タクシーの運行情報（運行ルート・時刻表・利用方法など）を入手しやすい情報環境を整備し、利用者にとって使いやすい公共交通環境の見直しを図る。

指標	現況値（平成 26 年度）	→	平成 28 年度
公共交通ガイドの作成・配布	—		公共交通ガイドの全戸配布

(3)「交通事業者・施設との協働による公共交通環境の改善」の目標

目標 6 公共交通を利用しやすい地域拠点の形成

町民の利用頻度が高い商業施設・病院等へのバス停設置や待合環境の充実を図り、公共交通を利用しやすい環境を整えるとともに、コミュニティの場としての活用を目指す。

指標	現況値（平成 26 年度）	→	平成 31 年度
地域拠点形成の協力施設数	—		10 施設以上

目標 7 運行しやすい走行環境の向上

安全・快適な公共交通の運行を維持していくため、地域住民等と協働しながら、運行上の課題箇所の解消に取り組み、走行環境の改善を図っていく。

指標	現況値（平成 26 年度）	→	平成 31 年度
環境改善の取組み数	—		5 事業以上

5 目標を達成するために行う事業および実施主体

本計画の目標を達成するために実施する具体的な事業を以下に整理する。

(1) 「利用者の需要に対応した公共交通サービスの強化」の取組み

目標 1 町民の外出実態やニーズに対応した公共交通網への再編

事業 1 | 外出実態・ニーズに合わせた路線網の再編

●事業方針

町民のニーズに合わせた利便性向上を図るため、日常生活で利用しやすい公共交通網の構築を目指す。

●取組み概要

町民の外出実態やニーズに対応した公共交通網への再編を行うため、門川町の公共交通網の形成に向けた実施計画の策定を目指す（平成 27 年度以降）。

【再編方針】

- ①門川町民の外出実態・ニーズに合わせた面的な公共交通網の再設定
→買い物・通院など、町民のニーズが高い目的施設の経由
→特に高齢者の利用目的、外出時間帯に配慮した運行ダイヤの調整
- ②町内における一定水準の公共交通サービスの提供
→交通空白地域に居住する交通弱者の移動環境の向上【事業 4 にて詳述】
→公共交通利用の不便地域への乗り入れ検討など
- ③門川町における公共交通体系の明確化
→鉄道、路線バス、タクシー、その他交通手段の役割・位置付けを明確化

【門川町の各交通手段の位置付け】

位置付け	モード	路線名（運行エリア）	役割
広域幹線交通	鉄道	JR 日豊本線	通勤・通学、買い物、通院、観光などの利用目的で、町外・県外への移動を支える広域幹線軸
幹線交通	路線バス	日向市～延岡市 イオンタウン日向～小原 ※廃止路線代替バス	買い物、通院、通勤・通学などの利用目的で、町外及び拠点間の移動を支える幹線交通
地域内交通	タクシー	—	その他公共交通で対応できない需要への対応（幹線へのフィーダー、ドア・ツー・ドア、他交通の運行時間外への対応）
	スクールバス	（町内全域）	特認校の指定を受ける西門川小・中学校への通学支援
	無料送迎バス	（町内全域） ※延岡市・日向市東郷町も運行	かどかわ温泉「心の杜」の利用者を対象とした移動支援

●実施主体 : 門川町地域公共交通会議、交通事業者

●実施年度 : 平成 27 年度～

目標1 町民の外出実態やニーズに対応した公共交通網への再編

事業2 | イベントに対応した交通手段の検討

●事業方針

地域行事やイベントの交通面でのサポートを行うことで、交通弱者等の社会参加・外出行動を促すとともに、バスを体験的に利用する機会の創出を目指す。

●取組み概要

かどがわ納涼花火大会や福祉ふれあい祭など、地区の祭りや商業・観光施設でのイベントの開催に合わせ、臨時バス等による参加者の移動手段の確保を検討し、自ら移動できる手段を持たない交通弱者等の社会参加の機会をつくっていく。

また、バス利用によるイベント参加を通じて、普段バスを使い慣れていない町民がバスを体験する機会を増やし、利用転換のキッカケづくりにつなげていく。

●実施主体 : 門川町関係部署、交通事業者

●実施年度 : 平成27年度～

目標1 町民の外出実態やニーズに対応した公共交通網への再編

事業3 | 鉄道・路線バスの接続向上による相互利用の促進

●事業方針

鉄道および路線バスの接続を考慮したダイヤ調整を行い、鉄道・路線バス相互の利便性向上を図る。

●取組み概要

JR 日豊本線と路線バスの運行時間を調整し、門川町民の買い物・通院等に利用しやすいダイヤの見直しを検討する。

また、JR 門川駅については路線バスの乗り場から離れているため、駅へのバスの乗り入れを検討するとともに、駅での乗り継ぎ情報の提供、高齢者の移動時間を考慮したダイヤ調整に取り組む。

●実施主体 : 門川町地域公共交通会議、交通事業者

●実施年度 : 平成27年度～

●事業方針

交通空白地域に居住する交通弱者が、買い物や通院等に利用できる移動手段を検討し、日常生活で支障なく外出できる移動環境を整える。

●取組み概要

「事業1 | 外出実態・ニーズに合わせた路線網の再編」とともに、交通弱者の日常生活での移動手段について検討を行い、門川町の公共交通網の形成に向けた実施計画の策定を目指す（平成27年度以降）。

【検討方針】

①運行エリア

門川町公共交通対策協議会にて抽出された交通空白地域（バス停およびバス停車場所から半径1km以上離れている地域）へのサービス提供

②ターゲット層

交通弱者の買い物・通院など、生活行動に対応した運行を実施

③実証調査の実施

本調査から把握された交通弱者の需要は少なく、一般的な路線バスにこだわらず、少ない需要にも対応し得る移動手段を検討する。小型車両やタクシー等の活用を視野に入れ、地域の実情に合った柔軟な移動手段を選択するため、各地区の需要を確認するための実証調査の実施を前提とする。

●実施主体 : 門川町地域公共交通会議、交通事業者

●実施年度 : 平成27年度～

目標3 広域移動を支える幹線交通の維持

事業5 | 広域移動を支える幹線交通の継続的な運行支援

●事業方針

買い物・通院、通勤などの日常生活で利用される幹線交通の継続的な運行支援に取り組み、町民の移動を支える公共交通サービスを安定的に提供していく。

●取組み概要

複数市町村間をまたがる幹線交通の維持に向けて、県及び周辺市町村と協力した継続的な運行支援に取り組むとともに、町民のニーズに対応した運行ダイヤの調整等に取り組み、利用促進を図りながら幹線交通の維持に努めていく。

また、鉄道と路線バスの接続や市町村間の意向を調整するための体制づくりを進め、広域的な視点で運行サービスを維持・向上するための仕組みを構築する。

●実施主体 : 門川町地域公共交通会議、交通事業者

●実施年度 : 平成27年度～

(2) 「公共交通のわかりやすい情報提供・利用促進の仕組みづくり」の取組み

目標4 利用促進策の展開による公共交通の需要創出

事業6 | 公共交通維持への町民の理解促進

●事業方針

公共交通の必要性について町民の理解を深めながら、「公共交通を守り育てていく」意識を共有し、公共交通を進んで利用しようという町民の意識醸成を図る。

●取組み概要

公共交通の利用者減少の問題、公共交通の必要性や維持に向けて必要な取組みなどについて町民の理解を深めていく。また、環境にやさしい公共交通利用など、公共交通を利用することのメリットを周知することで、公共交通を進んで利用しようという意識の醸成を図り、町民と共に公共交通の維持に取り組んでいく。



バスの利用意識を啓発する広報活動（日向市の事例）

出典：地域内フィーダー系統に関する市町村の取組み事例集（H25.3 国土交通省 九州運輸局）

●実施主体： 門川町、交通事業者、地域住民

●実施年度： 平成27年度～

目標5 わかりやすい情報提供による公共交通の利用促進

事業7 | 公共交通ガイド(マップ・時刻表等)の作成

●事業方針

門川町民の視点から公共交通の運行情報を整理し、わかりやすい公共交通の情報環境を整備する。

●取組み概要

現在、運行事業者のホームページやチラシなど様々な媒体を通じて公共交通に関する情報発信が行われているが、門川町民にとってわかりやすい公共交通の情報を一元化した公共交通ガイド(マップ・時刻表等)を作成し、情報案内の充実を図る。

西之表市街地巡回バス Nishinoomote City Public Transport

「わかさ姫」運行ルートと運行時刻改正のお知らせ 平成 25 年 4 月 1 日から

平成25年4月1日より、バス停留所増設にもない市街地巡回バス運行ルート、および時刻表の改正をおこないます。日曜、祝祭日、年末年始(12/31~1/3)は運休とします。

北まわり

南まわり

北	市街地巡回バス北まわり	南	市街地巡回バス南まわり
停留所	時刻表	停留所	時刻表
1 西之表港発	9:30 10:30 11:30 12:30 14:00 15:00	1 西之表港発	10:00 11:00 12:00 13:30 14:30 15:30
2 西町	9:32 10:32 11:32 12:32 14:02 15:02	2 さかざわ書店前	10:04 11:04 12:04 13:34 14:34 15:34
3 J.A前	9:33 10:33 11:33 12:33 14:03 15:03	3 鶴女町	10:06 11:06 12:06 13:36 14:36 15:36
4 中目医院前	9:35 10:35 11:35 12:35 14:05 15:05	4 市営プール前	10:08 11:08 12:08 13:38 14:38 15:38
5 中西	9:37 10:37 11:37 12:37 14:07 15:07	5 フラッセいり入口	10:11 11:11 12:11 13:41 14:41 15:41
6 松島	9:38 10:38 11:38 12:38 14:08 15:08	6 天神橋	10:14 11:14 12:14 13:44 14:44 15:44
7 桜が丘	9:40 10:40 11:40 12:40 14:10 15:10	7 井元医院前	10:15 11:15 12:15 13:45 14:45 15:45
8 鉄砲館前	9:43 10:43 11:43 12:43 14:13 15:13	8 支庁下	10:16 11:16 12:16 13:46 14:46 15:46
9 市役所前	9:44 10:44 11:44 12:44 14:14 15:14	9 相互信用金庫前	10:17 11:17 12:17 13:47 14:47 15:47
10 多愛病院前	9:45 10:45 11:45 12:45 14:15 15:15	10 鹿児島銀行前	10:18 11:18 12:18 13:48 14:48 15:48
11 鹿児島銀行前	9:46 10:46 11:46 12:46 14:16 15:16	11 多愛病院前	10:19 11:19 12:19 13:49 14:49 15:49
12 相互信用金庫前	9:47 10:47 11:47 12:47 14:17 15:17	12 市役所前	10:20 11:20 12:20 13:50 14:50 15:50
13 支庁下	9:48 10:48 11:48 12:48 14:18 15:18	13 鉄砲館前	10:21 11:21 12:21 13:51 14:51 15:51
14 井元医院前	9:49 10:49 11:49 12:49 14:19 15:19	14 桜が丘	10:24 11:24 12:24 13:54 14:54 15:54
15 天神橋	9:50 10:50 11:50 12:50 14:20 15:20	15 松島	10:26 11:26 12:26 13:56 14:56 15:56
16 フラッセいり入口	9:54 10:54 11:54 12:54 14:24 15:24	16 中西	10:27 11:27 12:27 13:57 14:57 15:57
17 市営プール前	9:57 10:57 11:57 12:57 14:27 15:27	17 中目医院前	10:29 11:29 12:29 13:59 14:59 15:59
18 鶴女町	9:59 10:59 11:59 12:59 14:29 15:29	18 J.A前	10:31 11:31 12:31 14:01 15:01 16:01
19 さかざわ書店前	10:01 11:01 12:01 13:01 14:31 15:31	19 西町	10:32 11:32 12:32 14:02 15:02 16:02
20 西之表港着	10:04 11:04 12:04 13:04 14:34 15:34	20 西之表港着	10:34 11:34 12:34 14:04 15:04 16:04

新しい運行ルート

増設される停留所
西町 中西 桜が丘
市営プール前

移設される停留所
松島 多愛病院前

運賃(1回乗車ごと) 小中学生以上 ¥100

問い合わせ先 西之表市地域公共交通活性化協議会事務局(市役所地域支援課1階) 〒891-3193 鹿児島県西之表市西之表7612 TEL:0997-22-1111(内線215) FAX:0997-22-0295 E-mail:chikishinkou@city.nishinoomote.kg.jp

バス停と施設がわかりやすい路線図(鹿児島県西之表市の事例)

出典: 地域内フィーダー系統に関する市町村の取組み事例集(H25.3国土交通省九州運輸局)

●実施主体 : 門川町、交通事業者

●実施年度 : 平成28年度~

目標5 わかりやすい情報提供による公共交通の利用促進

事業8 | 公共交通の情報発信拠点の充実

●事業方針

鉄道駅やバス停だけでなく、公共交通の情報案内を行う拠点を増やし、町民が公共交通の運行情報などを入手しやすい環境を整える。

●取組み概要

町民の利用機会が多い主要な商業施設や病院、娯楽施設等からの協力を得て、公共交通ガイド（マップ・時刻表等）、PR イベントの開催案内等の情報発信を行い、公共交通の情報案内を町民が日常的に見ることができる拠点の充実を図る。

●実施主体 : 門川町、交通事業者、民間施設

●実施年度 : 平成28年度～

目標5 わかりやすい情報提供による公共交通の利用促進

事業9 | バス停における情報案内の充実

●事業方針

バス停の時刻表のデザインを見直し、わかりやすい情報環境の充実を図る。

●取組み概要

バス停に設置される時刻表について、バスの行き先や乗り換え場所などをわかりやすく伝えるためのデザインへ見直し、利用者のバスの使いやすさを向上する。また、わかりやすい時刻表のデザインを地域住民と一緒に考える等、地域との協働も視野に入れ、取組みを進めていく。

●実施主体 : 門川町、交通事業者、地域住民

●実施年度 : 平成28年度～

目標4 利用促進策の展開による公共交通の需要創出

事業 10 | 公共交通のPR イベントの実施

●事業方針

路線バスや鉄道などの公共交通に興味・関心を持ってもらうためのPRを行い、より多くの町民に公共交通の利用を促すキッカケづくりに取り組む。

●取組み概要

地域のイベントの開催などに合わせ、バスの体験乗車や乗り方教室、車両の展示、子どもへ向けたクイズなど、家族で楽しく遊びながら、普段詳しく知ることができない公共交通の魅力に興味・関心を持ってもらうための企画に取り組む。

また、学校や老人会等を対象に公共交通の乗り方教室などを実施し、公共交通を普段利用しない人の公共交通（徒歩・自転車を含む）への自発的な利用転換を促す。

【H24・H25 宮崎県地域公共交通チャレンジ支援事業の活用事例】



「バス停のベンチ作成」(高原町の事例)



「バス停の乗り方教室」
(延岡市バス利用促進協議会の事例)



「路線バス乗車体験イベント」
(宮崎交通の事例)

出典：宮崎県のバス対策 (H25.3 宮崎県 総合交通課)
宮崎県のバス対策 (H26.3 宮崎県 総合交通課)

●実施主体 : 門川町、交通事業者

●実施年度 : 平成27年度～

●事業方針

公共交通が利用しやすくなるお得な制度の浸透を図る。また、運転免許返納の優遇制度と合わせた公共交通の案内を行い、安心・安全な地域づくりの推進を目指す。

●取組み概要

門川町の悠々バス購入助成補助事業やバス事業者等が発行するお得な乗車券の利用方法・提供場所について、広報かどがわや自治会等を通じた積極的な PR に取り組んでいく。また、運転免許を返納する際に、自治体および事業者が行う優遇制度と合わせた公共交通の情報案内を行うことで、公共交通への利用転換をサポートし、高齢者ドライバーの交通事故抑制に努めていく。

●実施主体 : 門川町、交通事業者

●実施年度 : 平成 27 年度～

(3) 「交通事業者・施設との協働による公共交通環境の改善」の取り組み

目標6 公共交通を利用しやすい地域拠点の形成

事業12 | 公共交通を利用しやすい地域拠点の形成

●事業方針

町民が日常的に集まり、賑わう商業施設や病院、娯楽施設など、地域の中心的な施設等への乗り入れ、待合機能の充実を図り、高齢者にとっても利用しやすい公共交通の拠点づくりを行うとともに、コミュニティの場としての活用を目指す。

●取り組み概要

町民の利用機会が多い商業施設や病院、娯楽施設等を対象に、地域住民や施設関係者と協働しながら、駐車場への乗り入れや施設側近のバス停設置を検討する。

乗り入れについては、乗り入れ場所の安全性、他車両の通行状況に配慮しながら、風雨等を防げる休憩場所やベンチの設置等の利用者が待ち時間を過ごしやすい環境を充実することで、公共交通を利用しやすい場を形成するとともに、コミュニティの場として活用し、知人との交流等を行う地域拠点の形成を目指す。

また、タクシーの電話予約、お茶の提供など、施設側からの付加的なサービス等も協議を行いながら、地域住民が気軽に集まりやすくなる工夫を検討していく。

●実施主体 : 門川町、交通事業者、民間施設

●実施年度 : 平成28年度～

目標7 運行しやすい走行環境の向上

事業13 | 運行ルート上の課題箇所の解消

●事業方針

事業者や地域住民との協働により、運行ルート上の課題箇所の解消に取り組み、利用者が安全・快適に利用するための公共交通の走行環境の改善を図る。

●取り組み概要

路線バスを運行する上で、運行ルートの狭小箇所通行や民家の樹木接触等が運行に支障をきたす場合があり、地域住民や沿道関係者との協議を行いながら、狭小区間における離合空間の確保、民家の樹木剪定、車両規格の適正化等、運行しやすい環境改善に取り組む。

●実施主体 : 門川町、交通事業者、地域住民

●実施年度 : 平成28年度～

事業名	事業の内容	実施主体	実施スケジュール				
			平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
1 利用者の需要に対応した公共交通サービスの強化							
1 外出実態・ニーズに合わせた路線網の再編	●町民のニーズに合わせた利便性向上を図るため、日常生活で利用しやすい公共交通網の構築を目指す。 ●平成27年度以降の「門川町の公共交通網の形成に向けた実施計画」の策定を目指す。	門川町地域公共交通会議、交通事業者	計画策定	関係主体との協議を経て、実現可能なものから順次実施			運行内容の評価・見直し
2 イベントに対応した交通手段の検討	●地域行事やイベントの交通面でのサポートを行うことで、交通弱者等の社会参加・外出行動を促すとともに、バスを体験的に利用する機会の創出を目指す。	門川町関係部署、交通事業者	計画・準備	実施			
3 鉄道・路線バスの接続向上による相互利用の促進	●鉄道および路線バスの接続を考慮したダイヤ調整を行い、鉄道・路線バス相互の利便性向上を図る。	門川町地域公共交通会議、交通事業者	計画策定	関係主体との協議を経て、実現可能なものから順次実施			運行内容の評価・見直し
4 交通弱者の日常生活をサポートする移動手段の検討	●交通空白地域に居住する交通弱者が、買い物や通院等に利用できる移動手段を検討し、日常生活で支障なく外出できる移動環境を整える。 ●平成27年度以降の「門川町の公共交通網の形成に向けた実施計画」の策定を目指す。	門川町地域公共交通会議、交通事業者	計画・実証調査	需要が確認された場合、本格運行へ移行			運行内容の評価・見直し
5 広域移動を支える幹線交通の継続的な運行支援	●買い物・通院、通勤などの日常生活で利用される幹線交通の継続的な運行支援に取り組み、町民の移動を支える公共交通サービスを安定的に提供していく。	門川町地域公共交通会議、交通事業者	実施				
2 公共交通のわかりやすい情報提供・利用促進の仕組みづくり							
6 公共交通維持への町民の理解促進	●公共交通の必要性について町民の理解を深めながら、「公共交通を守り育てていく」意識を共有し、公共交通を進んで利用しようという町民の意識醸成を図る。	門川町、交通事業者、地域住民	実施				
7 公共交通ガイド(マップ・時刻表等)の作成	●門川町民の視点から公共交通の運行情報を整理し、わかりやすい公共交通の情報環境を整備する。	門川町、交通事業者	計画・準備	実施			
8 公共交通の情報発信拠点の充実	●鉄道駅やバス停だけでなく、公共交通の情報案内を行う拠点を増やし、町民が公共交通の運行情報などを入手しやすい環境を整える。	門川町、交通事業者、民間施設	計画・準備	施設との協議が整った箇所から、順次実施			
9 バス停における情報案内の充実	●バス停の時刻表のデザインを見直し、わかりやすい情報環境の充実を図る。	門川町、交通事業者、地域住民	計画・準備	実施			
10 公共交通のPR イベントの実施	●路線バスや鉄道などの公共交通に興味・関心を持ってもらうためのPRを行い、より多くの町民に公共交通の利用を促すキッカケづくりに取り組む。	門川町、交通事業者	計画・準備	事業者との協働で実現可能なものから順次実施			
11 公共交通の特典制度の活用促進	●公共交通が利用しやすくなるお得な制度の浸透を図る。また、運転免許返納の優遇制度と合わせた公共交通の案内を行い、安心・安全な地域づくりの推進を目指す。	門川町、交通事業者	実施				
3 交通事業者・施設との協働による公共交通環境の改善							
12 公共交通を利用しやすい地域拠点の形成	●町民が日常的に集まり、賑わう商業施設や病院、娯楽施設など、地域の中心的な施設等への乗り入れ、待合機能の充実を図り、高齢者にとっても利用しやすい公共交通の拠点づくりを行うとともに、コミュニティの場としての活用を目指す。	門川町、交通事業者、民間施設		協議検討	施設との協議を経て、実現可能なものから順次実施		
13 運行ルート上の課題箇所の解消	●事業者や地域住民との協働により、運行ルート上の課題箇所の解消に取り組み、利用者が安全・快適に利用するための公共交通の走行環境の改善を図る。	門川町、交通事業者、地域住民		計画	実現可能な課題解消策を継続的に実施		

事業の実施スケジュール

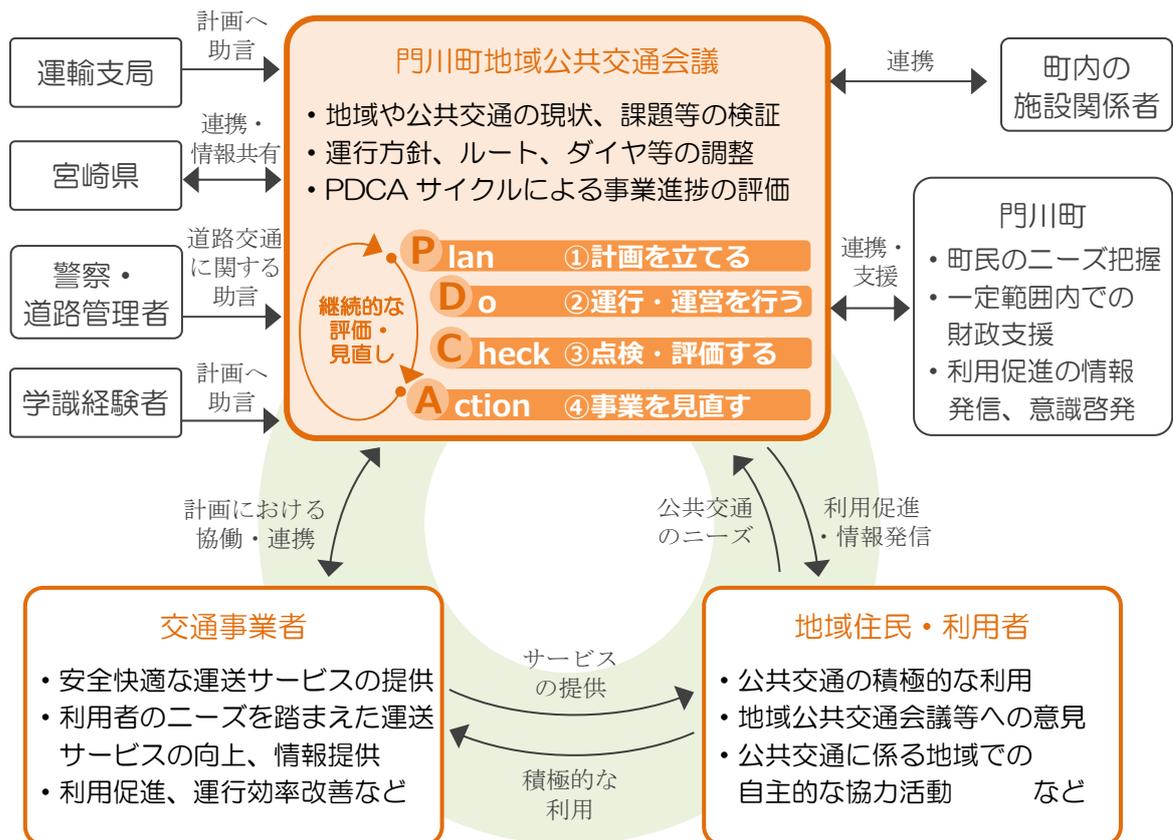
6 計画期間

本計画の計画期間は、事業の見直し期間、門川町を取り巻く社会情勢の変化等を考慮し、平成27年度～平成31年度の5箇年とする。

7 達成状況の評価と見直しの体制

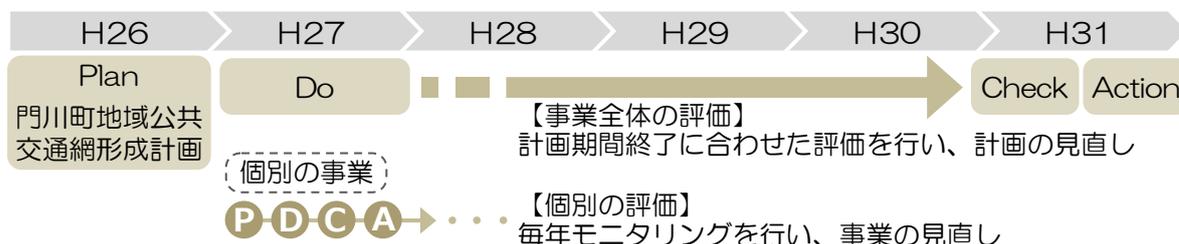
本計画で策定した個々の取組みについては、計画の達成状況や社会情勢の変化に合わせ、適宜見直しを行っていく必要がある。計画目標として定めた指標、住民ニーズや財政負担状況に基づき、PDCAサイクルによる評価を実施しながら、事業内容や目標の見直しを繰り返し行っていく。

また、達成状況の評価については、門川町地域公共交通会議を中心として実施する。公共交通の維持・活性化を図るため、行政や交通事業者、地域住民、町内の商業・病院施設等の関係者など、多様な主体が関与しながら計画を推進していく。



達成状況の評価と見直しの体制

PDCA サイクルによる評価の進め方は、事業全体の評価を平成 31 年度に行うとともに、個別の評価として進捗状況のモニタリングを毎年行い、個別事業ごとに見直しを進める。



PDCA サイクルによる評価の進め方

評価の考え方と測定方法

指標	現況値(H26)	目標値(H31)	評価の考え方・測定方法
日常生活における公共交通の満足度	26.7% (H22 ^{※1})	32%以上	≪評価時期≫平成 31 年度 ≪評価方法≫町民が外出したい施設へのバス路線の経由、鉄道とバスの接続改善、交通空白地の移動環境向上などの取組み効果を把握するため、門川町民を対象としたアンケート調査を行い、公共交通に対する満足度を検証
交通空白地域の該当地区	6 地区	0 地区	≪評価時期≫公共交通の再編実施後 ※毎年 ≪評価方法≫交通空白地域を公共交通が利用可能な地域へ改善した結果を検証するため、バス停から 1km 以上の圏域に該当する地区を把握 ※バス等の手段以外で支援を行う地区を除く
幹線交通を利用する門川町民の割合	2.8% (H25 ^{※2})	2.8%以上	≪評価時期≫平成 31 年度 ≪評価方法≫運行サービスの見直し、利用促進策などの取組み効果を検証するため、門川町民を対象としたアンケート調査を行い、幹線交通を利用する町民の割合を検証
日常生活におけるバスの利用頻度	6.3% (H25 ^{※2})	10%以上	≪評価時期≫平成 31 年度 ≪評価方法≫公共交通のPR、町民への利用啓発などの取組み効果を検証するため、門川町民を対象としたアンケート調査を行い、日常生活でバスを利用する町民の割合を検証
公共交通ガイドの作成・配布	—	公共交通ガイドの全戸配布	≪評価時期≫平成 28 年度 ≪評価方法≫すべての公共交通（鉄道・路線バス・タクシー）の運行情報を入手しやすい環境が整った結果を検証するため、公共交通ガイドの世帯配布状況を把握 ※H31 アンケート調査で、公共交通ガイドによってわかりやすい情報環境が整っているか、検証することが望ましい
地域拠点形成の協力施設数	—	10 施設	≪評価時期≫毎年 ≪評価方法≫バス停設置や休憩スペース確保などに協力を得られる町内施設を増やしていく取組みの達成状況を検証するため、協力を得られた、または協力意向を示す施設数を把握
環境改善の取組み数	—	5 事業以上	≪評価時期≫毎年 ≪評価方法≫運行しやすい走行環境の改善に継続して取り組んでいる結果を検証するため、走行環境の改善を目的とした取組み数を把握 ※H31 まで毎年 1 事業以上取り組むことを目標

※1) 長期総合計画アンケート調査「日常生活における満足度（公共交通）」において、「満足」「やや満足」の回答者割合

※2) 本計画のアンケート調査「普段外出する際の移動手段」において、「バス」の回答者割合

※3) 本計画のアンケート調査「日常生活におけるバスの利用頻度」において、「ほぼ毎日」「週に1～2日」「週に3～4日」「月に数日」の回答者割合

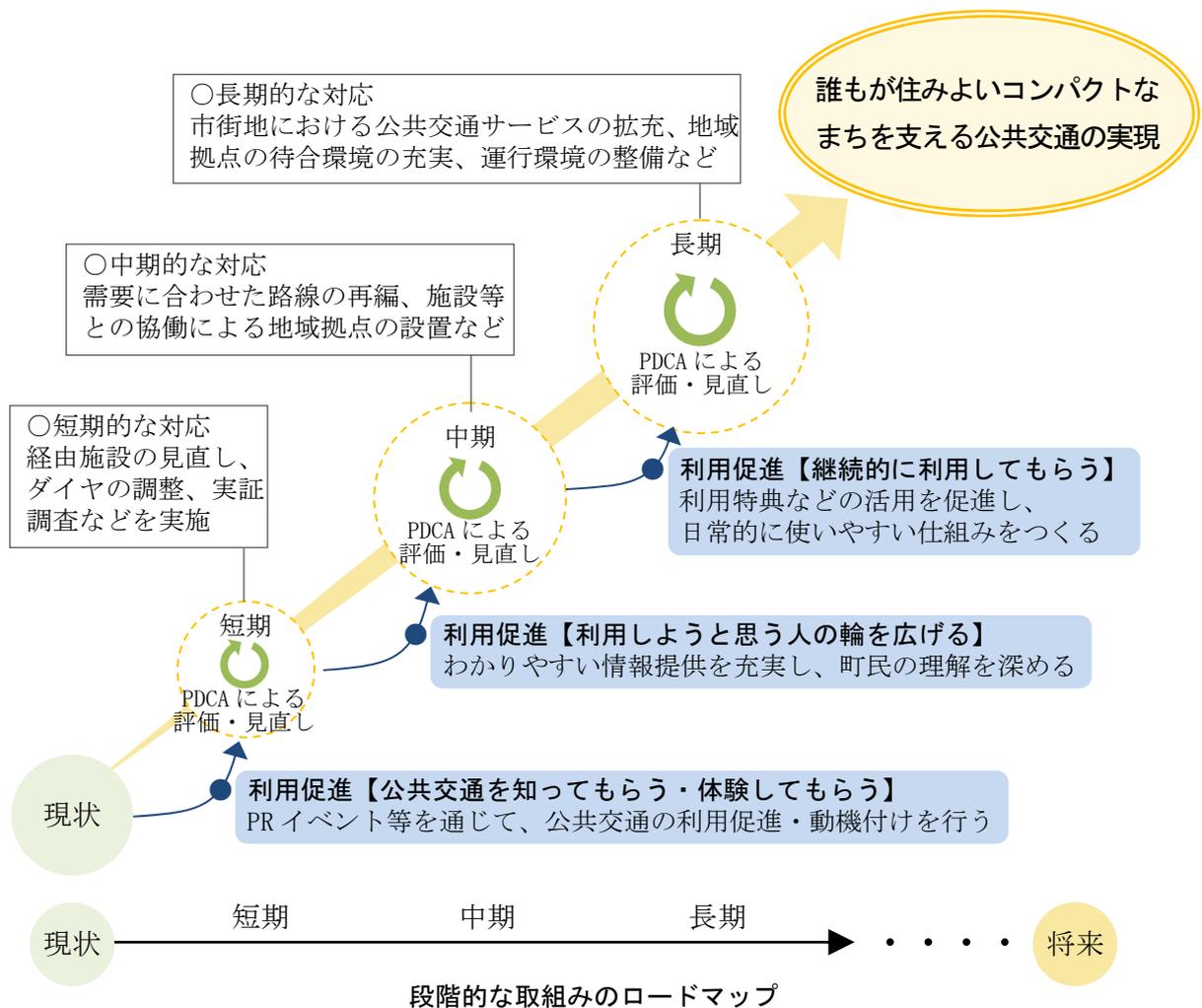
8 「公共交通を守り育てていく」町民意識の醸成

地域公共交通は、“地域の人々に広く利用される”ことを前提とした「まち」の仕組みであり、将来に維持していくためには、行政や交通事業者だけでなく、地域住民、商店・病院等を含む多様な主体が「公共交通を守り育てていく」という共通意識を持つことが重要である。

本計画の事業に取り組む段階では、利用しやすい公共交通サービスへ見直していくことと合わせて、地域住民に対して、公共交通の積極的な利用を呼び掛ける取組みを行い、地域が一体となって「公共交通を守り育てていく」意識の醸成を図っていく。

9 将来像を実現するための段階的な計画の推進

PDCAサイクルによる評価・見直しを繰り返していくことで、本計画の取組みをステップアップし、本町が目指すまちづくりの実現を目指していく。



作成 門川町地域公共交通会議

本資料についてのお問い合わせは

門川町地域公共交通会議事務局（門川町企画財政課 企画政策係）

〒889-0696 宮崎県東臼杵郡門川町本町1丁目1番地

TEL：(0982)63-1140 FAX：(0982)63-1356